Vol.73 通巻838号　平成4年1月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1992

1

特集

夢物語―人がかわる、街がかわる―

日本建築協会



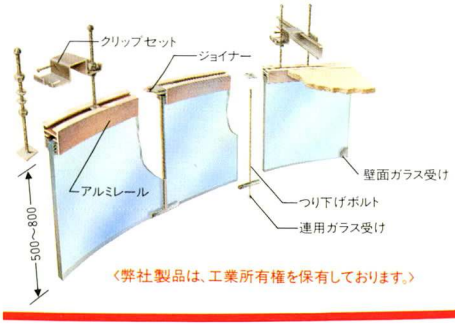
ボウタレ百貨　三好式ガラス防煙垂壁

製　造
発売元　株式会社 ミヨシ

本社／〒730 広島市中区紙屋町2-2-38 ☎082-248-0344 FAX082-247-3479
関東／〒105 東京都港区浜松町2-2-15ダイヤハイツ内 ☎03-3432-4641 FAX03-3433-2820
関西／〒636 奈良県磯城郡田原本町新町307 ☎07443-3-4431 FAX07747-6-4907
九州／〒815 福岡市南区長丘5-11-20 ☎092-561-1675 FAX092-511-9119
●上記の他、各地区に代理店があります。

曲線美

任意のアール納まりによる防煙垂壁、
設計意図に合わせた安全の仕組みをご考察ください。



〈弊社製品は、工業所有権を保有しております。〉

合理的なガラス防煙垂壁

実用新案 M式ツリコ

M式ツリコは、ガラスと豊富な部材の組み合せにより、
特殊な納まりにも、豪華なオリジナルにも、極めて合理的な
作業工程でお応えいたします。
「ボウクレ百貨」それがミヨシの
M式ツリコです。



謹賀新年

1992年を迎えて

社団法人　日本建築協会会長　佐野正一

新年を迎え、建築界の繁栄と皆様のご多祥を心から祈りあげます。

わが国の経済は86年度から好況に転じ、以後5年余にわたって好調がつづきました。積極的な設備投資が行われ社会の活性化が進行した反面、建設資材と労務の逼迫や地価の高騰を招くなど行き過ぎの事態が生じ、抑制措置がとられた結果、昨年半ばから景気減速に転じ、新年を迎えることになったのであります。

しかし、生活の基盤である公共施設への投資はまだまだ不十分であり、民間事業の投資も、新規事業のほかに合理化や省力化のための投資はこれから本格化する段階にあります。公共投資、民間投資に関連して、豊かな社会をめざし都市再開発や活性化のプロジェクトが始められようとしている際であり、経済成長がバランスを失しないよう注意を払いながら、着実なペースで今後も拡大してゆくことを期待したいと思います。

この数年間、建築界は多忙でありました。計画規模はひとまわり大型になり、高度複雑な技術が次々に開発され、成熟を見ました。一時代前の建築様式を脱し、多彩で新鮮なコンセプトが新たに登場して、価値判断の基準が変わってきたことを感じさせるようであります。建築技術の質的な転換が進行していると考えてよいのではないでしょうか。

建築界が拠りどころとしてきた態勢が時代の流れから見て少し古くなり、いろいろな点で時代への適合性にほころびを生じているようであります。建築という大きな仕事の将来に備えて、大局的に工夫をしておきたい、そのように考えるのであります。

日本建築協会は大正期の初め、建築という「技芸」に関わるすべての人びととその知恵を集めて発足した、ユニークな組織と行動パターンをもつ団体であります。「技芸」に関わる仕事の重要性は、将来とも少しも変わるものではありますまい。しかしこれを支える人と技術は時代の流れとともに大きく揺れることは避けられず、建築という仕事の規模と内容は一層大型に多彩に変化してくることは疑いないところであります。各分野に位置している会員各位相互の意思疎通と協力がなによりも大切であり、それによって建築界の進路に誤りなきように相互の理解を深めて、合意を重ねてゆくように進めてまいりたいと望んでおります。

今年が各位にとって実り多い年になりますように、重ねて祈りあげます。

皆様の忌憚のないご意見を —編集委員会—

編集委員長　溝神宏至朗

昨年は、「建築と社会」の創刊号以来の復刻版が刊行されました。会の機関誌として、大正、昭和の激動の75年、発行を続けてきたという意義を痛感し、編集にかかわる者一同、気持ちを新たにしているところです。

魅力的な雑誌であるための課題は数多いのですが、最大懸案の月内発行の励行は、昨年夏頃から月末ぎりぎりとはいえ、どうにか実現し続けておりますが、今年は少しでも前倒しにして月内発行をゆるぎのないものにしたいと考えております。雑誌の内容は今年も、テーマ特集を柱に、作品紹介や作者経歴の紹介等、多彩な組み立てにしていきますが、内容と厚みのバランスをとり、ばらつきの少ない安定感を雑誌にもたせることも必要です。

情報化社会の中にあって、他誌におくれをとらない雑誌であるためには、ひとりでも多くの会員の方々から忌憚のないご意見をいただくことが、何にもまして大切なことだと考えております。昨年同様、本年もよろしくお願いいたします。

会員とともに企画する —事業委員会—

事業委員長　多井幸男

事業委員会は、見学会、広報、若い会員の集いの３委員会で構成され、会員各位の親切なご意見や情報をもとに、熱心な委員の尽力によりまして、おかげさまで充実したテーマ、企画を行っております。本年も75年の伝統にもとづき、会員の皆様のご期待に応えるべく、見学会、講演会、映写会、展示会など、さまざまな企画を予定しておりますので、相変わりませずお気軽にご参加のほどお願いいたします。

また企画に対するご意見、情報など、どしどしお寄せ下さいまして、さらなる会の発展のため、ご支援を賜りますようお願いいたします。

会員からの情報を活性化の手立てに —出版委員会—

出版委員長　須賀好富

出版委員会は月１回のペースで鋭意委員会をもち、

(1)新しい企画を行い、充実した出版活動を推進していく

(2)発刊した図書をベースとして講習会を開催し、広く会員に対する情報の提供を行う

を目指して活動していく。

幸い昨年秋から新しい委員の増員がなされ、委員会も活発になってきた。出版部数を拡大し、当協会の発展に寄与したいと思っている。委員会で一番頭が痛いのは「適切な企画」に対する「適切は執筆者」の不足の問題である。もし会員諸氏からこれに対して何らかの情報があれば、ぜひご一報いただき、なお一層出版委員会を活性化させていく手立てにしたいと思っている。

ご協力とご支援をお願いして新年の抱負とする。

教育用ビデオへの期待 —教育委員会—

教育委員長　片倉健雄

教育委員会は、実務講習と工高生教育という直接の関係が少ない二つの小委員会で構成されていますが、昨年の会議の中から、新しい接点が浮かび上がってきました。

教育や研修の場で視聴覚教材が有効であることは十分承知されていることですが、いざ実用化するとなると意外に難しく、スライドとOHPがもっぱら用いられている程度です。ビデオが普及しても、適切な教材用ビデオテープが少ないことが壁になっています。

「建築施工」はそのニーズが最も強い分野であり、大学、工高を問わず、さらに企業の新入社員や中堅技術者を対象にしたものが充実すれば、その効果ははかりしれないものがあると思われます。

このようなことから、既存のビデオテープについて多少の情報を集めはじめましたが、今年は会員の皆様にご協力をお願いして情報収集を進めるとともに、教育と実務の新たな接点となるビデオライブラリーを作ることを目指して、検討を進めたいと考えております。よろしくご支援を賜りたいと存じます。

真に役立つ建材情報の提供を考える —建材委員会—

建材委員長　金井弘次

本誌「新建材紹介コーナー」も191回になりました。本年中には記念すべき200回目を迎える予定でありますが、本年も委員の皆さんの協力で、さらに「会員のお役に立つ、新建材の紹介」を念頭に、取り組んでまいりたいと考えております。

ご承知のとおり、一口に建材といってもその種類は多種多様で、素材から複合材、構造材から仕上材、また伝統的建材からハイテク建材、といった広範な分野におよんでいます。建材委員会では、毎月の定例会で委員から提案されたこれらの建材について、研究討議のうえ、本誌で紹介することになっていますが、限られた時間と紙面の中で、メーカー側の協力も得ながら、何をとりあげるかが大きな課題であります。

今日の高度情報化社会にあって、当委員会によるささやかな建材情報の提供が、真にお役に立つものとなるために、会員の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

グリーンセミナー　鷲尾金弥氏を囲んで

第1回　1992年 1 月21日(火) 14：00～16：00　　**第2回　1992年 3 月10日(火) 14：00～16：00**

花博の開催を一つの契機として、都市や建築内部へ「はな・みどり」を積極的に導入することが時代の大きな流れとなってきている昨今です。そこで、このたび、花博の園芸プロデューサーの大役を務められた鷲尾氏を囲んで、2回にわたり「グリーンセミナー」を開催する運びとなりました。

鷲尾氏は、花博を始め、諸外国での仕事にも数多く携わってこられ、「はな・みどり」の知識と経験が豊富で、しかも建築を含めた環境計画の原点に対する確かなフィロソフィーをお持ちの造園設計家であります。

第1回は、都市や建築内部における「はな・みどり」の基本的な考え方について

第2回は、建築の内部や周辺における「はな・みどり」の取り扱い方について

鷲尾氏の豊富な経験をもとに、スライドによる実例を交えて、お話しを願う予定です。

多数のご参加をお待ちしております。



都市時代における花（みどり）の文化の創造

ご存じのように、昨年大阪で花の万博が開かれ、2,300万人もの入場者で賑わい、興業的には大成功であったとされました。しかしこの博覧会の開催主旨の一つにうたわれていた「よりよき都市の環境の創造」には何を残し得たのでしょうか。都市に緑のフレームワークがずいぶんと確立された今日でも、トンボやホタルの生息地を都市の中に作り出そうというような、これを基盤とした自然の連鎖や、よりデリケートな自然物を導き入れる試みはようやくその緒についたところです。このような都市生活者の心情に訴えかけるものの一つに花がありますが、この花を扱う園芸という行為は、いわゆる緑化活動の中でもより直接的な人間行為を伴うものです。花を扱う園芸の分野は、フラワーデコレーションや生け花のような抽象的な創作の分野と具体的で成り行きまかせの要素の多い緑の分野の中間に位置するファジーで扱いにくい世界であるということができます。

今年から国をあげての花の街作り運動がはじめられようとしていますが、このような運動を成功へ導くためにも、この機会に、なぜ、そして本当に、街に花が要るのか、という設問に対してどんな答えを用意するべきかを一緒に考えてみたいと思います。

一方、われわれにとってはデザイン要素である花は生き物でもあって、利用目的に向けて人為的に改造された園芸品種であれ、自然からそのまま持ち込まれたものであれ、環境とのかかわりの中に生きてきています。都市における花の扱いがとかく煩雑で理解しにくいのは、花の生活にとって好ましい環境条件がそれぞれの花によって異なっており、加えて、生き物であることによる環境への適応力のあいまいさにもとづくものです。生きた花のデザインは盛衰やその繰り返しという特徴によって、建築やもののデザインとは本質的に異なるので、都市で花を扱うための個々の花の特性や、園芸という技術的観点からの基本論について整理してみたいと思います。

（鷲尾金弥）

鷲尾金弥（わしお　きんや）



1936　伊丹市生まれ
59　大阪府立大学農学部園芸学科卒業　花弁学専攻
60～63　同大学助手
64　カリフォルニア村田真珠会社社員として渡米
70　カツラウエスト・デザイン会社設立（米国）
74　ワシオアソシエイツ有限会社設立（米国）
——2000坪の温室をもつ約20haの農園（カリフォルニア州サンディエゴ市）シキエンナーセリーでスーパーマーケットを対象とした観葉植物の生産（年間15万鉢）と卸、流通などを行う
80　帰国、㈱荒木造園設計事務所取締役企画部長
91　㈱ワシオアソシエイツ代表取締役
——カラフルランドスケープの企画、技術開発
——新品種・希少植物等の輸入、普及
キンヤワシオアンドアソシエイツ連絡事務所を米国（カリフォルニア州サンディエゴ市）に設立
㈱日本花普及センター評議員兼務

●博覧会・イベント関係
1983　第1回全国都市緑化フェア　会場基本計画担当
86　兵庫県おのころ博　花壇設計
ユーロ・フローラ（イタリア・ジェノア）日本代表出展プロデューサー
88　兵庫県ホロンピア博　花壇設計
90　国際花と緑の博覧会　園芸プロデューサー
91　フロリアード92　日本国政府屋内出展プロデューサー

●技術士（都市及び地方計画部門）



会　場　㈳日本建築協会サロン（大阪駅前第3ビル21F）
定　員　30人（申込多数の場合は抽選）
参加費　各回　会員 1,000円、一般 1,500円（含、消費税）
申　込　ハガキ、FAX、電話で、第1回は1月13日(月)までに、第2回は3月2日(月)までに㈳日本建築協会事業課へお申し込みください。
1)催し名（グリーンセミナー第○回）、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号をお知らせ願います。

㈳日本建築協会事業課
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 348-0634　TEL 348-0633

＊参加証を、第1回1月14日(火)、第2回3月3日(火)に発送します。

坂本龍馬記念館の設計をめぐって
—高橋晶子氏講演会—

坂本龍馬の156回目の誕生日にあたる1991年11月15日、黒潮躍る太平洋を一望する桂浜公園の丘陵に「坂本龍馬記念館」がオープンしました。

龍馬の偉大な功績をたたえ、その足跡を後世に伝えることにより、未来を担う青少年の郷土への誇りを育み、高知の活力のアップ、新たな個性づくりに貢献したいとの意図をもって建設されたこの記念館は、1988年9月全国公開コンペで475点に及ぶ応募作の中から最優秀に選ばれたもので、若手女性建築家、高橋晶子氏の代表作ともいえる力作です。

今回の“坂本龍馬記念館の設計をめぐって”と題した企画は、高橋晶子氏に、コンペ案作成から建物竣工・オープンに至るまでの過程を、スライドを交えながら語っていただこうとするものです。

皆様の多数のご参加をお待ちしています。



●建築概要

所 在 地　高知市浦戸字城山830
設　　計　ワークステーション
施　　工　大成・大旺ＪＶ
建築面積　1,199.47㎡
延床面積　1,787.25㎡
構造規模　RC＋S、B2、2F
設計期間　1988年9月—1990年3月
施工期間　1990年4月—1991年8月



●高橋晶子(たかはし　あきこ)

1958　静岡県生まれ
1980　京都大学工学部建築学科卒業
1986　東京工業大学大学院博士課程をへて篠原一男アトリエ勤務
1988　高橋寛氏とワークステーション設立
　　現在に至る

受賞

1986　日本建築学会主催建築環境設計競技屋上の設計入賞
1988　坂本龍馬記念館最優秀賞受賞

●ワークステーションの主な作品

1990　建築と現代美術展
1991　5 SPANS HOUSE
1991　坂本龍馬記念館

日　時　1992年1月24日(金)　開場18:00 開会18:30—閉会21:00

会　場　イトーキ・クリスタルホール
（イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー9階／大阪市中央区淡路町1-6-11）
＊地下鉄「堺筋本町駅」「北浜駅」から徒歩約5分

定　員　100人（申込多数の場合は抽選）

参加費　会員　800円、一般 1,000円（含、消費税）

申　込　1月16日(木)までに、(社)日本建築協会事業課へお申し込み下さい。
(1)催し名(坂本龍馬記念館の設計をめぐって—高橋晶子氏講演会—)、(2)氏名、(3)会員・一般の別、(4)勤務先、(5)参加証送付先、(6)電話番号、をお知らせ願います。
(社)日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 06-348-0634　TEL 06-348-0633
＊参加証を1月17日(金)に発送します。

主　催　社団法人日本建築協会
事業委員会・若い会員の集い小委員会／松隈　章、内仲　毅、龍野豪利

協　賛　株式会社 イトーキ
講演会会場は、ショールーム（AM10:00～PM6:00オープン）の最上階にあります。
時間に余裕のある方は、講演会前にニューオフィスのショールームもぜひ御覧下さい。

伊丹アイフォニックホールと白雪酒造蔵を訪ねる

12月8日にオープンしたばかりのクラシック音楽を主目的とした〝伊丹アイフォニックホール〟と、1583年に建てられた現存する日本最古の酒造蔵〝白雪酒蔵・万才一号蔵〟を見学し、歴史ある古い町並みを継承するとともに、人々の出会いの場として「劇場都市」を目指す伊丹市の公共建築・町づくりについて、その一端をご紹介いただきます。

伊丹アイフォニックホールは、つつじの花をモチーフにしたデザインや曲線で構成された空間が興味を引くことでしょう。そして白雪酒蔵では、今がしこみの時期、古い酒蔵としこみの見学のほか喇き酒もお試しいただける予定です。

日　時　1992年 **1** 月 **28** 日(火)12:00-16:00
見学先　伊丹アイフォニックホール、小西酒造（白雪）万才一号蔵
集　合　伊丹アイフォニックホール玄関ホール
（兵庫県伊丹市宮ノ前1-3-30）
＊阪急・JR「伊丹」駅より徒歩約10分
定　員　30人（申込多数の場合は抽選）
参加費　会員1,500円、一般2,000円（含、資料代、消費税）
申　込　1月21日(火)までに、ハガキ、FAX、電話で㈱日本建築協会事業課へお申し込みください。
1)催し名（伊丹アイフォニックホールと白雪酒造蔵を訪ねる）、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号をお知らせ願います。
㈱日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 348-0634　TEL 348-0633
＊参加証を1月22日(水)に発送します。


伊丹アイフォニックホール・遠望

●建築概要
所在地　伊丹市宮ノ前1-3-30
設　計　環境開発研究所
施　工　竹中工務店・前田建設工業JV
敷地面積　1,933㎡
建築面積　1,422㎡
延床面積　4,179㎡
構造規模　RC(一部S)、B1、4F
工　期　1989年3月～1991年12月

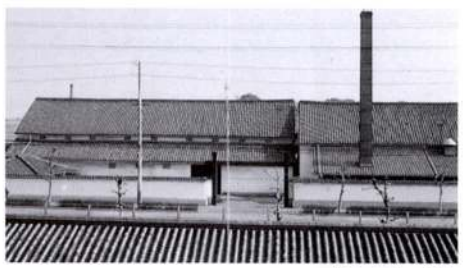
古い町並みがそこかしこに残り、酒造業で栄えた江戸期を感じさせる伊丹市の中心市街地は、当然のこととはいえ、道は狭く、広場も見当たらない。

この中心市街地のほぼ中央に位置する宮ノ前地区に、約2haの第2種市街地再開発事業が今行われつつある。まずそのトップを切って第1街区に伊丹市が特定建築者となって音楽ホールを建設した。用地の確保が遅れてはいるものの、今後次々と残る三つの街区の建設に着手する予定である。

さて、伊丹市には築後約30年を経ようとする文化会館と、1998年に竣工した小劇場ホール〝アイホール〟（フリーフロアー、フリースペース約250席）があり、今回の音楽ホールと合わせて三つの劇場（ホール）を持つこととなり、劇場都市としての舞台づくりが着々と進んでいる。

この音楽ホールは名付けて〝伊丹アイフォニックホール〟。客席508、小ホール2室、練習室3室の中型タイプであり、クラシック音楽を主目的としたホールとして設計されている。平面図でみると市民の花「つつじ」を模しており、外観は特注タイルに御影石でアクセントをつけた古典的で彫りの深い造型物となっている。古い町並みと対照的にヨーロッパ的な建築物が、いずれ市民の目に自然な景観として受け入れられるであろうが、当分の間はいろいろと話題を提供することになるだろう。

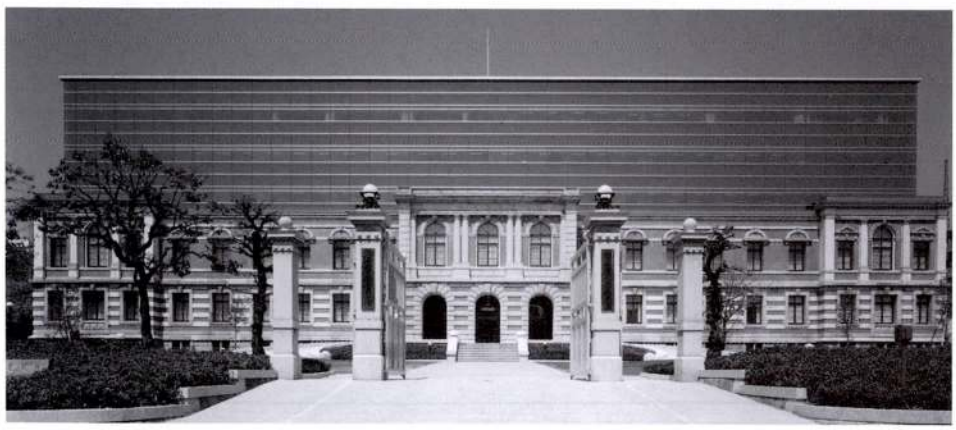
（神影滋男／伊丹市企画調整室長）


白雪・万才一号蔵

神戸地方・簡易裁判所合同庁舎見学会 —近代建築再生シリーズ—

日　時　1992年 **2** 月 **1** 日(土)13:00-15:00
集　合　現地、1階ホール（神戸市中央区橘通り2-2-1）
＊JR神戸駅より北へ徒歩約5分
定　員　30人（申込多数の場合は抽選）
参加費　会員1,000円、一般1,500円（含、資料代、消費税）
申　込　1月24日(金)までに、ハガキ、FAX、電話で㈱日本建築協会事業課へお申し込みください。
1)催し名（神戸地方・簡易裁判所合同庁舎見学会）、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号をお知らせ願います。
㈱日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 348-0634　TEL 348-0633
＊参加証を1月27日(月)に発送します。

●建築概要
所在地　神戸市中央区橘通り2-2-1
設　計　建設省近畿地方建設局営繕部
施　工　竹中・安藤・日本国土開発JV
敷地面積　11,515㎡
建築面積　3,777㎡
延床面積　18,947㎡
構造規模　SRC(一部RC)、B1、5F、P1
工　期　1989年3月～1990年11月



保存そして再生へ

旧庁舎はドイツ・ルネッサンス様式と言われる赤煉瓦と花崗岩・白タイルのコントラストの美しい3階建の庁舎であったが、昭和20年の戦火に遭い、外壁を残すのみで焼失した。

今回その外壁の一部（南正面及び東・西面）を利用して、旧面積の3倍強の床面積を持つ庁舎として再生することになった。

強く主張を表現しているレンガ壁、手作業による繊細なディテール等との対比、形態の相違等に種々検討を重ねた上でホリゾント効果を狙ったガラスのカーテンウォールを採用するに至った。このガラスの箱によって明治の外壁を強調するとともに、未来へとつながっていくことを願っている。

（建設省近畿地方建設局営繕部）

ミズノ大阪本社ビル見学会

日　時　1992年 **2** 月**22**日㈯13:30-16:00
集　合　現地（大阪市住之江区南港北１）
＊大阪市営ニュートラム「中ふ頭」駅下車約５分
定　員　50人（申込多数の場合は抽選）
参加費　会員1,000円、一般1,500円（含、資料代、消費税）
申　込　２月14日㈮までに、ハガキ、FAX、電話で㈳日本建築協会事業課へお申し込みください。
1)催し名（ミズノ大阪本社ビル見学会）、2)氏名、3)会員・一般の別、4)勤務先、5)参加証送付先、6)電話番号をお知らせ願います。
㈳日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 348-0634　TEL 348-0633
＊参加証を２月17日㈪に発送します。

敷地は、大阪市が21世紀に向けた新しい街づくり「テクノポート大阪」の中心地となるコスモスクエアに位置し、WTCやATC、ホテルや国際会議場なども予定されている関西の国際ビジネスゾーンとして今後の発展が期待される地域にある。
建物は、この地域のランドマークとして、またミズノ全社員のシンボルとして計画された。高さ147m、クリスタルに輝くタワービルは、世界へ発展する企業の象徴であり、遠く大阪湾を行き交う船からも遠望できる。低層部はスポーツニューライフスタイルの提案の場として開放されたショールームやイベントホールが設けられ、中高層部は本社インテリジェントオフィス、そして最上部には大阪湾や六甲の山並みが一望できるスカイラウンジが設けられた。
また社会の高度情報化に対応した快適なオープンオフィスとして、最新技術を駆使した設備システム、防災システムを採用、さらに雨水、中水の再利用など、省エネルギーにも考慮した。
（野田泰弘／日建設計）



●建築概要
所 在 地　大阪市住之江区南港北１
設計監理　日建設計
施　　工　大林・鹿島・鴻池・錢高JV
面　　積　敷地面積／15,528.87㎡　建築面積／3,614.83㎡　延床面積／46,812.76㎡
構造規模　S、SRC、RC、B３、3lF、Pl
最高高さ　147.00m
外　　装　高層／アルミカーテンウォール　フッ素樹脂焼付塗装、低層／磁器質タイル
工　　期　1989年６月―1992年２月

「建築と街づくりを考える―PART３―」

「都市開発における職能のあり方」

〈弁天町再開発・ORC200（公有土地信託事業）をケーススタディとして〉―日本建築協会協賛―

弁天町の再開発事業は、わが国最大の公有土地信託事業として注目をあびている。４つの銀行が受託し、アミューズメント施設をはじめとする企画・運営にはプランナー会社が参画するなど、官民のさまざまな主体が、事業を推進している。また、設計段階ではコンペ方式を取り入れるなど、ユニークな試みがなされている弁天町再開発〈ORC 200〉を今回は取りあげる。主催は日本建築学会近畿支部。

●**見学会**（13:00~14:00）「大阪市ORC（オーク）200　パラディッソ」
●**討論会**（14:30~17:00）
場所：交通科学博物館ホール（大阪市港区波除３　☎06-581-5711）
①行政における公有土地信託事業の役割／辻江賢治（大阪市）
②複合主体のコーディネイト／溝神宏至朗（安井建築設計事務所）
③都市開発の一環としての土地信託事業の立場／青木秀生（ORC200推進室）
④複合開発の中での事業企画／矢野　治（西洋ランドシステムズ）
⑤官民共同事業の都市経営的評価／高寄昇三（甲南大学）

集合日時　1992年 **2** 月 **7** 日㈮12:45分（時間厳守）
集合場所　ORC（オーク）200　パラディッソ１階アトリウム
（大阪市港区弁天1-2-1、JR・地下鉄「弁天町駅」下車）
定　　員　200名（先着順）
参 加 費　1,000円（資料代含む、当日受付場所にて徴収）
申込方法　はがきまたはFAXで、所要事項を明記し、日本建築学会近畿支部事務局（大阪市西区靱本町1-8-4、TEL 06-443-0538）へ１月31日㈮までにお申込み下さい。

平成4年度1級・2級建築施工管理技術検定試験

受験準備講習会 ―日本建築協会後援―

平成４年度の１級建築施工管理技術検定試験（学科試験）の試験日は６月14日㈰、２級は10月18日㈰となっており、受験申込は１級が２月14日～２月28日、２級が７月24日～８月７日に受け付けられますが、それに先立ち、受験のための講習会が下記のように行われます。
講習会の主催は、建築施工管理技術研究会。

対　象　１級および２級建築施工管理技術検定試験受験予定者
受講料　●１級
２日間コース（８時間×２日＝16時間）25,000円
３日間コース（６時間×３日＝18時間）28,000円
６日間コース（６時間×６日＝36時間）52,000円
●２級
３日間コース（６時間×３日＝18時間）28,000円
６日間コース（６時間×６日＝36時間）52,000円
開催時期　●１級　講習時期４月下旬～６月上旬
●２級　講習時期９月中旬～10月上旬
問合先　建築施工管理技術研究会（TEL 03-3268-8751）へ。
なお、検定試験は㈶建設業振興基金（TEL 03-3502-6131）が実施するもので、受験の手続きは建設業振興基金の試験研修本部へ。

話題建築を聞く　第13回

オーキッドコート　三沢亮一氏・三瓶民雄氏に聞く

米国建築界の権威チャールズ・W・ムーアが全体デザインを手掛けた高級コンドミニアム“オーキッドコート”が、ＪＲ東海道本線「住吉」駅の東、住吉川畔に、1991年３月第１期竣工、第２期も現在建設中で1992年３月には竣工する予定です。

テーマは「住吉川流域の豊かな自然と約35,000㎡の恵まれた敷地特性を背景に、個々の建物や庭園などすべての構成要素が吟味され、アレンジされ、まとまりあって一つの造形美を追求すること」、また思想は「住居はそれを使う人々にとって宇宙の中心であるべきである」というムーアの考えにそって設計されているそうです。

今回は、このプロジェクトの実施設計を手掛けられた三井建設・長谷工コーポレーション・三井不動産建設ＪＶの中心人物である三沢亮一氏、三瓶民雄氏をお招きし、企画・設計内容、そしてムーアとの係わり、苦労話等についてお話しいただき、合わせて第２期建物の見学会も行います。

多数の参加をお待ちしています。

日　時　1992年**２月26日**㈬　13：30～16：00　講演会 13:30～15:00　見学会 15:00～16:00

会　場　現地　オーキッドコート（神戸市東灘区西岡本2-45-1）

＊ＪＲ東海道本線「住吉」駅下車徒歩約６分（大阪～住吉、快速で約18分）

オーキッドコートの配置計画は、ロケーションおよび敷地条件を巧みに取り込んだ明快なコンセプトをベースに進められた。
300戸の住宅とサロン、フィットネスクラブ等から構成される８棟の建物は、フォーマル、インフォーマルの二つのコンセプト軸に沿って配置されると同時に、この軸に対して表情豊かなランドスケープが展開されている。
建物は、三層構成の外観や、ボリューム感を軽減するさまざまなデザイン上の工夫をする一方で、住宅としての機能性や品質を兼ね備えた計画を目指し、各棟ごとに微妙に色を変えていくカラーコーディネーションや、六甲の山並みをイメージさせるスカイライン等により、集合住宅における新たなアーバンデザインの可能性を提示している。

（三沢亮一・三瓶民雄／三井建設設計部）

所 在 地　神戸市東灘区西岡本2-45-1
事業主体　三井不動産・長谷工コーポレーション・川崎重工業・三井物産
基本設計　チャールズW・ムーア&ムーア ルーブル ユーデル建築事務所(含、ランドスケーピング)
　　西岡本開発室
実施設計　三井建設・長谷工コーポレーション・三井不動産建設ＪＶ
施　　工　三井建設・長谷工コーポレーション・三井不動産建設ＪＶ
敷地面積　35,586㎡
建築面積　14,383㎡（１期 2,393㎡、２期 3,456㎡）
延床面積　78,500㎡（１期14,508㎡、２期24,184㎡）
構造規模　SRC、RC、B2、12F
戸　　数　300戸／平均住戸150㎡（１期57戸／平均156㎡、２期97戸／平均146㎡）
駐車台数　320台
付属施設　サロン・レストラン 400㎡(ラウンジ、ダイニングスペース、バー等)
　　フィットネス 1,000㎡(プール、ジム、スタジオ、サウナ等)
工　　期　1989年12月～1994年３月（１期竣工1991年３月、２期竣工1992年３月）



三瓶民雄(さんぺい　たみお)
1947　福島県生まれ
1968　国立宮城高専建築学科卒
　　三井建設設計部入社
現在　三井建設大阪支店設計部設計長
　　西岡本開発室チーフプランナー



第１期竣工写真



三沢亮一(みさわ　りょういち)
1947　新潟県生まれ
1971　早稲田大学建築学科卒
　　三井建設設計部入社
現在　三井建設設計本部設計第三部設計長
　　オーキッドコートのほか、都内、福岡において住宅系大規模プロジェクトを進行中

定　員　30人（申込多数の場合は抽選）

参加費　会員1,500円、一般2,500円(学生：会員1,000円、一般1,500円)　＊含、資料代、消費税

申　込　２月19日㈬までに、ハガキ、FAX、電話で（社）日本建築協会事業課へお申込みください。
(1)催し名（オーキッドコート　三沢亮一氏・三瓶民雄氏に聞く）、(2)氏名、(3)会員・一般の別、(4)勤務先、(5)参加証送付先、(6)電話番号をお知らせ願います。
（社）日本建築協会事業課　〒530　大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX 348-0634　TEL 348-0633

＊参加証を２月20日㈭に発送します。

出版委員会企画「プロのノウハウ」講座シリーズ（第6回）

21世紀を見つめる『インテリアコーディネートの100ポイント』

日　時　平成4年 2 月14日㈮　開場17：30　開会18：00→閉会20：00

会　場　大阪国際交流センター・小ホール
大阪市天王寺区上本町8丁目2―6　TEL 06-772-5931

講　師　町田ひろ子氏（学校法人町田学園・町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー校長）

インテリアコーディネーターは「楽しい暮らしをする環境を造りあげていく」生活空間の企画者であり、提供者です。

最近は生活スタイルの向上に伴い、個性的・芸術的であり機能的な生活環境が求められてきました。それだけインテリアをトータルな視点でとらえ、快適に暮らせるプランを提供できるハイクオリティなインテリアコーディネーターが求められているのです。

「初めに暮らしありき」を信条として、わが国インテリアコーディネーター養成の元祖として力を注いでこられた町田ひろ子氏をお迎えして、「インテリアコーディネートの100ポイント」のお話を伺います。

日本はもとより、広く海外でも活躍されている町田氏のお話は、最新のインテリア情報とクリエイティブな知識を学ぶことができるよい機会です。

建築やインテリアの仕事にたずさわる方にとっては、見逃すことのできないワンチャンスです。

講演会の最後には、町田氏をまじえての質疑応答の時間も用意しております。

ご友人をおさそいの上、ふるってご参加下さい。



町田ひろ子氏

1968年　武蔵野美術大学工芸工業デザイン科卒業
NECデザイン室入社
1970年　スイス国アルガウ州コプレンツ・ゲベルペシューレ入学
1975年　米国ボストン・ニューイングランドスクールオブアートアンドデザイン卒業
1975年　ボストン・パークプラザ・スペースプランナー
1977年　帰国・町田ひろ子住環境デザイン室設立
1978年　町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー東京校開校
1980年　町田ひろ子インテリアコーディネーターグループ設立
1982年　株式会社町田ひろ子インテリア出版局設立
1983年　株式会社インテリアコーディネーターワークス設立
国際インテリアコーディネーターユニオン結成
1984年　町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー大阪校設立
1986年　専門学校国際インテリアアカデミー開校
インテリアコーディネーターネットワーク事業団結成
1987年　町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー福岡校、金沢校、静岡校開校。以後新潟校、宇都宮校
1981年　建設省建築審議会委員
1987年　国民生活審議会「住生活特別部会」委員
北海道新産業都市建設協議会委員
小樽市総合計画審議会委員
小樽市都市景観形成委員会委員
1982年　国際インテリアデザイナー協会（ISID）日本支部長
1983年　国際インテリアコーディネーターユニオン（IICU）会長





司　会　山田　修氏（修建築事務所所長、本会出版委員会副委員長）

定　員　150名

受講料　会員 3,000円、一般 4,000円（消費税を含む）
＊当日受付にていただきます。

テキスト　〈プロのノウハウ〉『インテリアコーディネートの100ポイント』を参考資料として当日販売いたします。
※テキスト代1部特価1,545円〔消費税を含む〕

申　込　ハガキかFAXまたは電話にて、2月7日㈮までに本会事業課へお申込みください。催し名（プロのノウハウ講座）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。定員超過の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。日本建築協会事業課：
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100（大阪駅前第3ビル・21階）
FAX 06-348-0634　TEL 06-348-0633

1917創刊
1992
73集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

「建築と社会」1月号表紙
デザイン・白子正人
（グラフィックデザイナー 日本タイポグラフィ協会会員）

'91から'92へ。そして表紙デザインも少し方向を変え、全体から部分へ、パステルからビビッドへ、グレーからブラックへ、日本の伝統色からフランスの伝統色へ、PCからMacへ、ということで制作してゆきたいと考えている。

1月号のモチーフは、カメイ壁材工業二色の浜工場。カラーは、フランスの伝統色より Coq de roche。その昔、婚礼の時などにこの色をした鳥を踊らせたことがあったという。

■特集予告

2月号／こだわりのインテリア
郵政建築－今日から明日へ－

3月号／建築家のための設備知識－III－

会　長　佐野正一
副会長　金多　潔・薬袋公明
　　市川　宏・鴻池藤一
編集委員会（平成3年度）
■編集理事　池田　秀行
井上　豊　遠藤　進
金井　弘次　大田　克彦
川島　繁三　梶井　宏修
小島　雄　河津　降之
須賀　好富　○伊達　正雄
竹中　錬一　★施工材料分科会
深江　實　有光　利治
松村　慶三　植田　実
溝神宏至朗　小椎八重猛
若山　繁　志水　史典
■編集委員長　加藤　眞
溝神宏至朗　○村上　信直
■編集顧問　★法令分科会
東　孝光　稲継　典彦
■編集委員　岩田　純一
★計画系分科会　樫田　攻
☆計画系　○佐藤　勝
梅村　宏尚　高見　成志
河端　秀直　中島　弘志
小浦　久子　■作品作風小委員会
鈴木　克彦　荒川　朱美
○田中　直人　遠藤　公介
中井　省吾　尾崎　久純
松川　敏正　岡本　降
山尾　弘子　※北澤　修一
横関　真紀　田中　均一
吉村　英祐　富田　昌義
☆建築計画系　福地　一彦
石山　道男　前川　治彦
磯村千恵子　松田　善弘
上杉　秀隆　松村　衛
江副　敏史　○宮下　幹雄
菅野　忠司　水川　尚彦
○北村　潤　■会員企画小委員会
黒川　明彦　伊藤　郁郎
※佐藤不二男　稲木　裕子
塚本　史郎　尾崎　俊文
刃金　国男　大沢　智弘
山本　匡　北村　恭一
吉羽　逸郎　グレッグ　ホール
☆インテリア・住宅系　小板橋鉄雄
大森　智子　小林　孝一
大橋眞由美　※佐伯由紀子
加藤　力　佐野　洋
角方　利幸　○高田　光雄
※神谷　剛　※高橋　麗子
○北浦かほる　塚口　明洋
駒田　哲男　増渕　昌利
中村　孝之　山嵜　章子
西川　純一　■広告企画小委員会
福田　由利　※池渕　俊男
★構造分科会　上井　善一
衣川　徳好
稲葉　繁夫　○佐野　寛志
○角　彰　山東　晃
多賀　謙蔵　下村　甫
野村外喜夫　原田　常介
馬場　研介　藤田　孝吉
★設備分科会　山下　修司
○印　副委員長と幹事　※印　同代行

印　刷　平成4年1月20日
発　行　平成4年1月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
電　06－351－5428(代)
日本電植株式会社
電　06－357－1803(代)
定　価　980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

1 838

年頭のことば
本年の抱負
会告

作品作風

ART PROCESS
W
デザインコンクール
書評
ブックステーション
法令コーナー
新建材紹介コーナー
GBRCニュース
リポート
INFORMATION

建築の眼

特集
人がかわる

街がかわる

構造の頁200
設備の頁201
リポート
月報

特集●夢物語—人がかわる、街がかわる—

SPECIAL FEATURE ON THE STORIES OF DREAMS-RESTYIE PEOPLE, RESTYLE CITIES.

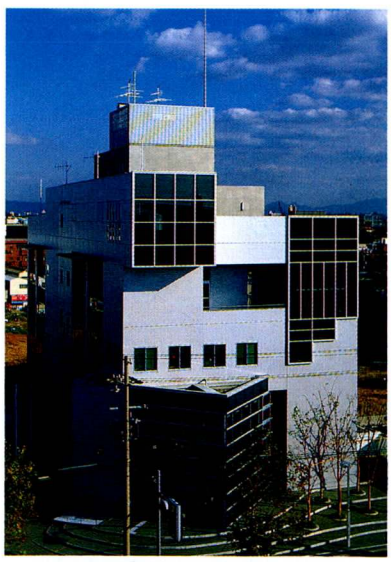
1992年を迎えて／会長・佐野正一 —— 1
常設委員会／溝神宏至朗・多井幸男・須賀好富・片倉健雄・金井弘次 —— 2
グリーンセミナー鷲尾金弥氏を囲んで．坂本龍馬記念館の設計をめぐって—高橋晶子氏講演会—．伊丹市アイフォニックホールと白雪酒造蔵を訪ねる．神戸地方・簡易裁判所合同庁舎見学会—近代建築再生シリーズ—．ミズノ大阪本社ビル見学会．オーキッドコート三沢亮一氏、三瓶民雄氏に聞く．21世紀を見つめる『インテリアコーディネートの100ポイント』ほか —— 3
大阪府大正警察署 —— 設計：大阪府建築部営繕室　地域建築研究所 —— 10
監理：大阪府建設監理協会　栄和設計事務所
施工：東洋建設大阪本店
富田林市立向陽台小学校 —— 設計監理：高橋上田設計事務所 —— 12
勝山市立図書館 —— 設計監理：石本建築事務所 —— 14
施工：鹿島建設・大北久保建設・山本組建設共同企業体
堂島アクシスビル —— 設計監理：昭和設計 —— 16
空調設計・監理：竹中工務店
施工：竹中工務店
野村不動産四ツ橋ビル —— 設計監理：安井建築設計事務所 —— 18
施工：大林組・錢高組・大和ハウス工業共同企業体
青濤館オリックス野球クラブ合宿所 —— 設計：藤木工務店 —— 20
監理：オリックス不動産鑑定部建築監理チーム・藤木工務店
施工：藤木工務店
カメイ壁材工業二色の浜工場 —— 企画・監修：ヘキサ　中筋　修 —— 22
設計施工：松村組大阪本店
存在・写真・リアリティ　横溝秀実・大島成己／竹村楊子 —— 24
Walking-建築家おすすめデートスポット：北村陸夫 —— 26
第37回工高生デザインコンクール(景勝地に建つ駅) —— 28
明るく豊かな高齢社会の住まいづくりは?／荒木兵一郎 —— 33
短評4冊／稲木裕子・大沢智弘 —— 34
京都市「福祉のまちづくりのための建築物環境整備要綱」の改正／梅本武史 —— 35
フェローデッキ(鉄筋組込捨型枠)／小幡義明 —— 37
新規購入機器紹介／熱分析装置 —— 38
北欧の都市と建築(2)—スウェーデン・ストックホルム／中島　一 —— 44
大阪ＪＣ建設クラブ会員大会開催．JICX大交流会「歩くデータバンク」開催．ヨコハマ都市デザインフォーラム国際会議－1992年3月16日から4日間—．「住宅・建築省エネルギーフォーラム」2月に開催．INAXギャラリーKIOSK展． —— 46
「花長風月」／北浦かほる．無駄の効用／島崎　勉．道路と建築／中川洋一．ボーダレス時代の街づくり／小林志朗 —— 48

夢物語—人がかわる、街がかわる—

生活者の昨日・今日・明日 —— 猪飼　政昭 —— 50
自分らしく働いてますか —— 太田　明子 —— 51
女たちがかわり、女たちがかわる —— 奥村　礼子 —— 53
高齢者・身障者が、単身まちへ出る —— 吉田　あこ —— 55
異人の住む周縁の町づくり —— 國本　喜之 —— 57
二つの住・宅・夢・語・り —— 山枡　勝弥 —— 59
これからの交流施設 —— 大塚　辰美 —— 62
天国の楽園からの愛の文化施設、文化活動!! —— 北大路善之助 —— 64
再びアメリカに学び商業を再構築する —— 香川　英行 —— 66
変わり方への一つの疑問 —— 岡　並木 —— 68
ニュータウン開発のゆくえ —— 奈須　豊 —— 70
関西文化学術研究都市のゆくえ —— 大久保昌一 —— 74
大阪ベイエリア開発のゆくえ —— 吉川　和広 —— 76

ＦＲ鋼の利用／丸岡義臣 —— 78
新しい台所・浴室の器具／園田一徳 —— 80
「京都の街の色」シンポジウム／村上幸三郎 —— 81
平成3年11月分 —— 83







大阪府大正警察署

設　計　大阪府建築部営繕室　地域建築研究所
監　理　大阪府建設監理協会　栄和設計事務所
施　工　東洋建設大阪本店

所 在 地　大阪市大正区小林東3丁目4-21
敷地面積　3,300㎡
建築面積　782.97㎡（本体）
延床面積　3,338.97㎡
構造規模　RC、5F
工　　期　平成2年6月～平成3年8月
最 寄 駅　JR大阪環状線大正駅

撮　　影　松村芳治

旧大正警察署は、昭和12年に建設され、その後約半世紀を経過した今、老朽化が著しく、また外来駐車スペースもなく住民サービスの点でも著しく支障をきたし、加えて大正管内人口がドーナツ化現象によって漸減状態にあるものの、各種警察事象の増加に伴い、装備資器材等の物品や各種書類が増加し、庁舎の狭隘化が進んだため、旧庁舎より南へ1.5㎞下った千島公園の南側に用地を取得して新庁舎の建設を行ったものである。

敷地は、北に千島公園、西に府道大阪八尾線（幅員40m）が走り、建築物が連たんする都市にあっては、比較的視界が広がっているといえる。また、土地区画整理事業地内であり、敷地の南・東側は、近い将来高度な土地利用が予想されるところでもある。

計画にあたっては、千島公園が都市における大きなオープンスペースとなっていることから、これを連続させるため、警察の外部機能である操練場・公用車等駐車場のオープンスペースを公園側に隣接して設けて、視界の広がりを連たんさせ、かつ道路に沿って植栽をほどこし、バス停に面する箇所には、ポケットパークを設け、緑の連たんを計った。

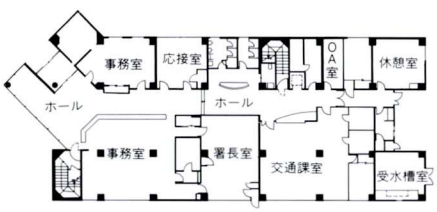
警察署のデザインは、シンメトリーを基軸とした重厚でかつ静的な構成が多いなかで、この大正署は、建物デザインのイメージワードとして「21世紀の平和を守る機動性あふれる警察署」を念頭におき、それにふさわしいデザインを心掛けた。

具体的には、署のエントランス部分を45°ひねり、ここを2層吹き抜けとして本体に貫入させ、5階部分には、大阪湾を眼下に臨むように食堂をキャンティレバーで突出し、全体として躍動感あふれる力強さを表現した。

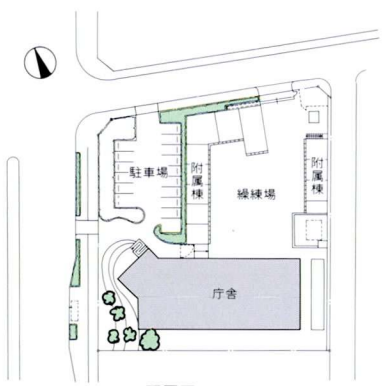
外装には、アルミパネル・ラスタータイル・メタリック系の吹付材・カーテンウォールを用い、きびきびとした印象をあたえることをねらった。

（大川和彦／大阪府建築部営繕室）





1階平面図　1：800



配置図　1：2000



富田林市立向陽台小学校

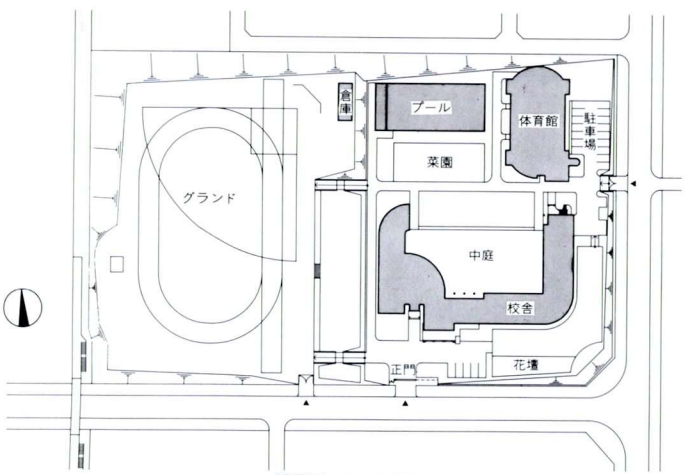
設計監理　高橋上田設計事務所

所 在 地　大阪府富田林市向陽台５－１
敷地面積　26,912.0㎡
建築面積　 2,953.058㎡
延床面積　 5,821.368㎡
構造規模　RC、一部S
工　　期　平成元年７月～平成２年３月
最 寄 駅　近鉄長野線富田林西口駅

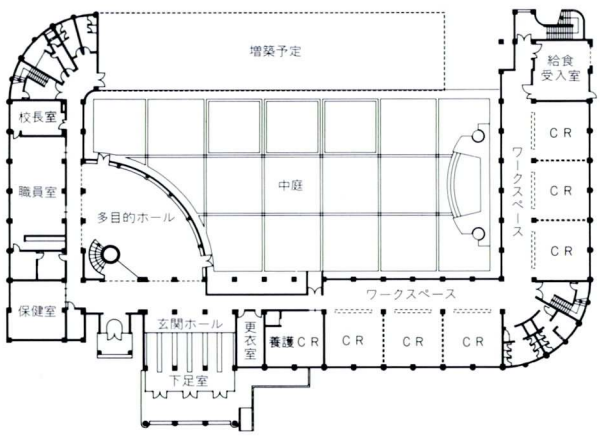
撮　　影　伸和実業



全景



配置図　1：3,000



1階平面図　1：1,000

富田林市立金剛東第三小学校新設工事として指名競技設計に参加し実施策として採用された作品である。

柔らかい円型屋根を持った小学校

I　計画留意点

緑と太陽に恵まれた教育文化都市を目指す富田林市、その市内の金剛東団地の東部に位置するこの小学校を計画するに当り下記の点に留意してまとめた。

1．敷地は一部池を含む緩い谷状の土地を造成したところで有る。　2．敷地の位置より通学児童は南部方面より児童数が多いのではないかと判断した。　3．可能な限り計画面積以内にその全規模を納めるよう努力した。　4．小学校の新しいイメージとして……現在は、施設整備が一段落し、児童生徒数の減少期に入り、新しい教育を推進する方向に変わりつつある現在「機能性重視」一点張りの片廊下型校舎のかたいイメージの小学校から脱皮したい。また、多目的利用の出来る中庭を中心とした円型プランと柔らかい円型屋根、細部意匠としても極力隅入隅のない曲面でまとめ、卒業児童や父兄ら住民の心の底にいつまでも残る様な特徴のある小学校を目指したい。　5．小学校児童は、通常その体位及びその他の種々な能力が2年生と3年生を境界として隔差が生じる関係、1、2学年を低学年、3年生以上を高学年として分けて取り扱い、所謂、高、低学年分離を計画上配慮した。　6．敷地北側の住宅ブロックへの日影の影響を極力避けるよう配置計画を考慮した。

II　計画趣旨

1．外部よりのアプローチの容易性。　2．生徒の内部動線の短縮化。　3．非常時に2方向避難出来る。　4．下足室の混雑緩和。　5．増築工事が容易。　6．人、車分離で安全確保。　7．職員室を管理の中心に。　8．保健室を静かな位置に。　9．多目的に利用出来る中庭……校舎棟に囲まれた中庭は、半屋内型空間となり、容易に1階各教室より出入が可能で有り、且つ北東隅南部及南西隅角部を平面計画上、切り放す事により、中庭の通風を良好なものとし、上足のままの出入りが可能な床仕上げを行い、様々な用途が期待出来る。即ち、・1階部分の低学年の遊戯場　・ステージを使用してイベント及集会等。また、植樹の木蔭を使っての室外学習、読書。先生と児童とのふれ合いのスペース。「市の花」の楠木やつつじの群植も行う。　10．玄関ホールを生徒と先生のふれ合いの場に。　11．ワークスペースを集約……ワークスペースも面積的な制限により充分ではないが、3～4クラス分を集約した「かたち」で設けている。　12．外部騒音の影響減少を計る。　13．外部への日影を考慮。　14．緑豊かな校庭に。　15．設備計画の経済性検討。

（下山壌補／高橋上田設計事務所）



校舎正面



中庭



多目的ホール



普通教室

勝山市立図書館

設計監理　石本建築事務所
施　　工　鹿島建設・大北久保建設・山本組建設共同企業体



外観正面（南面）



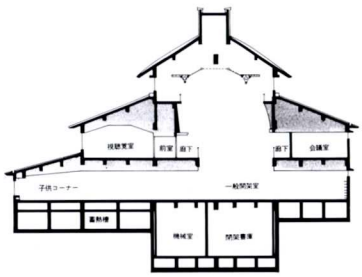
外観北東面

勝山市は人口約３万人。周りは山々に囲まれ、静かでしっとりとしたおもむきのある町です。冬期は豪雪地帯として時に３～４ｍの積雪があるようにうかがっています。この白山の麓、自然環境には恵まれすぎるほどの山間の町に、「人との出合い・本とのふれあい心やすらぐ文化のサンクチュアリ」として、開架８万冊・閉架４万冊のパブリック図書館として建設されました。
建物正面入口庇に勝山市の伝統文化の一つ、「左義長祭」をモチーフとしたからくり時計を取り付け、外観は寺社建築の雰囲気をもった重層瓦葺屋根の姿で雪深い町のたたずまいにとけこませる様なデザインとなっています。
建物内部はエントランス正面、開架室の中央部に１・２階空間の一体性を出すため、象徴的な吹抜を取り、上部窓からは自然光が落ち、その光の中で人と人が出合い、本とふれ合い、文化とふれ合っていただければと考えました。
閲覧機能・サービス機能・レファランス機能を１階に集約し、使いやすく合理的な図書館として市民の方々に十分活用していただきたいと思います。
この図書館が生涯学習の場、文化活動の拠点として勝山市民皆様の文化意識のより一層の向上に大きく役立つことを期待してやみません。

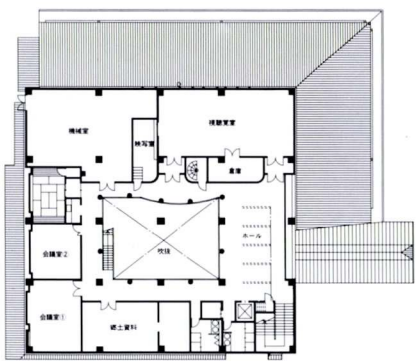
（本徳次男／石本建築事務所）

所 在 地　福井県勝山市昭和町１丁目
敷地面積　3,436.78㎡
建築面積　1,295.78㎡
延床面積　2,413.10㎡
構造規模　RC、３F
工　　期　平成２年11月～平成３年10月
最 寄 駅　京福電鉄勝山駅

撮　　影　上諸尚美／伸和実業



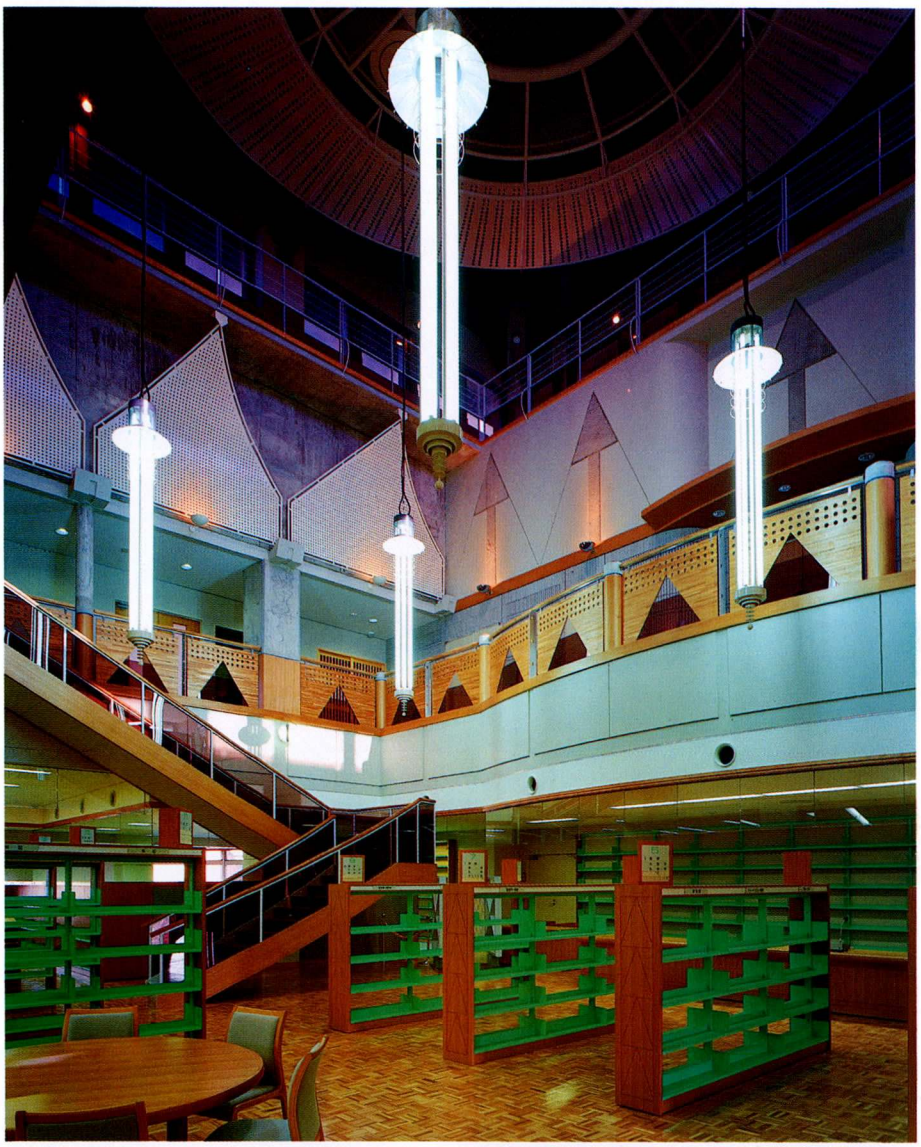
断面図



２階平面図



１階平面図　１：800


館内吹抜


青少年コーナー


吹抜詳細

堂島アクシスビル

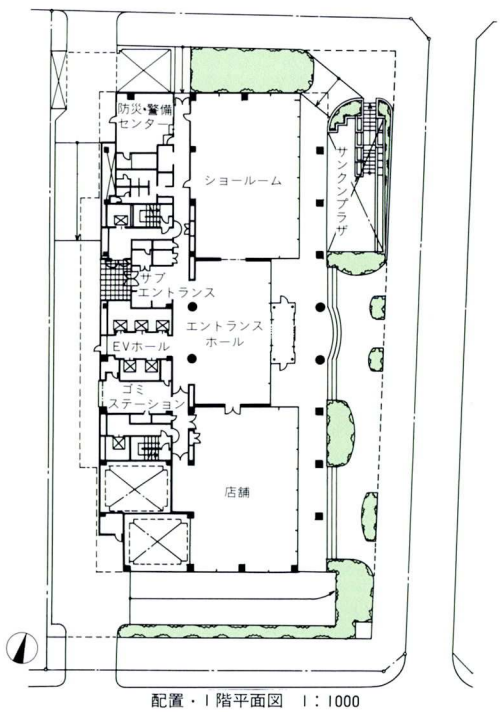
設計監理　昭和設計
空調設計・監理　竹中工務店
施　　工　竹中工務店



東南面外観

堂島川周辺は現在その両岸に沿って景観的な観点に立った遊歩道の整備が行われている。とくに中之島西部地区開発に向けて、四ツ橋筋以西の整備の必要性が増している。敷地はそうした域内の堂島川右岸に面し、周囲は東洋紡ビル、電通大阪ビルなどの高層建物に囲まれたビジネス街の一角に位置している。都心近くにしては珍らしくまとまった敷地であり、その一角には大正初期に建てられた、河合浩蔵氏設計による旧・阿部彦太郎邸の建物が残されていた。自由な発想による折衷様式的な建物で、ファサードと側面にはそれぞれ異なったオーダーをもつハーフコラムが直立していた。こうした昔の面影の残る場所に土地信託方式によってオフィスビルが計画され、完成したのが堂島アクシスビルである。

平面プランとしては１フロアに最大のオフィス空間を確保すべく片コア方式とし、かつコア部分を隣地建物と対面させて、事務空間からは全面外部の見透しができる様配慮している。空調システムとしては24時間個別空調可能な竹中工務店開発のＶＣＳ空調方式を採用し快適性を求めるとともに、この方式により基準階での空調機械室が不要になったことはレンタブル比の増にもつながっている。外壁は花崗岩本磨ＰＣ版打込及びアルミパネル貼りで、全体的にプレーンな表情で派手にならない様気を配っている。外部については堂島川遊歩道計画の一翼を担う形で公開空地を確保して、周囲の公開空地部分と連続させ歩行者ルートの確保に努めている。地下店舗へのアクセスルートとしてサンクンプラザを設け、その外壁の一部に前出の旧建物のハーフコラムを一部移設し、控え目ながらも昔日の面影を残している。　（昭和設計）



配置・１階平面図　１：1000

所 在 地　大阪市北区堂島浜２丁目７－１
敷地面積　3,878.26㎡
建築面積　1,693.25㎡
延床面積　25,557.79㎡
構造規模　S、一部RC・SRC、B２F、15F、PI
工　　期　平成元年８月～平成３年９月
最 寄 駅　地下鉄四ツ橋線肥後橋駅

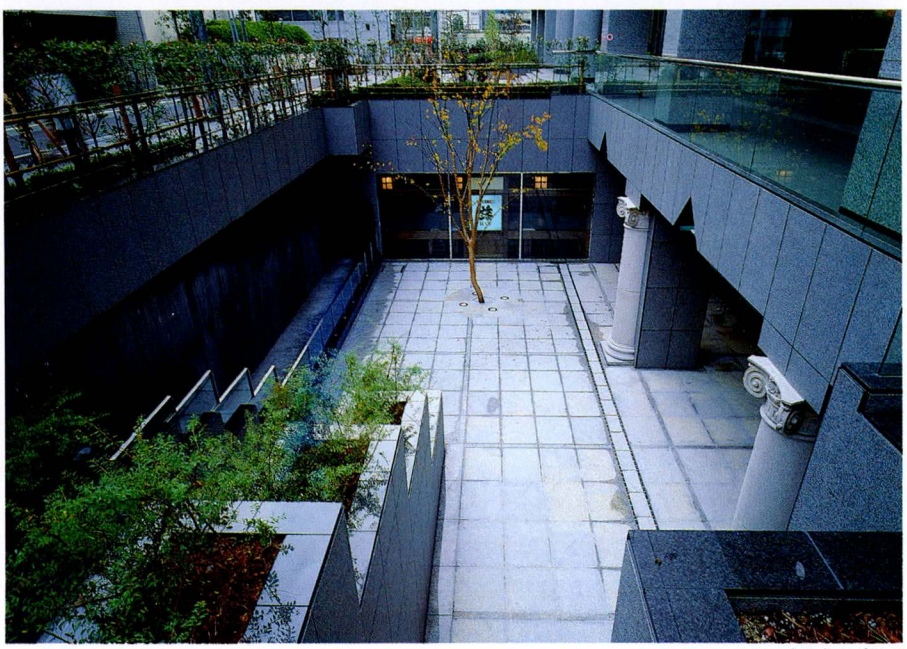
撮　　影　庄野　啓



１階エントランスホール



玄関廻り



サンクンプラザ

野村不動産四ッ橋ビル

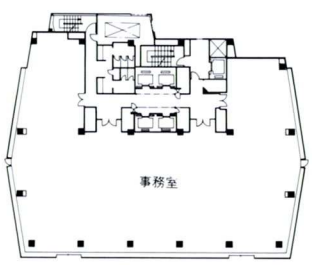
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林組・錢高組・大和ハウス工業共同企業体
　　電　　気　きんでん・三和電気土木工事共同企業体
　　空調給排水衛生　ダイダン・須賀工業共同企業体



外観南東面全景

阿波座は、江戸時代以前から「下船場」「外船場」とよばれて船場についで町場化し、現在でも商業の街・大阪の都市機能の一役を担っている。
野村不動産四ッ橋ビルの敷地はこの歴史ある阿波座にあり、四ッ橋筋に面し南・東・北と三方道路に囲まれ、地下鉄本町駅に近接したオフィスビルの用地として非常に恵まれた立地条件にある。
この計画の基本的なねらいは、近年再整備のめざましい四ッ橋筋にあって、グレードの高いオフィスビルを創ることにより、企業のイメージを高めると同時に、オフィス街の景観の向上を図ることにあった。総合設計制度の採用により、周囲に公開空地を設けて歩道と緑地を整備し、建物は容積と高さの緩和を受けて高層化を図り、この地区の都市景観づくりに寄与することをめざした。建築計画としては、オフィスとしての効率性と使いやすさを基本にし、高級感を持たせることによって印象の強い建物になることを課題とした。
建物は地下１階、地上１５階建てとし、四ッ橋筋の南東角にビル玄関を設け、玄関ホールは一部２層吹き抜けを確保し、壁面をマレーシア産の白みかげ石を採用して品位ある落ち着いた空間にしている。
基準階は、建物の西側中央にコア回りをコンパクトにまとめて配置してフロアーの有効率の向上を図るとともに無柱のフレキシブルなオフィス空間を確保した。また設備的にもインテリジェント化を基本コンセプトとし、オフィスの細分化やＯＡ化にともなう各種のニーズにも対応できるようにしている。
外観は、グレーの熱線反射ガラスの横連窓とスパンドレル部分の、カナダ産みかげ石のグラニットカーテンウォール工法で構成し、外壁の軽量化とユニット化を図っている。また各階のウォールスルーユニットの吸排気口には半円型の断面の水切りを設けて、外装デザインのアクセントになるよう特徴をもたせた。
また建物の外周部においては、低層部で道路と平行に列柱を設け、高層建築にありがちな威圧感の軽減を図り、親しみのもてる街並みの景観づくりに寄与できたのではないかと考えている。

（塚本高義/ 安井建築設計事務所）



基準階平面図　1：1000

所 在 地　大阪市西区阿波座１丁目４－４
敷地面積　１,867.28㎡
建築面積　１,080.08㎡
延床面積　17,291.25㎡
構造規模　S、一部SRC、B1F、15F
工　　期　平成２年１月～平成３年11月
最 寄 駅　地下鉄四ッ橋線・中央線本町駅

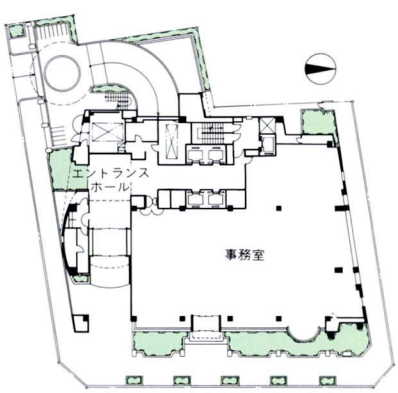
撮　　影　水野励冶


エントランスホール


エレベーターホール


事務室


外観東面見上げ



配置・１階平面図　１：1000

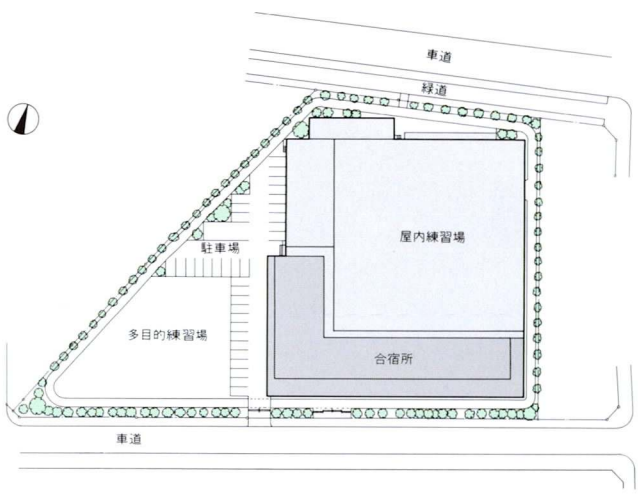

公開空地

青濤館　オリックス野球クラブ合宿所

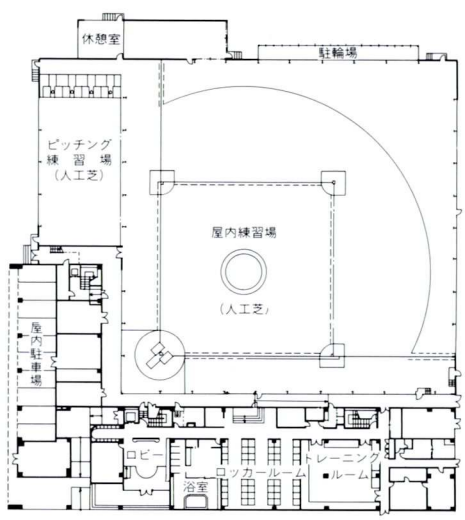
設　計　藤木工務店
監　理　オリックス不動産鑑定部建築監理チーム・藤木工務店
施　工　藤木工務店



外観南面



配置図　1：2000



1階平面図　1：1200

所 在 地　神戸市西区学園東町８丁目２－２
敷地面積　9,100.02㎡
建築面積　4,751.62㎡
延床面積　7,322.83㎡
構造規模　S、４F、PI
工　　期　1990年12月～1991年７月
最 寄 駅　神戸市営地下鉄総合運動公園駅

撮　　影　川元　斉

プロ野球球団のオリックス・ブルーウェーブが、若い選手達の育成を計るとともに、市民球団として地域の人々に親しまれる施設づくりを行う事を目的として、本拠地の神戸グリーンスタジアムの近くに、合宿所及び屋内練習場を新設した。

一帯は、神戸研究学園都市として開発された地域で、既に学校や研究施設等が建設され、新しい息吹きの芽生えつつある好環境であり、従って今回の施設の形態や色彩は、それ自身華やかな色どりを放ちながらも、街全体に調和するものでなくてはならない。52m×52mの大屋根で囲われた屋内練習場は、ボリュームによる威圧感を解消させるため軒を出してアクセントカラーを施すとともに、スポーツ施設としての主張もおこたりなく行った。また合宿棟の外観も、スカイラインの構成に変化を与え、リズミックな躍動感が得られる様意図した。

建物の周囲には天然芝貼の多目的練習場と、周回のランニングトラックを配し、植栽や照明も充分に設置した。

合宿所の内部構成は、１階に屋内練習場・トレーニングジム・大浴室・ロッカールーム等を設け、一般市民にも練習施設を利用してもらえるようなプランニングを行い、また、身障者のための配慮を行った。２階以上は選手個室・食堂・ラウンジ等のプライベートゾーンと、寮長住居等を設け、パブリックゾーンとの分離をはかった。

屋内練習場のグラウンドは全て人工芝（アストロターフ）とし、可動式のネットによって５つのゾーンに分かれての同時練習を可能としている。

大変ハードなスケジュールのプロジェクトながらも、球団関係者をはじめとして、大勢の人々の熱意と努力を結集して今、青濤館（せいとうかん）は船出の時を迎えた。　（井上　享／藤木工務店）

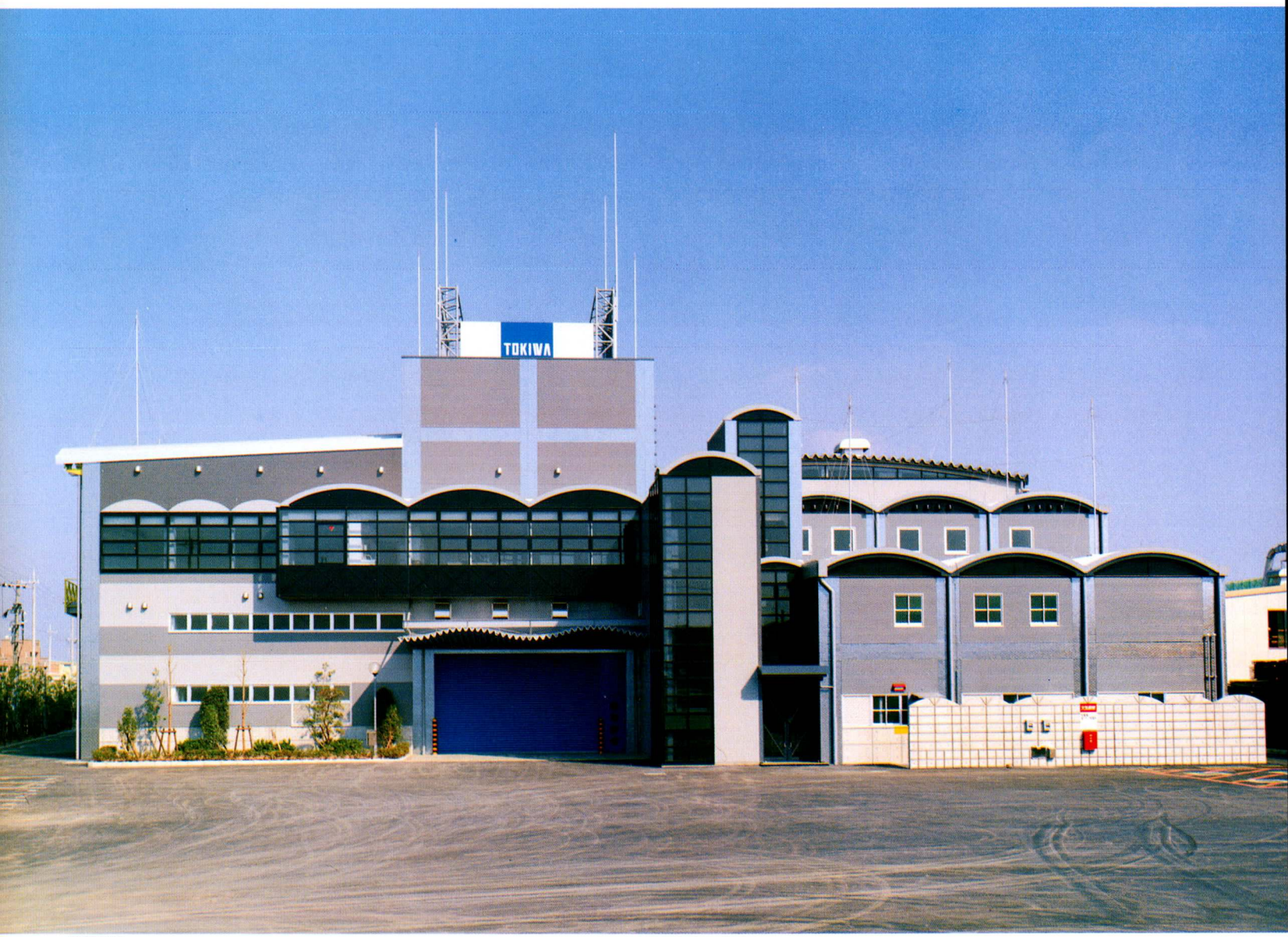

外観南東西


エントランスホール


室内練習場

カメイ壁材工業二色の浜工場

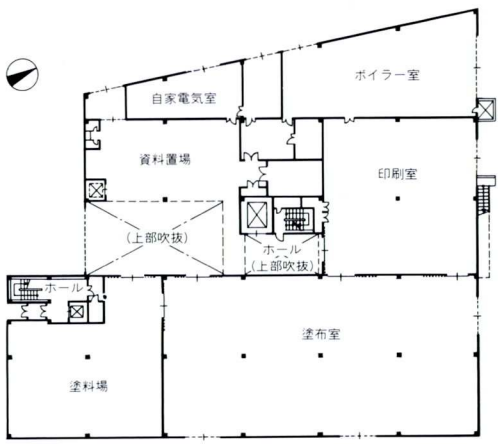
企画・監修　ヘキサ中筋　修
設計施工　松村組大阪本店



外観西面



外観北西面



1階平面図　1：1000

所 在 地　大阪府貝塚市二色南町５－８
敷地面積　7,283.732㎡
建築面積　2,808.832㎡
延床面積　5,992.082㎡
構造規模　S、ＢＩＦ、３F、ＰＩ
工　　期　平成２年８月～平成３年10月
最 寄 駅　南海電車和歌山本線 貝塚駅

撮　　影　アド・ビューロー


１階エレベーターホール


３階中央（吹抜）


事務室


荷捌場

大阪の南部貝塚市は、関西新空港の建設に合わせ周辺整備が急ピッチに進み、大きく変貌している。関西新空港を正面に見る当敷地もその二色の浜産業団地内に位置し、産業団地内は工場が建ち並び街並みを形成しつつある。この新しい街のランドマークとなることを意図した。

施主はブルテックス・パインブルで御馴染のトキワ工業株式会社のグループ会社で、主力商品のビニールクロスの製造を担当する。

外観はアーチ屋根を連続させ、起伏に富んだ立体感を生み出すよう心掛けた。建物中央に吹抜けを設け、それを核に各施設を配置し明快な動線を形づくっている。

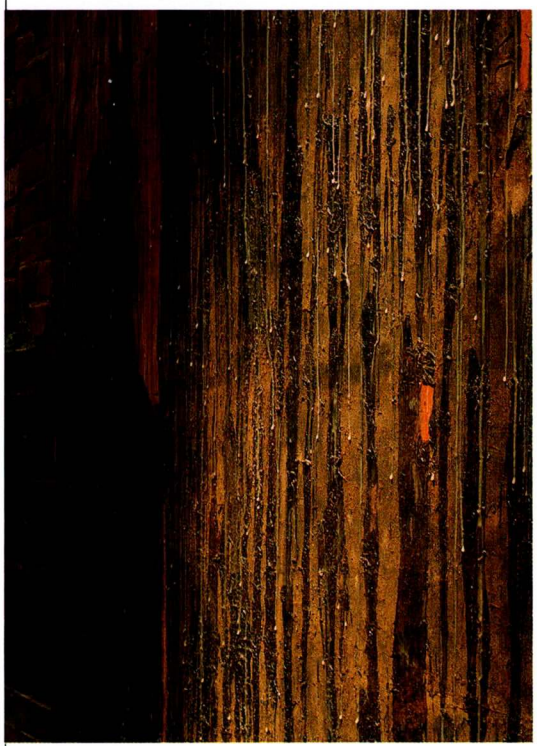
大架構と高い階高によりラインをフレキシブルにし、機能的で快適な空間となっている。また、コ・ジェネレーションシステム、フロア空調システムの採用など省エネルギー計画も充実させている。

設計にあたり御指導頂いた中筋修先生に感謝いたします。

（徳永善一／松村組設計部）

ART ●アートプロセス
PROCESS

存在・写真・リアリティー





▲PHOTO:M.KARAMATSU

「近頃の若いものは……」と言う文句を昔よく聞いた。上の世代の下の世代に対する認識に、ぐらつきが生じたときによくでる言葉だった。今までの固定した若者に対するイメージが、若者のちょっとした言動がきっかけでいっきにくずれ、途端に異人とかす。そんな新人類に対する違和感が生む言葉だった。

しかし、こう言う認識はなにも世代間だけに固有の問題ではないだろう。男女間にもあるし、人と社会、文化、自然あらゆる場面に存在する。

さて、目を芸術の世界にむけると、そこにも実生活上の問題と同じような問題が存在しているのに気づく。人が人、社会、文化、自然に対して持つ認識、その認識が現実の場面で有効か無効かは、なにも生活人だけの問題ではない。生活上の問題と芸術上の問題は、別々の所に存在しているのではない。密接な関係があると言うよりも、同じ問題を共有していると言える。

芸術家の持つ世界に対する違和感は世界に対する固定的な認識の無効を知らせる。「かれは突然現実を前にして、どう描けばいいか分からなくなっている自分に気づく」。ジャコメッティに「造形上の危機」が襲う。誰にとっても確固として存在していた世界の自明性が不意に失われる。

しかし、未知性としての世界は芸術家にそのつどの新しい顔を見せる。世界が見せる意外な顔、そしてそれはそのまま新しい美への予感のことだ。したがって世界に対する芸術家の違和感は、作品を産む大きな動機になるはずだ。

実生活上の問題と芸術上の問題。この関係をうまくつかまぬかぎり、生活人にとって芸術は「絵空事」に映るだろうし、芸術家にとって生活は「俗事」に過ぎぬ事になる。

平面作家・**横溝 秀実**

“rose is a rose is a rose is a rose”と吟じた、ガートルート・スタインは「結局、人間が興味を持つのは、二つの事です。まず、現実（リアリティー）そして、次にそれについて語る事です」。と語っている。

さて、20世紀に入り、芸術の中に、抽象という発想が生れ、現代のアーチストは、写実と抽象との選択を、常に迫られてきました。

何を、どの様に、表現するか？

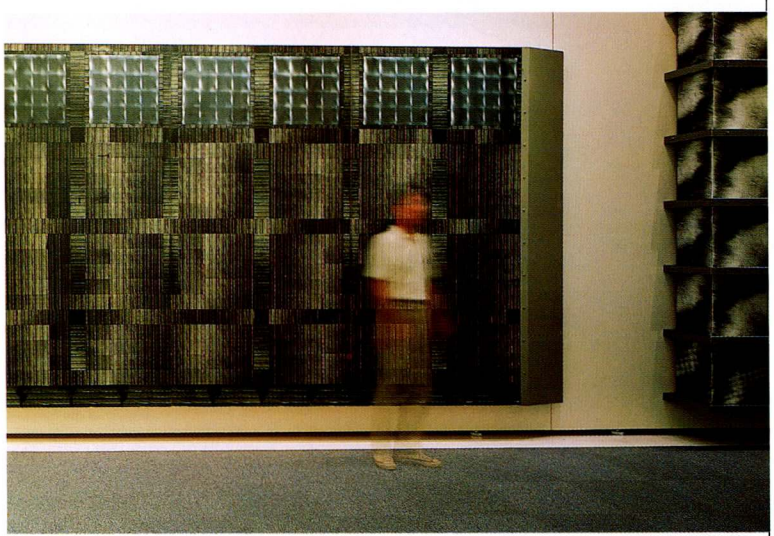
そこで、横溝氏は、芸術が「絵空事」で終る事への危機感を持ちます。自分の周りのリアリティーを絵画の内に表現したいと考え始めました。それは、写真という表現であり、自分の横にある壁をこすり、紙の表面に凹凸をつけるフロッタージュ表現であったりします。

紙の表面を、カリカリと傷をつけてあったり、又、タラタラと、ロウが流れているものもあります。これは、氏にとって、ロウの流れが、万有引力の重力であり、これが地球の存在を可能ならしめる、最重要な力なのです。その表現全ての内に、自身の存在、そして、それをとりまく、手に触れる世界の確認作業が行なわれています。それは、氏の室のデスクや椅子であったり、電話や運動靴であったりします。

抽象絵画より、写真表現をテーマにしはじめた横溝氏に対し、写真的表現より、絵画性を表現する人に、大島氏があります。この四角い作品

企画協賛：サンセイ㈱ 大阪市淀川区宮原4-1-45 06-395-2231　成幸工業㈱ 大阪市西区阿波座1-13-13 06-531-8801





▲PHOTO:N.OSHIMA

“描くことの不自由さ”描くこと。モノとの対峙、あるいは絵の具へ、画面へと、そして自己へと向き合ってゆくこと。この営みが歴史的に幾度となく繰り返され再編され続けてきた。

描くことにおいてイメージは捏造され繰り返され、様々な記憶の煉獄の中で主対は蒸発してしまうのだ。(私が引くこの一本の線、これはかつて誰かが引いた線ではないのか!) 正に絶句し言葉を失ってしまう状態。つまり、私にとって絶対的なかけがえのなさが何ひとつなかった。

写真について語るとき、私を魅了させることは写真に映っているモノが現実に存在していたことである。絵画空間がいかに現実の対象を拠り所に描かれていても、結局は空想的なイメージ世界であり、現実にモノが存在しえたという事実を観者に強制しない。“それは、かつて、あった”この至極当たり前の写真の本性が写真をオブジェたらしめ、主体のイメージの手垢から逃れることを可能にする。

オブジェとして写真、それは数多く撮られた写真の中から選ばれる。なぜ私は他の映像を選ばず、この映像を選ぶのか。かけがえのなさがないことの断念の地平で得られるイメージ、それが如何なるものか私にはわからない。但、このイメージが私を魅了していることは確かであり、私はそれによってこの世界を生きている。

写真は“シミュラークル”の状況の中で最たる装置として語られる。写真によるリアルさが現実のリアルさを凌駕し始め、感覚的にカメラのフィルター通じてのモノと対峙している状況だ。だが、私がこの“シミュラークル、シミュレーション”の状況論を通じて写真を語ることはあまりに億劫だ。確かにその状況の中で、私は生活し、時代のリアリティーとして共感できる。ましてや悲観的に語られることが多い中、私はよりポジティブにそのことを捉えたいと考えている。但し、結果論としての状況論ではなく、いま、ここで生きていることの切実さを通して写真を語っていきたいと思っている。

作家・大島 成己

は、チョコレートを撮し、並べる事で構成されています。もう一方の作品は、人間の姿が写されているわけです。しかし、そのチョコレートも人間も、その存在があった事が重要であり、その存在を表現手段にして、ある絵画性が展開されています。

「ここで生きている事の、切実さを通して写真を語ってゆきたい」という氏の言葉の内には、現在、自身が生きていると言う、自己存在と、大きくは、宇宙の存在を、こよなく愛し、そしてその現実を語り、表現したいという欲求があります。つまり“I am still alive”「私は、今、生きている。」(河原 温) にも通じる静かな叫びかもしれません。

と言って、この両氏の作品が、具象絵画、写実絵画かと問われると、誠にむつかしいものがあります。それ等は、写真のリアリティーを手段にし、存在を表現しようとしています。しかし「目に見えたあるがままの姿を、より美しく描いた」わけではありません。それも又「絵空事」になるからです。そこには強い、自己表現が含まれ、リアリティーと、自己存在とは何かが問われ、表現されているのです。

㈱AD&A・竹村 楊子

㈱ダイワ　大阪市西区西本町1-15-8 06-532-1175　三菱電機㈱関西支社 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル) 06-347-2316

WalKing —— 建築家おすすめデートスポット ——

シリーズ第6回、今回私達をエスコートして下さるのは、建築家の北村陸夫氏である。「夙川のアトリエ」・「GEN-YA」・「奈良町アパートメント」等一連の作品を通して氏は、常に刺激的で、インパクトの強いメッセージ性は、我々の中に潜在する問題意識を挑発しているようにさえ感じる。そのような氏のイメージからか、ご紹介下さるデートコースも、さぞかしエキサイティングでスリリングなスポットだろう。喧噪とした街香港、モロッコ、NYのダウンタウンのような……。ミーハーな私は内心ドキドキしながら行先をお尋ねする。ところが「そりゃ奈良やね。奈良公園から高畑あたり」と予想外の返答。思わず「ウッソー、ホント？」と言いたい心境である。北村氏と奈良……？イメージのギャップに混惑しながらも、この意外性が本シリーズならではの「発掘の楽しさ」でもあると思い直す。とにかく奈良へ行こう。



北村陸夫氏

遥かなる万葉の故郷（ふるさと）の静謐なひととき ——それは本当の自分に邂逅するとき

取材当日、前日まで降り続いた雨も上がり絶好の行楽日和、一年で最も賑わう季節である。観光客でゴッタがえす近鉄奈良駅での待合時間をほどなく過ぎた頃、大柄な男性が何やら叫びながらこちらに向って来る。「いやーゴメン！　道が渋滞でな、事故やな。まあ行こうか」初対面の私は、突然噴って沸いたド迫力に早速圧倒される。「いい天気や、奈良公園を通って二月堂、春日大社から、高畑のコースやね。高畑サロンという志賀直哉の旧居は知っているか？　かなり歩くけどええな！」とてもイヤとは言えない。最初から覚悟は決め、ペッタンコ靴で準備万全である。「今ではあまり来ないけど、僕は高校まで奈良公園にある猿沢池の側で育ってね。その頃は奈良公園なんて庭みたいなもんやったね。五重塔に上がったり、浮見堂に行ったり、遊ぶ所には事欠かないし、本来、守り神である鹿にも飛火野の女王なんてあだ名をつけてね。」少年時代に思いをはせる時、氏の精悍な顔付きがやや緩む。「奈良は京都程の知名度がないし、大仏と鹿が代名詞みたいだね。でも、かつて平城の京が築かれ、藤原氏を中心とした政争の舞台となった一方で天平文化が栄えたその壮大さは、京都が小奇麗にまとまった都市であるのに対して迫力が違うね。木一本見ても、野性的で元気なのがいい。昔から奈良公園や東大寺のスケールに慣れていたせいか、ヨーロッパの都市や庭園を見ても、あまり迫ってくる感動はなかったなあ」。お話を伺いながら、大仏殿から法華堂、二月堂が望見される。二月堂を中心に配置される建物は、年代や、形式の差を持ちながらも修二絵という目的のために集中され、一つの建築群としての秩序を保っている。そして、山麓に広がる傾斜地を利用した東大寺ならではの独特の景観を呈している。「二月堂は、丁度山と平地の境界部に配置しているのだけど、この境界線上の建物は、建築的に面白くなる可能性が高いんだ。東大寺に対して鬼門の方向は山で囲み、山と平地の境界にはメインの建物をガードする建物で固める。即ち、メインの建物は様式的に正式であるのに対し、山麓部はサブ的位置づけとなり、結果としてこの二月堂の様に床下部分の柱の長さに差が生じるといった自然の地形に合った独特の形態となるんだよ。それに東大寺にしても、当時の技術を結集して最大級の宇宙を実現しようという発想が素晴しいね」。

二月堂から春日大社に向う頃は観光客も途切れがちで、生茂る木も次第に原生林へと近づいていく。木洩れ日は露を含み湿った空気に触れる度にきらめいて、外界と隔絶された神秘な世界をつくり上げている。「高畑に通じるこの径は、ささやきの小径と言ってね、僕は人生の転機には何故かここを訪れている。瞑想に耽りながら散策するんだよ。でもオッサン一人で歩くより、好きな彼女と寄り添って歩くのが断然いいね。正にささやきながらね」。まもなく志賀直哉旧居に到着する。「当時はこのサロンに多くの文化人が出入し、親父も文学談義に花を咲かせたそうだ。建築的には簡素な住宅でも、サロンにトップライト等を付けて、人が集いやすく居心地のよい空間だね。」木々に囲まれた庭でお茶を飲んでいると、古き良き時代が偲ばれるようだ。

夕暮れ迫る頃、若草山ドライブウェイを上がると、道沿には親子鹿が帰路を急ぐかのように歩いている。迷い鹿だろうか……。山頂に広がる芝生



二月堂より遠望



二月堂にて

に腰を下すと奈良の町が一望の視野にとらえられる。「さすがに市街地は変わったなあ。昔は奈良の町を上から見ると瓦屋根の黒一色だったけど、最近は白い建物が混っていかに開発が進んでいるかがよくわかるね」。心なしか淋し気な氏の横顔を見つめながら、陽は将に落ちんとしている。生駒、信貴の山々、大和三山、飛鳥、斑鳩の里…万葉の織りなすこれらの山々は時の流れを見つめながらも、今尚変わらぬ姿で目前に拡がっている。陽は昼から夜に変わる瞬間の言い尽くせぬ光を放ちながら、これらの山々に吸い込まれるように消えていく。落日午後5時。しばし心を奪われてその場に立ち尽くしていた。家々の明かりがともる頃、さすがに盆地の夜は冷えてくる。去りがたい気持を抑え、奈良町を歩くことにした。古い町屋の連る元興寺周辺は、マンション開発と街並保存が顕在化している地域である。「僕も以前ここで仕事をしたけど、街並保存に関しては、基本的な保存には賛成なんだ。現状をそのまま作り続けるのはとてもよい保存手法だと思う。しかしその方法が徹底しないのなら、時代に合った現代建築として、既存の景観との調和と多少の対立を含みながら、面白く刺激のある高度な建築を志さなければならないと思うね。単に、建物に格子を付け、瓦をのせればよいというものではない。町屋をそれらしく見せているのは軒ラインなんだよ。その軒ラインを壊すボリュームを容認しながら、格子・瓦というのはナンセンスと思うね。古い町並に、ポツリと新しいデザインが混在してこそ町として面白いのだがね…」

「ところで大分冷えてきたし、チョット暖まって行こうか」と、奈良町の中の一軒に入る。10人も入れば一杯の店の壁には様々な面が掛けられている。さすがに冷え切った身体には熱燗が浸み渡る。「僕はお面に興味があって、どこに行っても買って帰るんだ。そもそもはバリ島が初めで、見た瞬間にアジア土着の文化の凄みを感じたね。押しきせでなく土着文化の力強いエネルギーが伝わってくるというのかなあ。」飲むほどに、酔うほどに饒舌になり楽しくなる。本当に快活な人だ。しかし氏はかつて内向的であったと言う。内向的であるが故に尚更攻撃的になるとも。氏の全身から溢れ出るエネルギーは、内面のナイーブ性と表裏一体なのだろう。

ライトでスマートさがウケる時代。氏は決してGentlemanだけではない。むしろ時代に逆行しているようにさえ感じる。しかし、そこが氏の最大の魅力であり、私達に強いインパクトを与え続ける原動力なのだろう。「小奇麗な京都より、ワーッと大きい奈良が好きだ」と言った言葉がとても印象的だ。もしかしたら氏のスケールの大きさは、この奈良の街にルーツがあるのかも知れない。数々の文化を包含しながらも、静寂なるこの奈良の街にふとそんなことを想いながら、本日5時の落日と、ちょっとアブナイ北村氏に改めて乾杯しよう。


経蔵


奈良公園を行く



志賀直哉旧居


高畑のサロンにて

と き　平成2年10月31日
ところ　奈良市
企 画　会員企画小委員会
Director　S. YUKIKO

第37回工高生デザインコンクール

設計課題　景勝地に建つ駅

応募枚数　26枚　　締　切　日　平成3年9月20日
応募作品数　110点　　審　査　会　平成3年10月12日
　　表　彰　式　平成3年11月16日

審査総評

審査委員長　中川　洋一

今年度は「景勝地に建つ駅」という課題に対し、主旨をうけて既成概念にとらわれることなく、110点におよぶ個性豊かな作品が応募された。応募作品には、共通して日常的実感がこめられているが、その視点は次のように大別されると思われる。1．旅情の中の駅　2．我が町（ふるさと）の駅　3．一般論として、駅のあり方についての提案。ロケーションについては、「景勝地に立地する」ことをベースとしながらも、多様な設定がなされ、大きくは　1．特定の景勝地を具体的に設定したもの　2．景勝地に立地する駅全般に対する一般論としての提案　に分けられる。また、作品の傾向としては、建築的技術的提案というより、課題に対して自由で新鮮な発想を作品化するという、アイデアコンクールの観を提している。工高生の技術教育は重要であるが、一方で、健全な社会的認識の上にたつ発想力や提案力を培うことの重要性も大切であり、今回のコンクールは後者の好例であったともいえる。

最優秀案（小林・井上・小林案）は、課題をまともにうけ、旅情を凝縮させて情感のあふれる作品となっており、特にロケーションの表現はテクニックとしても優秀である。優秀案の一点（山口・栗原案）は、最優秀案に共通する作品であるが、よりリアルなロケーション設定がなされ、ふるさとの活性という観点の率直な発想に好感がもてる。もう一点の優秀案（田村・宮澤案）は、歴史的街並保存にからめて、駅が街並に溶けこむことをアピールした作品であり、駅のあり方についての一つのモデルを示したといえる。入選案の内、亀井案は、温泉地に立地して温泉スペースを附属させた茅葺屋根の駅を提案し、駅を街の中心施設として性格付ける案であり、ふるさとへのやさしさが感じられる作品である。安部案、中野・田中案は、光や風をテーマに、ガラスや帆をモチーフとして、現代的な旅情を表現してさわやかであり、竹宮案は、鉄道駅をウォーターフロントにからめた発想で表現力にすぐれている。末藤案は、旅に出て自然と親しむという発想であるが、線路に併行しない配置計画の自由さが新鮮であり評価された。西田案については駅舎を塚の中にいれてしまうという、風景として徹底させるというアイデアがユニークである。最後に岡田案は、大阪城東貨物線にある全ての駅に一連の個性ある施設を整備し、新しい都市づくりの手法を提案しており評価される。入選作品は多彩な内容のものとなったが、今年度は定時制の作品が最優秀案と優秀案に選ばれ、最優秀案の共同製作者の一人である小林慈乃さんは子息を連れて表彰式に出席され印象深い表彰式風景となった。

審査記録

9月20日　応募作品受理
10月3日　予備審査―応募作品について応募規定の点検（工高生教育小委）規定不適合事項または記入もれのある作品　92／110
10月7日　事前審査―審査会欠席の審査員2名による。
10月11日　事前審査―審査会欠席の審査員1名による。
10月12日　審査会　　審査員12名
予備審査で、内容に規定不適合事項のあるものも含め、全応募作品について投票・意見交換・討議等を行い、審査を進める。
（審査時間　13：50～18：20）

審査経過

1次　予備審査において審査結果に重大な影響を与えるような規定不適合のある作品の場合は、その都度討議のうえ検討を行うことを確認する。審査方法について質問・意見がでるが、全審査員の協議の結果、従来通りの審査方法で進めることを確認する。
全応募作品について審査員1人が10点を選び、投票する。
欠席の審査員3人の事前審査の投票（合計31点　3名の欠席審査員の内1名11点の投票があったが、協議の結果全て有効と認められた）も含める。
（審査時間　13：50～16：30）
集計結果

得　票	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
作品数	1	1	1	3	3	1	3	6	3	6	10	72

＊得点6点以上の作品で10点になるが、5点以下の得票の作品の評価について討議した結果、得票2以上（28点）について1次審査を通過したものとする。
＊得点1の作品（10点）について検討し、各審査員が特に強く推薦する作品を選び、2次審査に加えた。（1点）

2次　作品内容について、どのような評価をするか、（例えば、景勝地というものの取扱や建築物としての機能、アイデアをどのように評価するか）についてさまざまな意見が出された。
審査は、当初審査員1人につき、5点を選ぶ予定であったが、できるだけフレキシブルな選択がおこなえるよう6点を選ぶことで、全審査員の合意を得る。
（審査時間　16：30～17：25）
集計結果

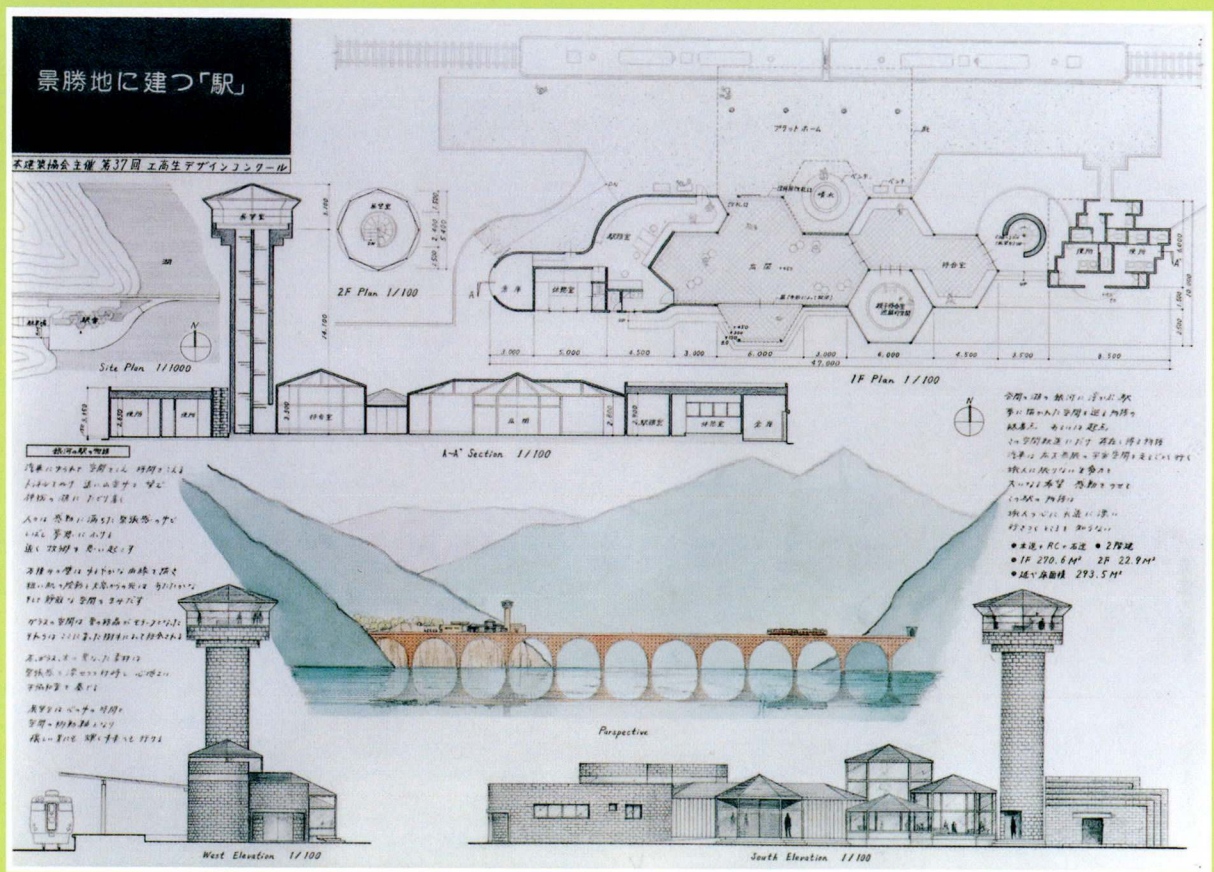
得　票	8	7	6	5	4	3	2	1	0
作品数	1	1	2	2	2	3	6	6	6

＊得点2以上の作品（17点）について検討し、2次審査を通過したものとする。
＊得点1の作品（6点）について検討し、各審査員が特に強く推薦する作品を選び、3次審査に加えた。（1点）

3次　2次審査で残った18点より10点を選んだ。ただし、2次審査で8、7、6票を獲得した作品については、10点のなかに含めるものとし、残り6点について投票を行い、協議したうえで決定した。最優秀・優秀作品の決定は、各審査員1点を選び、得票数の多かったものから、最優秀作品1点・優秀作品2点を選び、審査会を終了する。
（審査時間　17：25～18：20）

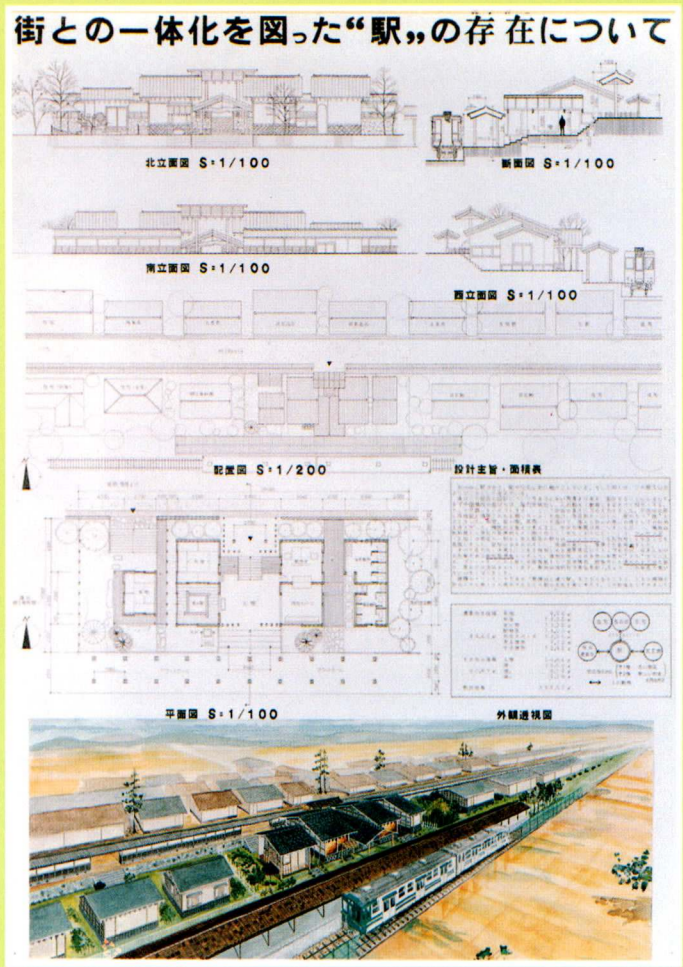
審　査　員（50音順）

委員長　中　川　洋　一／㈱安井建築設計事務所大阪事務所設計部長
委　員　池　上　俊　郎／㈱アーバンガウス研究所代表取締役
石　川　康　介／近畿大学理工学部建築学科講師
上　田　眞　司／西日本旅客鉄道㈱建設工事部建築工事課課長
川　道　麟太郎／関西大学工学部建築学科助教授
香　西　喜八郎／㈱東畑建築事務所設計部設計課長
竹　嶋　祥　夫／大阪大学工学部建築工学科講師
遠　松　展　弘／㈱日建設計設計部長
西　村　征一郎／京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科教授
早　田　　平／清水建設㈱大阪支店設計部グループ長
本　多　友　常／㈱竹中工務店大阪本店設計部設計課長
増　田　和　彦／大阪工業大学建築学教室助教授
三　谷　幸　司／㈱大林組本店建築設計第3部部長
三　宗　司　郎／㈱昭和設計取締役
森　本　正　一／㈱浦辺設計取締役



入選・最優秀賞　小林慈乃・井上洋一郎・小林健一（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校定時制3年）

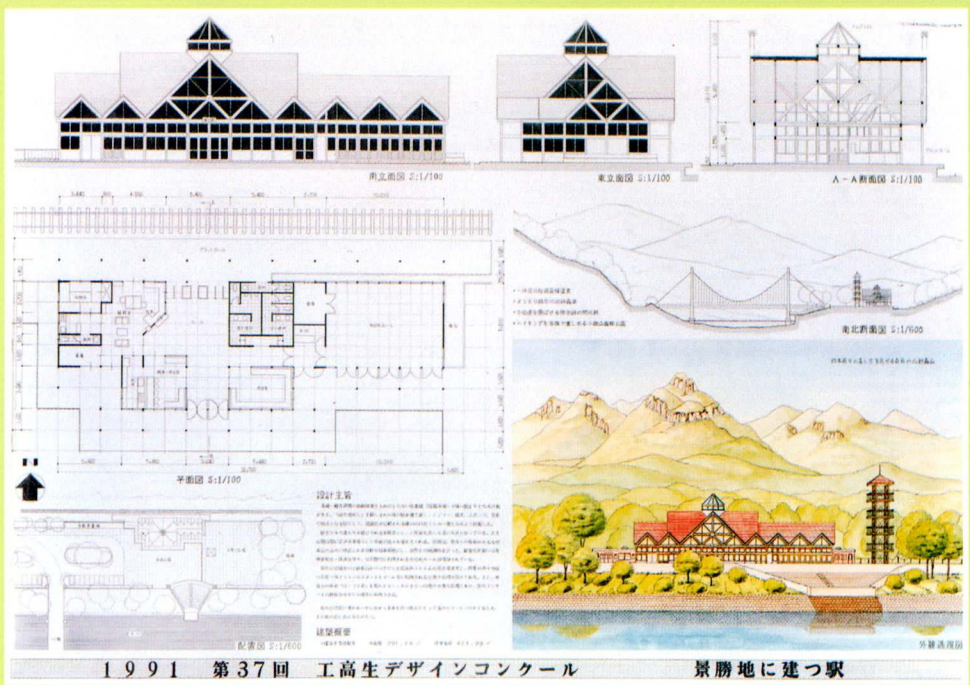
心の中で何度も汽車に乗り、旅をしました。夢に描いた空間が駅の物語となり、形になるにつれ夢が実現していくことを実感しました。駅の設計を取り組む中で旅を見つめ直し、旅人にとって駅が心に残る空間となるように考え、芸術的な観点からその雰囲気をつくるようにしました。設計に携わった三人のうち一人でも投げれば完成はなく、夜遅くまで、時には朝まで頑張れたことが、入選につながったのではないかと思います。毎日、何もわからない私達に、温かい指導をして下さった先生方にも感謝いたします。



入選・優秀賞　田村　栄・宮澤　博

（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校３年）

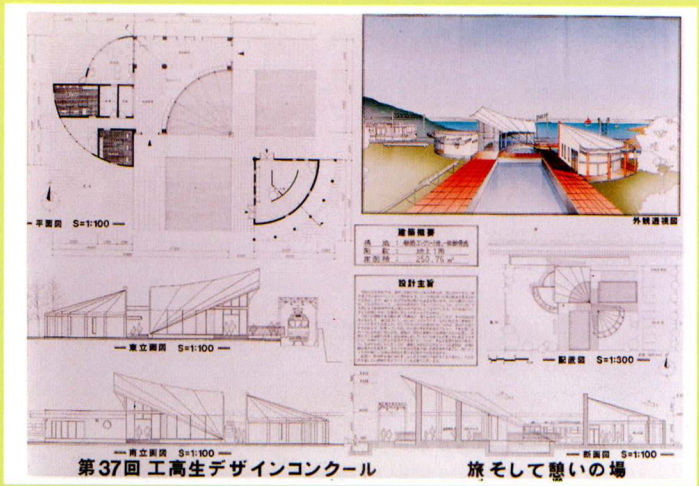
最近の建築物の多くが洋風化に走る傾向である中、私達は、日本人の原点である和風の建築こそが、この課題に適していると思いました。古い街並みについて調べ、それに融け込み、一体化してしまうような駅を考えました。本当の落ち着きや格調の高さを感じることのできる和風のデザインを用いたことにより、充実感を得ながら設計を進めることができました。取り組む中で、時には意見の食い違いなどもありましたが、３年生の最後でこのような賞を得ることができたのも、決して二人だけの力ではないと痛感しています。



入選・優秀賞　山口勝志・栗原一美

（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校定時制２年）

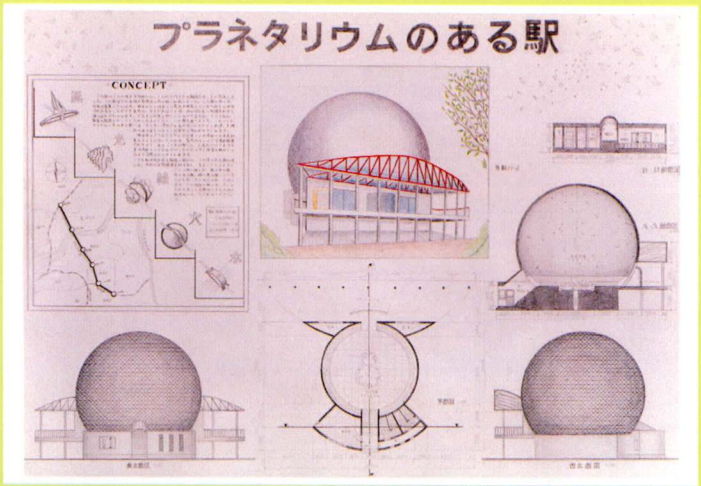
私は駅らしい駅として、地域の多くの人達がかかわり合いを持つことができ、人の心にも残る駅にしたいと考えました。何もない空白の中からは考えづらいので、実存する横川駅の地形・風土・環境を実際に目で見ながら、自分なりにアレンジして設計を進めていきました。入選の知らせを聞いた時は、あまり実感が湧かなかったのですが、優秀賞を得ることができ、後から徐々にうれしさが湧いてきました。次回は、これ以上に頑張ろうと思います。



入選　中野昌代・田中純子（共同制作）

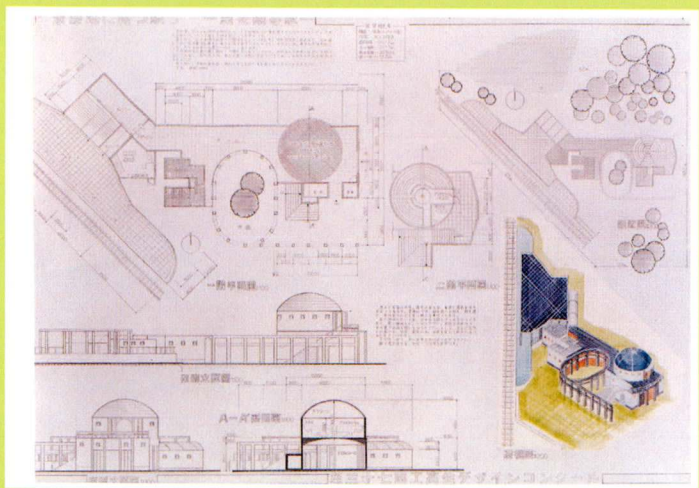
（群馬県立高崎工業高等学校）

今日の駅は、どこへ行っても同じような建物で、印象に残るものではないような気がします。そこで、その地域の特徴を生かし、海にはヨット、山にはハンググライダーと、共に帆を持つ建物をイメージして考えました。自然をフルに生かし、また、その自然を害しない建物を考えていくことも必要だと思いました。何度も挫折しながらも立ち直り、二人でお互いを励まし合いながら仕上げていきました。その結果、入選というかたちで認められたということで、驚きとうれしさで胸がいっぱいです。



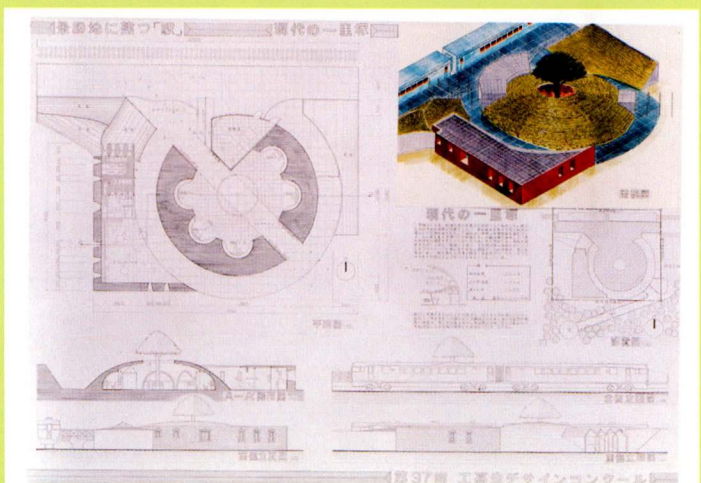
入選　岡田依子（大阪市立工芸高等学校３年）

私がこの駅を制作するにあたり考えたことは、屋根や天井といった普段はあまり目にしない部分を、何か工夫することはできないかということです。既存の駅の壁や床は、よくデザインされているものもありますが、私は天井の部分にプラネタリウムを設けることにより、待ち合いの時間を楽しく過ごすことができると考えました。また、この駅は大阪市内に設定することにより、自然の大切さを感じ、景勝地へと変えていけるものにしようと思いました。入選を知り、私を励ましてくれた家族や友人に、また、ていねいに指導してくださった先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。



入選　末藤幸生（堺市立工業高等学校３年）

景勝地の夜空には、私達の住む都会では考えられないくらいの星々が輝いています。私の思い出にある、小学生のキャンプのときに見た夜空の星々と、この景勝地に建つ駅をオーバーラップして、旅する人達の心に残る駅を考えていきました。プラネタリウムや星の情報などにより、昼間の旅とは一味違った楽しみ方がそこにはあり、星をとおして、自然をもう一度考え直すことができればよいと思いました。入選の通知は、毎日遅くまで苦労して製図を書いたことを忘れさせてくれるものでした。



入選　西田　明（堺市立工業高等学校３年）

私はこの駅を、「自然」「シンボル」「情報」というキーワードをもとにして設計しました。自然に埋没し、旅の目印として、またこの駅でその人なりの旅プランを情報により創作できる、こんな駅ができればよいと思いました。旅の歴史を調べる中で、徒歩が主な交通手段だった昔に存在した、一里塚に興味を持ち、私が考えたキーワードと合わせながら取り組みました。自分で考えたことが一つのかたちとなり、図面を完成することができただけでもうれしかったのに、入選と聞いて、この上ない喜びでいっぱいです。

課題の主旨

駅から旅がはじまる。人々の生活に「ゆとり」ができ、さまざまな「旅」のかたちが生まれてきた。四季の変化を風とともに感じるため、仲間とハイキングを楽しむため、社会生活のストレスを癒すため、家族とのつながりを深めるためなど、「旅」はきわめて多様で個性的になった。

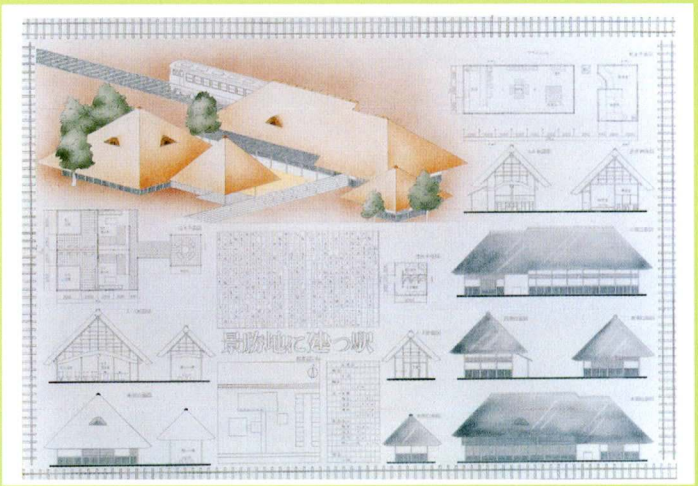
駅は、人やものを運ぶ鉄道によって生まれた建物である。都市にあっては毎日の通勤や通学に、郊外にあっては行楽や観光に利用されている。そのため駅には独特のまちや人の表情があった。しかし、最近では、駅の大型化やまちの画一的な発達によって、それらの表情に個性が見られなくなってきている。

本課題では、景勝地に建つ、単線で２両程度が停車できる小規模な「駅」を想定する。その風土、その文化、その人情にあった個性豊かな提案を求めるとともに、旅人に憩いと安らぎを与えるようなこころに残る空間であることを期待している。

入選賞牌

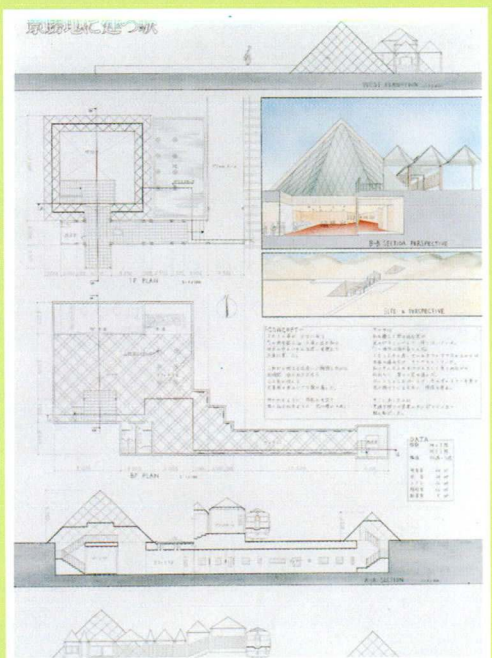


賞牌の原案は、サモトラケで発見された
「ニケの像」をモチーフとしたものです。



入選　亀井祐三子（大分県立大分工業高等学校３年）

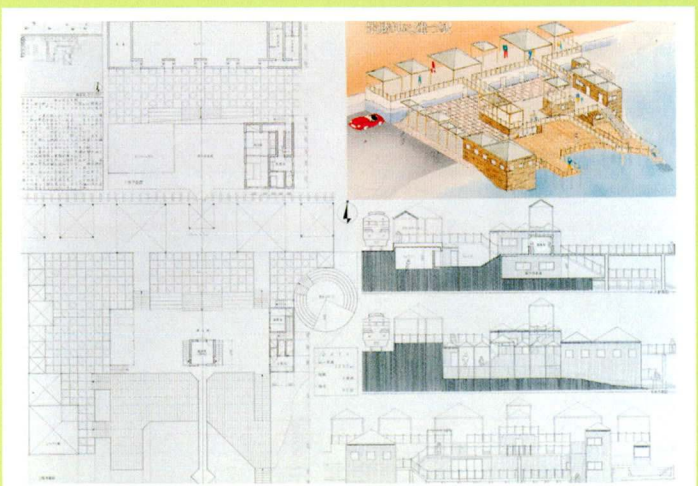
最近は、大規模で画一的な駅が多くなり、それに伴い大切な何かが、失われてきた様に思います。私はこの駅で、視覚的な安らぎを与えるためなつかしい茅葺き屋根を用い、「憩いと安らぎ」を大切に考え、敷地内に温泉を設けました。これにより、汽車を待つ駅から憩いと安らぎを与える駅へと、変化させる大きな役目を果たしています。この様な賞が、頂けるとは思ってもいませんでしたので、たいへんうれしく、これを機にこれからも頑張りたいと思います。



入選　安部　岬（大分県立大分工業高等学校３年）

もし私が旅に出るなら……と旅人を想定しました。その上で見渡す限りの大草原の中にポツリとある駅の様子、そしてその下には光をいっぱい集め、人々の心のオアシスとなるような温かいスペースをと考えました。プラットホームから見る景色は、旅人にとってきっと思い出に残るものになると思います。

この作品は、自分自身への挑戦として最大限に取り組み、完成しただけでも満足でしたが、入賞することができてとても大きな励みとなりました。



入選　竹宮浩一郎（大分県立大分工業高等学校３年）

この作品を制作するにあたり、今、盛んに開発が進められているウォーターフロントの中に駅を考えました。町の人々とふれあうことのできるストリートは、ゆとりある駅となり、駅のどこからも海を見ることができるというイメージを大切にしました。賞に入るとかではなく、自分が社会に出ることに向けて、勉強のつもりで出した図面だったので、まさか入選するとは思ってもみませんでした。

※上記入選者の感想文は、誌面の関係上委員会にて要約の上掲載しました。（文責・小山将史／教育委員会）

設計条件

1．敷　　地：自　　由
2．駅の形態：地上駅とし、駅舎及び片面のプラットホームを持ち単線とする。
　　プラットホームの長さは２両程度とし、屋根の有無は自由。
　　（プラットホーム部分の屋根は延べ面積に算入しない）
3．駅舎の面積：延べ面積300㎡以下。階数・構造は自由。
　・所要室等　駅務室（駅員２名）　適宜　　待合スペース　適宜
　　便所・洗面所・倉庫　　適宜
　　その他新しい提案のために必要と思われるスペースを適宜計画する。
4．そ　の　他：必要と思われる屋外施設を適宜計画する。

所要図面

1．配置図：縮尺は自由（線路・屋外施設などのほか方位を記入する）
2．平面図：縮尺１：100（建物周囲の状況を示し、方位を記入する）
3．立面図：縮尺１：100（２面以上）
4．断面図：縮尺１：100（１面以上）
5．透視図：外観着色仕上げ
6．設計説明：設計主旨および建築概要（建物の構造・階数および床面積など）を簡明に記入する。
7．そ の 他：平面図・断面図には室名・主要寸法を記入する。

明るく豊かな高齢社会の住まいづくりは?

荒木兵一郎

いよいよ高齢化社会も本番になってきた。若い学生たちとの雑談のなかでも「おじいちゃんが百歳になり、敬老の日には市長さんが祝いにやってきた」「母親が寝たきりのおばあちゃんの世話をするようになり、家の中は引っ繰り返っている」あるいは「近所の公園では早朝から高齢者たちがゲートボールに興じている姿を見掛ける」などが聞かれる。

とくに住宅を作ろうなどというときには、自分の老後や高齢となった家族の処遇を抜きにして、考えることはできなくなってしまった。

しかし、高齢者に対応する住まいを作るには、どのようにすればよいかについては、はっきりしないことが多い。それというのも、これまでは人生50年ということで、高齢者対応の住宅をわざわざ作る必要もなかったが、それが80年に伸び、その差の30年をどのように暮らすのか、とくに75歳を過ぎる頃からは、病気がちにもなるし、なかには痴呆症状もでてくることもある。

その上に、家族形態もこれまでは老若が同居する大家族主義であったが、これが次第にマイホーム主義の核家族化が蔓延し、高齢者の夫婦暮らしや独り暮らしが多くなってきた。すなわち、高齢となり心身の衰弱が著しくなってきたときに、頼りにできる家族たちが少なくなり、介助や看護もしてもらいにくくなった。この傾向は、わが国のみならず、工業化が進展している国々に共通しており、それぞれで重要な課題となっている。

この本は、1930年代に高齢化社会に突入した英国と、その20年後に突入した米国における高齢者住宅の変遷を概観したのち、各種の調査データや研究者の意見を聴取して現状を分析し、高齢者が求める住宅の実例を写真と平面図を主体にして紹介したものである。

全体としては、高齢者向け住宅づくりのハンドブックになることが意図されており、総花的ではあるが、要領よくまとめられている。

いずれにしても、高齢者住宅や高齢者マンション、あるいは老人ホームやデイ・サービスセンターなどといわれる高齢者向け施設が本格的に建設されるようになったのは、両国でもおおよそ30年ぐらい前からであり、まだまだ模索中のことであるが、わが国の現状からみれば、まことに羨ましい限りの対応状況が提示されている。

とくに、どんなに高齢となり心身が衰弱しても「個人生活の自立とプライバシーは守るのだ」とする欧米人の強い独立精神が随所に現れており、これを支える建築空間づくりの手法や人的介助手法の構築に至るまで、論理が一貫している。

自立生活が継続できる最後の砦は、トイレが自立して使えるかどうかである。車いすやその他の歩行補助具を利用してでも使えるトイレを、できるだけ身近に、すなわち寝室内かまたはベッドまわりに設けるべきであることが力説されている。



「高齢者住宅の企画と設計」

マーティン・ヴァリンス著
湯川利和訳

鹿島出版会　1991年4月5日刊
B5判　149頁　5,768円

わが国では未だに廊下の端部に便所がある住宅が多く、なかには屋外に便所がある住宅もある。これでは便所に行くまでに洩らしてしまい、オシメをあてがわれて寝たきりにさせられる。

また寝室についても、初期のころは急増する高齢者に対しては、雑居式の寝室が提供されていたが、人間性の発揮はプライバシーの確保からということで、個室化が求められ、それも寝ぐらでしかないものから、居間と寝室が一体になったものへ、さらには居間と寝室を分離し、独り暮らしであっても介助者や友人たちを泊まり込みで招き入れられるように、2寝室がある住宅が提供されるようになってきている。

プライバシーが確保されると、社会参加が求められ、隣人交際やクラブ活動などが促進される施設づくりが求められる。英国では20～30戸の高齢者住宅群にはウオーデンと呼ばれる住宅管理人の住宅と公共の居間ともいえる多目的室が配備される程度であるが、米国では病室はもとより、リハビリ室・プール・ジャグジ・図書室・工芸ホビー室・コーヒーショップ・美理容室・銀行・日用品売場など、生活と係わるあらゆる施設を隣接して整備し、さらには元気な高齢者から濃密な介護を必要とする高齢者までもを、まるでコンベアに乗せて墓場に送り込むかのように理路整然と整備されている町までもができているとのことである。

ウサギ小屋で雑居生活を強いられているわれわれ日本人からみると、悠々閑々の、至れり尽くせりの住宅づくりであるが、提示されている実例のすべては、高齢者ばかりが集住している姿であって、若い子供たちや孫たちはどこに消えてしまったのか、一抹の寂しさが感じられる。

いくら高齢化社会だといっても、高齢者の人口に占める割合は25%程度までのはずであるから、若い人たちとの関係をどのように構築するかについての見本を示してもらいたいものである。たしかにスープの冷めない距離に老若が住み、電話での往来が多いとのことであるが、もう、それ以上を望むというのは不可能なことなのだろうか。

著者のマーティン・ヴァリンス氏はロンドンに本拠を置く建築事務所の所長であるとともに、障害者環境センターにも所属されており、医療施設や居住施設づくりの専門家である。

訳者の湯川利和氏は「老人のための居住空間」や「世界の高齢者住宅」など、これまでにも高齢者住宅関係の著書をいくつも翻訳されており、訳書にありがちな固さが抜けている。さらに訳注には、訳者がこれまでに高齢者住宅関係で研究されてきたデータが適所に掲載されており、日本における高齢者住宅の企画と設計にも役立つように配慮されている。

（あらき・ひょういちろう/関西大学教授・建築計画学）

ブックステーション

アメリカンランドスケープの思想

ランドスケープ・デザインを志す若人へのメッセージ

都田　徹・中瀬　勲　共著

鹿島出版会　1991.11.20刊
四六判　208頁　2,369円

ここで採り上げられている5人のランドスケープ・アーキテクツの名を耳にした事のある人は造園の専門家を除いてそれ程多くないかも知れない。しかしオークランドミュージアム、ベイリー・パーク、IBM本社ビル等その優れたランドスケープ・アーキテクチュアに接し、感動を覚えた者は多いのではないだろうか。近年日本でも“環境の創造・保全に関わる専門”として確立しつつあるランドスケープ・デザインの分野を作品と思想で率いてきた5人のアメリカの先達—その言葉を直接納めた本書は、グローバルな環境問題が切迫した問題となりつつある今、ランドスケープの専門家のみならず、建築や都市、様々なデザインの現場に関わる者にとって極めて示唆深い書となっている。（O）



建築の黙示録

宮本隆司 著

平凡社　1988.9.12刊
A4判　124頁　5,800円

紹介する書物は、打ち棄てられ崩壊していく建築をしるした写真集である。第14回木村伊兵衛賞受賞。テキストとして、磯崎新の「廃墟論」が掲載されている。磯崎氏の万国博におけるたった半年間の祝祭で消え去ってしまうものにかけたエネルギーを「消滅というエクスタシーへむかうエロス」だとする下り、そして「建築は生物が死を迎えるように、いつかは廃墟になる。立ち上がった瞬間からすでに死に向かって歩み始める」とする一文。それらを意識せずに、この写真集の様々な廃墟（ベルリン大劇場から筑波博パヴィリオンに至る）を見るにあたって、言いようのないゾクゾクとしたものを感じるのは私だけであろか。　（I）



御堂筋ものがたり

三田純一 著

東方出版　1991.7.15刊
四六判　256頁　2,200円

大阪のメーンストリートとして銀杏並木に彩られた美しい街路景観を誇る御堂筋——キタからミナミへと大阪の中心部を串刺しにするこの一本の路をめぐり、江戸時代から現代に至る様々な都市文化が語られる。関一（せきはじめ）という希有な都市施政者により近代都市大阪の象徴として現在見る姿へと築かれてゆく様、日本で2番目の地下鉄建設の様々な興味深いエピソード。梅田と難波の2大ターミナルの建設、百貨店や銀行のモダーン建築の発展。そして近松門左衛門の時代——梅田界隈の寺町や遊所、堂島・北浜・船場の商人の盛衰、芝居町としての道頓堀の発展。御堂筋を北から南へ辿りながら、大阪の町や歴史が生き生きと描き出される。筆者の大阪に対する愛情が素直に感じられる好著。
（O）



建築夜楽校'90
建築空間と想像力

日本建築学会 編
伊藤哲夫・池澤夏樹・阪田誠造・河口龍夫・
木島安史・高橋鮎生・原　広司 共著

TOTO出版　1991.7.20刊
A5判　164頁　1,800円

本書籍は、日本建築学会が「建築は文化である」ということを市民に理解してもらいたいという願いが込められた「建築文化週間」の一環として催された「建築夜楽校」の模様を収録したものである。この「夜楽校」とは字のごとく、社会に対して建築関係者はもとより、一般市民と共に、建築を軸に様々なテーマについて楽しく夕べを語り明かそうというものである。開設四年目を迎えた第4期'90のテーマは「建築と創造力」。第一夜を「文学と建築」、第二夜を「美術と建築」、第三夜を「音楽と建築」とし、建築家とその分野に通じた人との対談を通して、今後の建築の在り方を探ると共に、一般市民に対しても、建築への関心が高まればといった期待も込められた書物である。
（I）



ライフデザインの時代
時間のニューパラダイム
時間本位制社会が創る90年代の諸相

ライフデザイン研究会 編著

誠文堂新光社　1991.9.14刊
A5判　216頁　1,900円

建築は時代と共に変化する文化である。ポストモダン然り、それらは「今」という時代の流行を確実に反映している。そういった意味でも、常に本書のようなトレンドを探る書物には敏感でありたい。一般の生活者の間に見られる現象として、パーソナル・アイデンティティの志向の高まり、モノの所有や金銭的な消費から人間的価値に重点を置いた私的消費の充実への移行、そして時間価値の捉え方の変化の3つがあげられる。本書はその時間的価値の捉え方の変化に注目し、建築関係では「時間の過ごし方と住まいのデザイン」、「生活時間の快適性と水回り空間」を取り上げている。
（I）



担当：会員企画小委員会／稲木裕子・大沢智弘

法令コーナー

編集委員会法令分科会

264

京都市の「福祉のまちづくりのための建築物環境整備要綱」の改正

この要綱は、身体障害者や高齢者、病弱者など、だれもが一人で不自由なく利用できる建築物の普及をめざし、不特定多数の市民が利用する建築物を適用の対象として、駐車場、通路、階段、出入口、エレベーター、便所などに関する整備の技術的な基準を定めたものである。全国に先駆けて、昭和51年4月にこの要綱を制定してから今日まで、多くの市民の理解と協力により、数多くの建築物で福祉に係る環境整備が図られてきている。

改正の要綱は平成3年9月15日から実施し、同年11月15日以後の確認申請分から適用している。

改正に当たっての基本的な考え方

要綱制定以降15年余が経過して、その間の社会経済情勢は、下記のように変化した。

①社会の高齢化が急速に進展した。

②障害者の自立と社会参加への志向が強まり、自由な移動への関心が一層高まってきている。

③福祉機器の開発、改良が進み、普及してきた。

④女性の社会参加が従前に増して進んできている。

⑤建築物の複合化、立体化、中高層化が図られてきている。

こうした社会経済情勢の変化を十分に認識し、今後策定される予定の『健康都市構想』の理念を踏まえ、これに対応したものとするとともに、今日の技術水準に見合った整備基準の再設定を図った。

改正作業の経過

要綱の改正作業のため平成2年7月に住宅局を中心とする関係部局の職員による「作業グループ」を編成し、そこで改正案の検討作業を行った。さらに、改正案についての意見を求めるため、同年10月から障害者代表、学識経験者、設計事務所団体代表などで構成した「福祉のまちづくりのための建築物に関する研究会」を設置し、この研究会で、平成3年6月までの間に4回にわたる論議をした。昭和47年7月から福祉の風土づくりを積極的に推進するために設置されている「障害者のためのモデル街づくり推進懇談会」(障害者代表、学識経験者および市議会代表等で構成)に対し、平成3年7月に意見を求めた。

別表第1　建築物の用途別福祉環境整備を必要とする部分（第3関係）

適用建築物の用途および床面積 ＼ 福祉環境整備を必要とする部分		駐車場	通路	階段・踊場	屋外からの出入口(戸)	廊下	屋内の出入口(戸)	エレベーター	エスカレーター	便所・洗面所	男児用小便器・乳幼児用設置・車いす対応仕様	カウンター	公衆用電話	点字案内板	浴室	宿泊室	観覧席	警報装置
百貨店	床面積が3,000㎡を超えるもの	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	—	—	—	◎
マーケット	床面積が1,500㎡を超え3,000㎡以下のもの	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○		—	—	—	○
小売店舗	床面積が500㎡を超え1,500㎡以下のもの		◎	○	◎	◎	◎	○		○	○	○			—	—	—	
マーケット・コンビニエンスストア	床面積が500㎡以下のもの		◎		◎	○	○	○		○	○	◎			—	—	—	
飲食店（床面積が500㎡を超えるもの）		○	◎	○	◎	◎	◎	○		○	○	◎		○	—	—	—	○
劇場・映画館・演芸場・観覧場・興行場・公会堂・集会場		◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	—	—	◎	◎
展示場・展覧会場（床面積が500㎡を超えるもの）		○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○		○	—	—	—	○
遊技場			○		○	○	○	○		○	○				—	—	—	
公衆浴場			◎		◎	◎	◎	○		○		○			◎	—	—	
理容店・美容店			○		○	○	○	○		○		○			—	—	—	
図書館・美術館・博物館・資料館		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	—	—	—	○
病院		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	○
診療所（医院）・助産所		◎	◎	○	◎	◎	◎	○		◎	◎	○	○	○	○	—	—	○
ホテル・旅館	床面積が3,000㎡を超えるもの	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎	—	◎
簡易宿所・保養所	床面積が3,000㎡以下のもの		◎		◎	○	○	○		◎	○		○		○	○	—	○
小学校・幼稚園		○	◎	○	◎	○	○	○		◎	○	○			—	—	—	
盲学校・ろう学校・養護学校		○	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎	◎	○		○	◎	—	—	◎
中学校・高等学校・大学		○	◎	○	◎	◎	◎	○		○	○	○			—	—	—	
専修学校・各種学校・職業訓練施設		○	◎	○	◎	○	○	○		○	○	○			—	—	—	
スケート場・水泳場・ボーリング場・その他スポーツ施設		○	◎	○	◎	○	○	○		○	○	○			—	—	—	○
身体障害者更生援護施設		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎
老人福祉施設		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	◎
児童福祉施設・精神薄弱者援護施設・その他福祉施設		○	◎	○	◎	○	○	○		○	○	○			—	—	—	
郵便局・その他金融機関または電気通信事業・電気事業・ガス事業の営業店舗		○	◎		◎	○	○	○		○	○	○			—	—	—	
鉄道駅舎・バスターミナル		（障害者のためのモデル街づくり推進懇談会の意見を求めたうえ別途協議を行う）																
公共交通機関の営業所・旅行案内所		○	◎	○	◎	○	○	○		◎	◎	○			—	—	—	
結婚式場		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○		○	—		—	○
神社・寺院・教会（床面積が500㎡を超えるもの）		○	◎	○	◎	○	○	○		◎	○				—	—	—	
地域活動のための集会施設		○	◎	○	◎	○	○	○		◎	○				—	—	—	
共同住宅（床面積が3,000㎡を超えるもの）			◎		◎	○	○	○		○	○				—	—	—	
事務所（床面積が3,000㎡を超えるもの）		○	◎		◎	◎	◎	○		◎	○				—	—	—	
工場（床面積が5,000㎡を超えるもの）		○	◎		◎	◎	◎	○		◎	○				—	—	—	
国・地方公共団体等が多数の市民の利用に供する施設		（上記の用途・規模に準じて別途協議を行う）																

備考1　◎印は、適用建築物の当該部分について、福祉環境整備基準に適合させることが必要な部分を示す。
2　○印は、適用建築物の当該部分について、福祉環境整備基準に適合させることが望ましい部分を示す。
3　その他の部分については、できる限り福祉環境整備基準に適合させるよう努めるものとする。

【改正前】

第1　駐車場
第2　通路
第3　階段
第4　出入口
第5　戸
第6　エレベーター
第7　便所
第8　洗面所
第9　水飲場
第10　カウンター
第11　公衆用電話
第12　浴室
第13　通報設備
第14　点字による標示
敷地内における盲人誘導についての仕様書
1　共通部分
2　屋外通路
3　主な出入口及び屋内の案内
4　階段
5　エレベーター
6　便所、洗面所、水飲場等
7　カウンター

【改正後】

第1　駐車場
第2　通路
第3　階段、踊場
第4　屋外からの出入口（戸）
第5　廊下「整備箇所の追加」
第6　屋内の出入口
第7　エレベーター
第8　エスカレーター「整備箇所の追加」
第9　便所、洗面所
第10　カウンター
第11　公衆用電話
第12　点字案内板
第13　浴室「整備箇所の追加」
第14　宿泊室「整備箇所の追加」
第15　観覧席「整備箇所の追加」
第16　警報装置
第17　点字ブロック等による標示誘導の共通事項

福祉環境整備を必要とする部分の新旧対照

主な改正内容

要綱の目的規定を明確化

改正前の要綱に明示されていなかった妊産婦および乳幼児を同伴した者についても視野に置き、だれもが不自由なく利用できるよう整備することを明確にした。

適用建築物の範囲を拡大

適用建築物の考え方を、従来の「不特定多数の市民が利用する建築物」から「多数の市民が利用する建築物」に改めることにより、コンビニエンスストア、専修学校・各種学校・職業訓練施設、電気通信事業・電気事業・ガス事業の営業店舗、バスターミナル・公共交通機関の営業店舗、結婚式場、一定規模を超える神社・寺院・教会、地域活動のための集会施設、一定規模を超える共同住宅・事務所・工場などを適用建築物に追加した。

建築物の用途別に整備する箇所等を明示

改正前の要綱において内部資料としていた「建築物における福祉環境整備を必要とする部分等」を、建築物の用途（床面積）に応じて定め、別表第1として公表した。別表第1は、左記に示す。

使用者の責務

従前は適用建築物の所有者、管理者に求めていた維持・管理の責務を、使用者（テナントなどの賃貸者等）にも義務づけた。

工事完了時の手続き

協議書が提出された建築物については、従来、工事が完了したときに福祉の環境整備状況の検査を行うこととしていた。しかし要綱に検査を受けなければならない規定がなく、一定の基準に適合している建築物に交付している標示板の交付率は5割程度であった。このため、より多くの建築物の整備が実施されるように、新たに工事完了報告の様式を定め、建築主に提出を求めることとした。

福祉環境整備基準の再設定

要綱制定から今日までの間に、他の自治体において条例、要綱などが数多く制定された。これらを参考にするとともに、現実の整備の実態を考慮した整備基準の適正化を図った。

新たに、整備箇所として廊下、エスカレーター、浴室、宿泊室および観覧席を追加した。福祉環境整備を必要とする部分の新旧対照は、左記に示す。

今後の課題

この要綱は、建築物とその敷地が適用の範囲として定められている。しかし、都市環境の整備としてとらまえた場合には、都市計画決定、区画整理事業、開発許可、公園造成、道路建設、交通運輸機関の建設等についても福祉環境の整備に関する基準を持たなければならない。他都市の要綱に見られるように、都市構造の改革を推進する立場から、公園、道路などへの適用範囲の拡大を検討する必要がある。

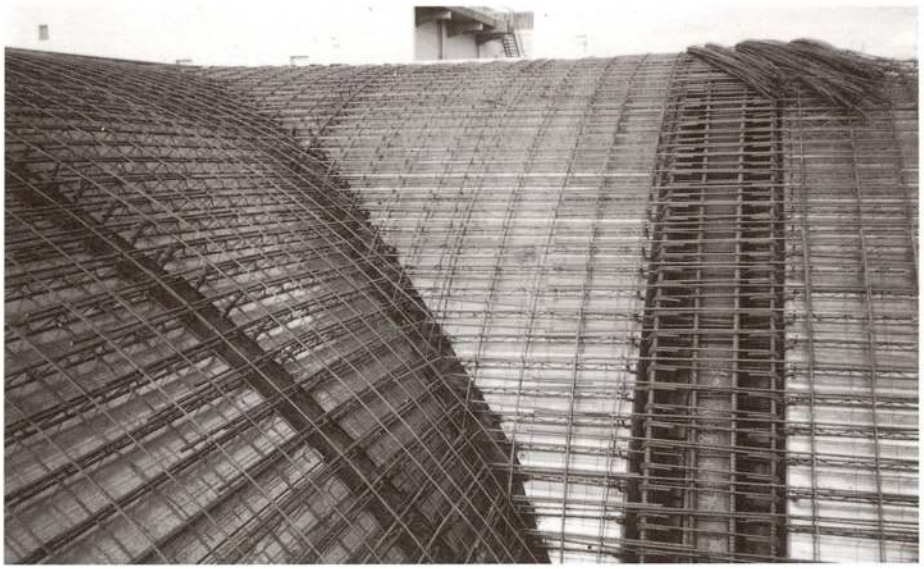
さらに、全国的に統一した基準の設定の必要性がある。例えば、視覚障害者のための点字タイルの大きさや形状、チャイムの鳴り方などが自治体によって基準がまちまちで、利用者が他府県に出かけた場合など不便である。これらの不便を解消するため統一した基準を設けることも課題である。

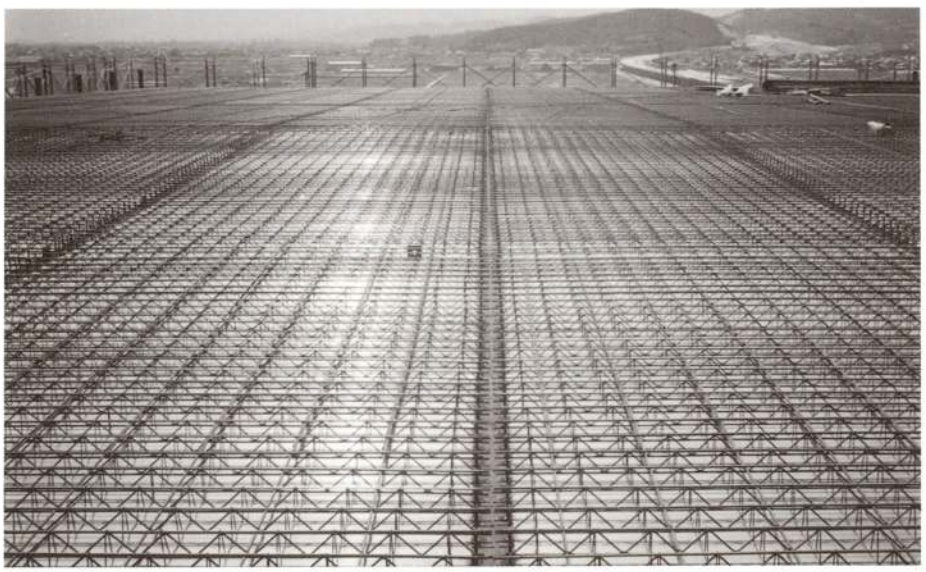
（京都市住宅局建築指導部指導課主査　梅本武史）

一方向配筋スラブに最適!!（実用新案登録品）

フェローデッキ

■ハイグレードな施工精度　■工期の短縮　■工事費低減





フェローデッキとは、床用鉄筋と捨型枠を一体化して工場生産化された床構成材で、型枠工事、スタッド工事、鉄筋工事が同時に施工できる画期的な床版工法です。

株式会社富士昭

東京本社　〒169 東京都新宿区高田馬場3-12-5（セブンビル2F）
TEL03(3360)6251(代表)　FAX03(3364)1807
大阪本社　〒530 大阪市北区天満1－7－12 天満田中ビル201号
TEL06(354)7011　FAX06(354)7031
九州本社　〒870-01 大分市大字皆春117
TEL0975(22)1775　FAX0975(22)2220

鉄筋組込捨型枠

フェローデッキ

株式会社 富士昭

東京本社　〒169 東京都新宿区高田馬場3-12-5(セブンビル2F)
TEL03(3360)6251(代表)　FAX03(3364)1807
大阪本社　〒530 大阪市北区天満1-7-12 天満田中ビル201号
TEL06(354)7011　FAX06(354)7031
九州本社　〒870-01 大分市大字皆春117
TEL0975(22)1775　FAX0975(22)2220

1．はじめに

専門職工の慢性的不足に起因したコストアップに対し作業の単純化による安全指向および工程の短縮、これらの課題に対し、総合的、有機的に開発した工法技術を総称して合理化工法と呼んでいる。

当フェローデッキやファブデッキは合理化工法のひとつとして従来の床版型枠に代るデッキプレートとスラブ鉄筋を一体化した合成材料である。た合成材料である。

2．工法の概要

a．構造体の鉄筋

スラブ主筋となる短辺方向の上下鉄筋を、ラチス状棒鋼で溶接接合している。

b．型枠

一般のデッキプレートでは剛性を高めるために、厚さ1.0～1.6㎜の鉄板を75㎜程度の船底形に折り曲げ成型してあるが、フェローデッキでは0.4㎜の薄板（溶融亜鉛メッキ）を段差４㎜のほぼ平担に近い形状としている。

c．合成材

上記、鉄筋と型枠の素材をスペーサー兼用の吊材で溶接接合してある。接合合成する際、コンクリート重量等作業荷重によるたわみに対し、むくりをつけて成形してある。

これら一連の作業をすべて工場加工することによって、現場作業を可能な限り低減することが最大のねらいである。

d．現場での対応

長辺方向鉄筋（耐力筋）は上下筋とも現場配筋となり、主筋方向も梁への定着、継手方法により一部現場配筋が必要になる。

3．特長

(1)　工程短縮

型枠工事と鉄筋工事の大半が工場製作のため、在来工法に比べ格段に短縮される。

(2)　配筋精度の確保

溶接組立のため、コンクリート打設時の乱れがなく、かぶりが完全に確保される。

(3)　コンクリート精度の確保

鉄板にむくりをつけているため、デッキプレートと比較してもコンクリートの食いこみが少い。

(4)　安全

ＳＲＣの場合、梁型枠に先行してフェローデッキの敷設が可能であり、一般の梁側型枠支持の床版工法よりも安全である。

(5)　在来工法では難度の高い作業に対する対応

かまぼこ状や急勾配、あるいはシェル型の屋根は、型枠、鉄筋とも在来工法では困難をきわめ、特に作業員の滑落防止措置がむずかしいが、フェローデッキでは不整形な形状への対応が容易なことと、鉄筋がハシゴの役目も兼ねることから、施工の簡便化・安全化にも役立つ。

4．施工計画上の留意事項

(1)　構造設計

スラブ配筋の設計上、１方向、２方向どちらの設計も可能であるが、フェローデッキの利点を生かすためには１方向の方が望ましい。

２方向設計の場合、配力筋の下端配筋の作業性を考慮しておく必要がある。

(2)　定着、ラップジョイントへの配慮

Ｓ造、ＳＲＣ造、ＲＣ造等、工法によって種々のディテールがあるが、現場作業を最少限にするためには、定着、ラップジョイントの施工法を検討しておく必要がある。

(3)　溶接組立による素材への影響について

主筋トラス、スペーサー等接合部はすべて溶接による接合としているが、瞬時自動電磁溶接であるため鉄筋強度への影響はほとんど見られない。公共試験所による引張試験においても素材の所要強度は得られている。

(4)　他工法との比較

類似工法として、ファブデッキがある。フェローデッキは巾400㎜×長4,000㎜、１パネル40kgで手運びでき簡便であるのに対し、大型スパンには長短方向とも配筋済のファブデッキが有効であるが、１パネル250kgのため、揚重機が必要となる。

建物の構造、施工生産性を総合的に検討し、状況に適した工法の選定が大事である。

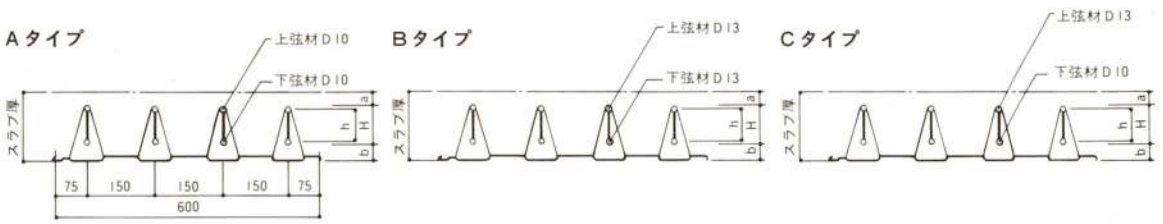
5．今後の取り組み

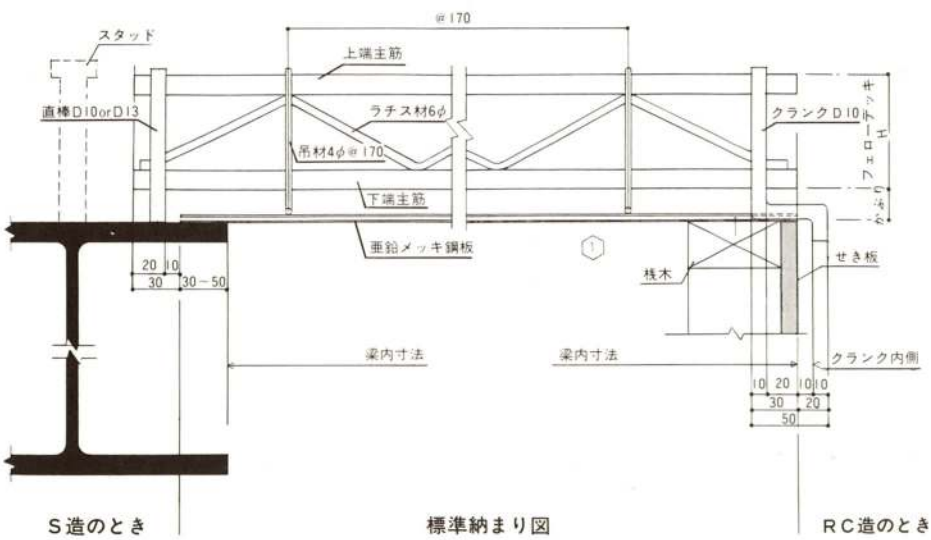
(1)　最も手間のかかる階段について、階段用フェローデッキは製作可能であり、段型部の型枠と組み合わせた工法を開発中である。

(2)　屋根下用の内断熱仕様としたフェローデッキも製品化の見通しであり、多角的な応用をはかっていけば合理化工法の一層の推進に役立つものと思われる。

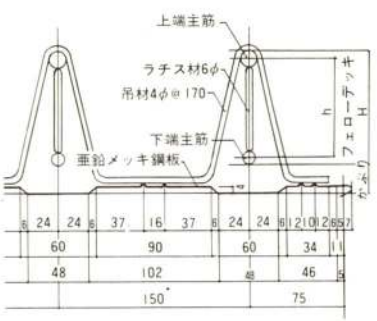
（小幡義明／建材委員）

タイプは3種類
- 許容積載荷重計算に基き使用タイプを決めます。
- Ｈの高さを変えることによりスラブ厚130～220迄対応できます。
- 下かぶり（ｂ）は、20・25・30と対応できます。





S造のとき　　標準納まり図　　RC造のとき



断面図

新規購入機器紹介 ——

熱分析装置

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391 FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00(第2、第4土曜休日)

材料試験室では、コンクリート構造物に生じた様々な劣化の原因を、各種物理試験に加え、化学的な観点からも検討を行っています。このほど、分析能力の向上を図るため、平成3年度の施設整備計画の一環として、熱分析装置（㈱リガク社製，**写真参照**）を導入しましたので、その概要をご紹介します。

1．熱分析とは

国際熱分析連合（ＩＣＴＡ）によると、"熱分析とは、物質の温度を一定のプログラムに従って変化させながら、その物質のある物理的性質の温度依存性を測定する一連の技法"と定義づけている。その物理的性質等から合計１７の測定方法に分類されるが、本稿では、今回購入したＴＧ，ＤＴＡおよびＤＳＣの３種類の分析方法について、概要を以下に示す。

①ＴＧ（Thermogravimetry；熱重量測定）

試料を加熱(冷却)または一定温度に保ちながら、物質の重量変化を温度または時間の関数として測定する技法。

主に、昇華、蒸発、吸着などの重量変化を伴う物理変化の検出に利用されている。

②ＤＴＡ（Differential Thermal analysis；示差熱分析）

試料と標準物質(一般にはαアルミナ粉末)を同時加熱(冷却)または一定温度に保ちながら、試料と基準物質との温度差を測定する方法。

試料が物質的変化あるいは化学的変化を起こす際に試料内に発生する熱変化を検出するのに利用されている。

③ＤＳＣ（Differential Scanning Calorimetry；示差走査熱量測定）

試料と標準物質を同時加熱(冷却)または一定温度に保ちながら、試料内に発生した熱変化を、それを補償するのに必要な熱量を測定する方法。

試料の比熱、反応熱および転移熱などの定量に利用されている。

2．主な使用目的

当試験所の主な使用目的を以下に示す。

①硬化コンクリートの中性化や硫酸塩反応などの化学的劣化の原因の推定

例）水酸化カルシウム、二水せっこう、エトリンガイト等を分析する。

右図に硫酸塩反応を生じた硬化コンクリートの分析例を示す。

②コンクリート用骨材の分析

例）コンクリート構造物にひびわれ等の損傷を生じさせる可能性のある粘土鉱物（モンモリロナイト，ゼオライト等）は結晶構造、結晶度、化学組成などの諸性質が微妙に変化する性質を持っている。この変化をとらえるには熱分析のうち特にＤＴＡあるいはＤＳＣが極めて有効である。

③その他

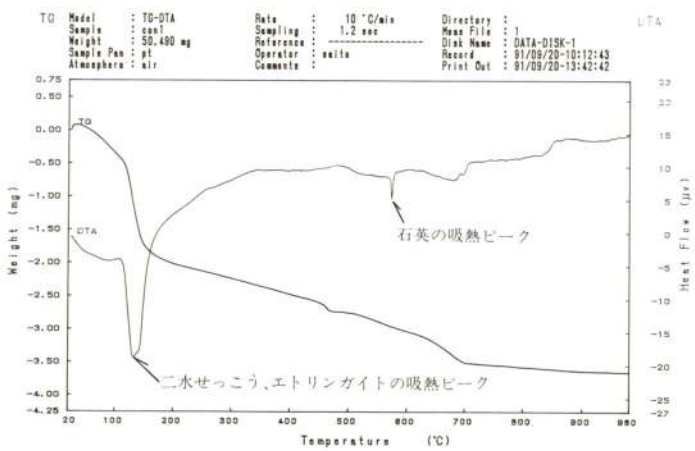
混和材（剤）等の有機分析

なお、上記分析の実施に当たっては、熱分析試験に併せて、既設の機器(偏光顕微鏡，蛍光Ｘ線分析，粉末Ｘ線回折，電子顕微鏡等)による分析等を必要に応じて実施し、評価、判断を行っている。

試験に関するお問い合わせは、材料試験室・福島札規までお願い致します。



熱分析装置



熱分析パターン図

（一例：化学的劣化を生じたコンクリート）

新年の御挨拶

1992年元旦　　(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

浅井泰

株式会社 笠谷工務店 相談役
〒659 芦屋市業平町4－1 電話0797(22)0703
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13－5 電話0797(22)5291

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市栄町2丁目10番26－712号
電話0797(81)1174

井上保夫

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町11番28号 電話06(771)2851代
〒665 自宅・宝塚市山本台2丁目1－18 電話0797(88)3490

飯田精三

共同設計株式会社
〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号 電話06(364)5836
〒560 自宅・豊中市本町2丁目2番24号 電話06(848)0775

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号
電話06(543)2281

市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

市川宏

株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市中央区伏見町4－4－10 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4－32
電話078(811)0216

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号 電話06(792)4425
FAX06(792)5837
〒547 大阪市平野区平野北2－9－15 電話06(792)4404
FAX06(792)4402

取締役会長 今西茂雄
取締役社長 今西荘一

株式会社 今西建築デザインルーム
〒550 大阪市西区北堀江1丁目13番21号 今西ビル5F
電話06(541)3051～3



今西祥郎

財団法人 大阪住宅センター 理事長
〒542 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071～3
〒591 自宅・堺市新金岡町3丁1－23－102 電話0722(51)1902

今村祐三郎

社団法人 大阪建設業協会 専務理事
事務局長
〒540 大阪市中央区北浜東1番30号 電話 06(941)4821
〒630 自宅・奈良市南永井町344－8 電話0742(62)0784

岩橋重文

株式会社 岩橋設計 代表取締役
〒640 和歌山市中之島1672 電話0734(31)7859
〒640 自宅・和歌山市中之島1661 電話0734(28)2389

上西圭治

株式会社 大気社 代表取締役会長
〒530 大阪市北区中之島3－2－18 住友中之島ビル7階
電話06(448)3603
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12－14 電話0797(22)5949

植野知雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長
〒542 大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29つるのすビル
電話06(244)1561代
〒588 自宅・堺市大美野5－9 電話0722(37)1162

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長
〒540 大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー11階
電話06(949)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4 電話0720(41)3427

尾原重信

株式会社 コアプラン設計 代表取締役
〒550 大阪市西区新町2丁目3番8号米澤ビル8F
電話06(531)4488
〒532 自宅・大阪市淀川区十三東3-14-13 電話06(302)1051

多井(オオイ)幸男

多井建築研究所 所長
〒541 大阪市中央区今橋1丁目1番地 1番館ビル
電話06(226)0008
〒657 自宅・神戸市灘区曽和町3丁目1－11
電話078(821)6133

岡本行善

株式会社 昭和設計 代表取締役社長
〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35－7 電話0797(31)3201

新年の御挨拶

1992年元旦　　(50音順)

岡　澤　　勇

岡澤建築設計事務所　所長
〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4丁目4番12号
近藤ビル6F　電話06(362)6082代表
FAX06(362)6084
〒567 茨木市藤の里2丁目16番6号
電話0726(43)5230・8953

奥　村　紘　行

株式会社　オクジュー　取締役社長
〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号　電話06(312)4131代
〒662 自宅・西宮市南郷町14番34号　電話0798(71)0011

恩　庄　治　郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長
〒565 吹田市山田東1−12−12　電話06(876)2334
〒565 自宅・吹田市山田東1−12−12　電話06(877)1406

数　井　利　美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205〜0207
〒654-01 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39−13
電話078(792)5862

亀　井　晃　治

一級建築士事務所 株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所　代表取締役
〒542 本社事務所・大阪市中央区谷町7丁目3番4−203
新谷町第3ビル2F　電話06(768)1771代
〒577 アトリエ・東大阪市上石切町2−14−35
電話0743(73)6137
〒542 アリックスタイムスクエア・大阪市中央区谷町7-3-4-105
新谷町第3ビル・1F　電話06(764)1089
〒631 自宅・奈良市藤ノ木台3丁目33番5号電話0742(43)1226

亀　田　六　夫

株式会社 増島製作所 大阪営業所　取締役所長
〒530 大阪市北区西天満3丁目13番18号 島根ビル
電話06(364)1951
〒560 自宅・豊中市刀根山元町8−12　電話06(855)5356

修成建設専門学校

理事長 **鎌　谷　秀　男**

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30　電話06(474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種3丁目8番23号　電話0797(72)1380

川　岸　繁　夫

株式会社　川岸窯業商店　代表取締役会長
〒550 大阪市西区西本町1丁目13−33　電話06(532)0461代
FAX06(535)5181
〒563 自宅・池田市天神1丁目10−10　電話 0727(61)8598

川　瀬　甲子雄

扶桑管工業株式会社　代表取締役
〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地　電話075(861)1157
大阪支店 電話06(304)0777　東京支店 電話03(3263)0501
〒565 自宅・吹田市津雲台6−7−2　電話06(834)1734

河　井　覚　弘

河井建築事務所　所長
〒631 奈良市中山町西3丁目210−25　電話0742(44)8100
0742(45)4378



河　合　芳　市

第一工業株式会社大阪支店　取締役支店長
〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661
〒560 自宅・豊中市北桜塚4−8−3−401　電話06(846)2172

河　裾　和　夫

螢光産業株式会社　代表取締役
〒531 大阪市北区本庄西3丁目9番20号
電話06(371)5146代
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目6-4　電話06(852)4148

木　下　國　男

内外パーキング施設株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀2丁目6−25　電話06(441)0477代
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号 電話0797(73)3228

菊　池　　勝

株式会社ミルックス大阪支店　専務取締役 大阪支店長
〒541 大阪市中央区本町3丁目5番7号 御堂筋本町ビル
電話06(261)4031
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉東町1−6−22 コート住吉川201
電話078(854)1612

小　西　弘　治

日本住宅パネル工業協同組合　理事長
〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
六義園ビルディング 電話03(3945)2311代表

取締役会長 **小　西　　岬**
取締役社長 **橋　本　正　章**

株式会社　小　西　設　計
〒550 大阪市西区立売堀1丁目12−16　電話06(532)4051

鴻　池　藤　一

株式会社 鴻　池　組　代表取締役会長
〒541 大阪市中央区北久宝寺町3丁目6番1号
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

会　長

佐　野　正　一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長
〒540 大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

斉　藤　國　義

株式会社　斉藤工業所　代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

新年の御挨拶

1992年元旦　　(50音順)

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
〒530 大阪市北区角田町2番15号　電話06(372)7151代

須賀好富

社団法人　日本建築積算協会関西支部　支部長
〒542 大阪市中央区東心斎橋1-3-1 長堀堂ビル3F
電話06(245)6645
近畿大学理工学部建築学科　教授
〒577 東大阪市小若江3－4－1　電話06(721)2332
内線4519
〒631 自宅・奈良市鶴舞西町2－10－E501
電話0742(41)0623

新保哲也

新保哲也アトリエ一級建築士事務所　代表
〒661 尼崎市武庫之荘2－23－16　電話06(436)5313
オージェイフィールド2F　FAX06(436)8855
〒661 自宅・尼崎市武庫町2－1－1 コータース武庫之荘408
電話06(438)4181

菅谷節

ダイダン株式会社　代表取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目3番18号
電話03(3703)1027

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長
〒540 大阪市中央区玉造2丁目25番20号　電話06(765)5650代
FAX06(765)5655
〒614 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075(971)0395

田中優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区天神橋2丁目5番25号 若杉グランドビル10F
電話06(354)2781
〒112 東京都文京区大塚3丁目1番6号
ラ・トゥール小石川　電話03(5976)2781
〒536 大阪市城東区成育4丁目20番2号　電話06(931)8857

田畑弘

株式会社　日建設計　常務取締役
大阪統轄
〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番1号　電話06(203)2361

田村真二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長
〒541 大阪市中央区本町4丁目1－13　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市浜甲子園2丁目5－19　電話0798(41)4300

取締役会長 高橋慶夫
取締役社長 上田宏二

株式会社　高橋上田設計事務所
〒550 本社・大阪市西区新町1－13－16瀬戸松ビル
電話06(533)0972
〒550 大阪事務所・大阪市西区新町1－4－21 大幸ビル
電話06(533)0971
〒113 東京事務所・東京都文京区本郷3-5-4 朝日中山ビル
電話03(3818)5173

竹内哲

日本電設工業株式会社　大阪支店　常務取締役 支店長
〒531 大阪市北区豊崎3丁目17－15　電話06(372)3533
〒560 自宅・豊中市蛍池東町2－6－11　電話06(841)3832



立野一郎

株式会社　ユニオン　会長
〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731代

谷進

浦安工業株式会社　常務取締役支店長
〒530 大阪市北区天満2丁目3－5　電話06(351)7502
FAX06(353)2160
〒530 自宅・大阪市北区天神橋3丁目10-30-507
電話06(358)6900

知見義夫

元・本会理事
〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48　電話075(691)3860

名誉会長 塚本猛次

株式会社　日建設計　名誉顧問
〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361
〒665 自宅・宝塚市清荒神2－6－27　電話0797(87)1940

辻本豊

株式会社　ツジモトユタカ設計事務所　代表取締役
〒640 和歌山市東長町中ノ丁20番地 電話0734(26)2030代
FAX0734(26)2032
〒640 自宅・和歌山市東長町中ノ丁20番地
電話0734(26)2030代

津村芳仁

オリエンタルメタル製造株式会社　代表取締役社長
〒660 尼崎市昭和南通り3丁目26番地　電話06(412)5131代
〒330 埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号　電話0484(42)3115

寺嶋繁久

株式会社　Sim建築事務所　代表取締役
〒604 京都市中京区東洞院通蛸薬師下ル
エステートビル402　電話075(256)3993
〒616 自宅・京都市右京区嵯峨鳥居本化野町12－45
電話075(871)3921

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22－507
電話06(651)0566

名誉会長・名誉正会員 東畑謙三

株式会社　東畑建築事務所　取締役会長
〒541 大阪市中央区伏見町4－4－10　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35　電話078(851)5043

新年の御挨拶

1992年元旦　　(50音順)

徳岡昌克

株式会社徳岡昌克建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満6丁目3番11−205号　電話06(314)1688
〒661 尼崎市次屋3丁目6番60号　電話06(499)0701
〒810 福岡市中央区大名1丁目8番33-703号　電話092(716)5110
〒520-06 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157番地　電話0775(96)1149
〒532 自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号　電話06(391)1438

伴昭秀

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531 大阪市北区中津6丁目8番4号　電話 06(458)3628
〒563 自宅・池田市石橋3−11−14　電話0727(61)8652

松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長

〒530 大阪市北区東天満2丁目3−10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546 大阪市東住吉区西今川2丁目8−7　電話06(702)6738

内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役会長

〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話07946(2)4668

平田勝久

株式会社 平田タイル 取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号 電話06(532)1231代
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手5丁目17−21
電話078(841)4725

松原満佐子

有限会社 柳々堂　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1−12−3　電話06(443)0167〜8
FAX06(443)1826
営業所：鴻池ビル1階 電話・FAX 06(251)8233

中原英雄

株式会社 創美設計　代表取締役

〒530 大阪市北区末広町3番21号 新星和屋町ビル
電話06(312)3587代

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長

〒540 大阪市中央区常盤町1−3−9　電話06(944)1468代

松本重太郎

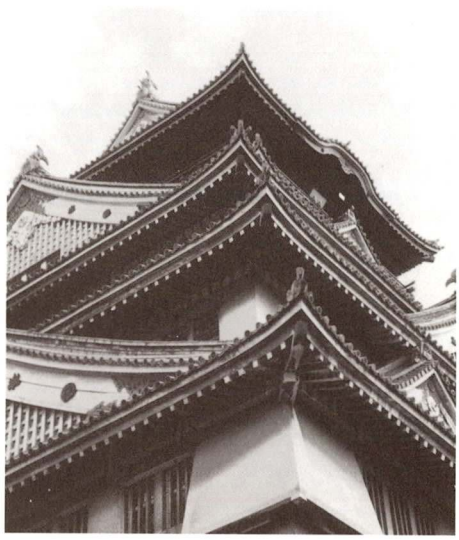
マツ六株式会社 取締役社長

〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
電話06 (774)2200

長澤孝行

日本住宅パネル工業協同組合　理事 大阪支所長

〒553 大阪市福島区大開2丁目3番1号　電話06(462)1600
〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52 電話0724(63)1260



松本弘

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06(543)2553

蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号　電話0797(72)6045

三品哲夫

財団法人 大阪市建築技術協会 理事長

〒541 大阪市中央区北浜4−1−21　住友生命淀屋橋ビル4階
電話06(208)8144
〒560 自宅・豊中市上野東1-10-45-205　電話06(848)9067

野村文英

野村建設工業株式会社　取締役社長

〒541 大阪市中央区高麗橋2丁目1番2号　電話06(226)9502

堀亀久治

三機工業株式会社　常務取締役 関西支社長

〒541 大阪市中央区北浜二丁目2番21号　電話06(202)3071
〒664 自宅・伊丹市北本町1丁目110番1号
伊丹パークホームズ2 −406　電話0727(75)3095

三谷忠義

株式会社 三谷設計　代表取締役

〒694 島根県大田市久手町波根西777の1
電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西65−1
電話08548(5)8320

林唯夫

株式会社 昭和設計　代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号　四ッ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41−11　電話06(872)3608

前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社　社長

〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号 第1横井ビル
電話06(441)1462代
〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16−21　電話06(849)5764

三輪泰司

株式会社 地域計画建築研究所 代表取締役会長

〒600 京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町82番地
大和銀行京都ビル　電話075(221)5132代
〒540 大阪市中央区城見1丁目4番70号 住友生命OBPプラザビル
電話06(942)5732
〒160 東京都新宿区新宿2丁目5番16号 霞ビル401号
電話03(3226)9130
〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 ツボウチビル
電話052(962)1224

新年の御挨拶

1992年元旦　　(50音順)

薬袋公明

株式会社　日建設計　取締役社長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

八木喜美蔵

YAGISO　BRICKS
八木惣株式会社　代表取締役社長

〒593 堺市津久野町3丁28番10号 電話0722(62)3838代
〒593 自宅・堺市津久野町3丁28番10号　電話0722(62)0722

横尾義貫

財団法人 日本建築総合試験所　理事長

〒565 本所・吹田市藤白台5－8－1
電話06(872) 0391
〒531 大淀分室・大阪市北区長柄西2－1－18
電話06(351)7217
〒592 堺分室・堺市浜寺石津町西2－1－34
電話0722(44)3912
〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24－2
電話075(622)0713
〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3
電話0794(35)5811

水間義雄

株式会社　水間組　取締役社長

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号
電話06(352)3121代
〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15　電話06(961)0785

矢野卓生

中央電気工業株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区太融寺町3番24号 電話06(312)8881代表

常務取締役西日本支社長 吉竹寛
大阪事務所所長 西田一好

株式会社　教育施設研究所　大阪事務所

〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号　電話 06(531)0913
大信ビル　FAX 06(541)7301
〒731-01 自宅・広島市安佐南区緑井2-14-19 電話082(877)2028
〒560 自宅・豊中市東寺内10－36
グリンパークハイツ　電話 06(339)3550

宮後浩

株式会社　コラムデザインセンター
株式会社　コラムパースアカデミー　代表取締役

〒542 大阪市中央区南船場4－13－15　コラムビル
電話06(245)4631
〒546 自宅・大阪市東住吉区山坂5—19—24—704
電話06(607)7571

山内恒男

株式会社 石本建築事務所　取締役 大阪支所長

〒542 大阪支所・大阪市中央区島之内1-20-19 白水ビル
電話06(251)7507
〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(3262)7161
札幌・名古屋・九州・仙台・横浜



和田眞一

株式会社　東和組　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号　電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

村石全

浪速合板株式会社　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

和中勝

株式会社　和中商店　取締役会長

〒531 大阪市北区豊崎5丁目8番11号　電話06(371)0731～5
〒150 東京都渋谷区桜丘町11－5 電話03(3464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地
電話052(481)7338
〒659 自宅・芦屋市楠町16－18－201　電話0797(31)7950

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役会長

〒650 神戸市中央区三宮町3丁目7-6 神戸フクトクビル
電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市中央区山本通4丁目17—17
電話078(221)5050

渡辺忠

東洋シヤッター株式会社　相談役

〒540 大阪市中央区常盤町1-3-8 日本生命谷町ビル
電話06(943)6571代
〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号　電話06(856)0988

毛利哲三

松尾橋梁株式会社　取締役社長

〒551 大阪市大正区鶴町3丁目4番18号
電話06 (552)1551代表

山地英雄

株式会社　オオバ大阪支店　常任顧問

〒540 大阪市中央区釣鐘町2丁3番11号
電話06(943)5161(代表)
〒565 自宅・豊中市新千里北町3－16－1　電話06(872)3746

渡部慶一

株式会社 松田平田 大阪事務所取締役所長

〒530 大阪市北区曽根崎新地2-5-3堂島TSSビル
電話06(344)7821
〒659 自宅・兵庫県芦屋市大桝町1－10
電話0797(38)7938

森淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代
〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号
電話0724(22)7710

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06(871)0851

事務局一同

社団法人　日本建築協会

北欧の都市と建築(2)——スウェーデン・ストックホルム

中島　一

水の都ストックホルム

“世界で最も美しい都市”と旅行通がいうストックホルムは、水の都である。

ストックホルムは22の島からなり、その各々がトンネルや橋で結ばれている。なかでもスルッセンの立体交差橋は、近代的都市機能を感じさせる。この町は、北欧諸都市の中で、もっとも近代的な側面をもつ都市であろう。

海がメーラレン湖と接する風光明媚の地に都市づくりが始まったのが13世紀半ば。今日、旧市街といわれている島に砦が築かれ、要塞として町は厚い城壁に囲まれながら発展していった。その後、何度か戦火にさらされるという不幸な歴史をもっている。

19世紀後半から市内の整備が行なわれ、島と島の間には橋が架けられるなど、巧みな都市計画により、自然美を損なわない見事な近代都市の姿を見せている。

ストックホルムはまた、先進的な福祉国家の首都でもある。市の中心にある文化会館の図書館や託児所、カロリンスカ病院や南病院の近代的な設備や医療システムは、視察をお奨めしたいものである。

スウェーデンの都市計画と住宅計画

この国では、地方自治体の単位としての“コミューン”に大きな権限を与え、中央政府との間にしっかりとした行政機構が確立している。このことは、都市計画・建築に関する法律等が具体的、また、詳細に体系的に定められている。さらに各種計画も上位計画の国家レベルに整合する形で各々のディティールプランを策定、承認されるシステムが確立していること等の制度的な側面と、1950年代に郊外ニュータウンに大量供給が始まる住宅計画が年代を追って、高層から低層へ、大規模から中規模へ、環境とコミュニティーの重視へと、量的にも質的にも変化して現在に至っている。このことは、都市計画に限らず、住宅について明快に“質”への変化が起こっているということである。ここでいう“質”とは、ユーザーが何を求めているかという一つの流れであり、1戸当り床面積を大きくするというようなことではない。(床面積は、設計計画の追求により、'70年代に3室で有効床面積85m²平均のものを、'80年代には70～75m²に切りつめて、経済性を追求している。)

これに関連して、最近の住宅団地は、建築表現に“個性化と伝統化”という回帰現象を知ることができる。市街地では、建物のファサードを残しながら機能的に修復して再開発する手法が、ここストックホルムでも主流であった。れんがの外周壁だけを残した現場をみたとき、単にれんがの壁一枚を残すことにどれだけの意味があるのかと思う反面、そこにこれだけの“こだわり”をもつ彼らの姿勢に一種の敬意を表したくなる。



メーラレン湖に接するストックホルム市庁前広場

住居と暮らし

私の友人である現地にマイホームをもちこの地に住みつき、この国の婦人と結婚30年にもなる青木氏を訪ねた。

住居は実にあっさりとしている。空間という“箱”を造って、そこに住み手は、自由に住めといわんばかりに感じられる。地域暖房のパイプはむき出し、内装は特に目をひくものはない。設備機器は、冷蔵庫、皿洗い器までビルトインとしているなど、インテリアコーディネートされた華やかなキッチンという感じはない。

家具やカーテンの選び方、そのレイアウトはさりげなくてよい。カラーコーディネートもシンプルで、インテリアスタイルは自然な形でおさまっている。出窓には、さりげなく花が飾られ、外から見ると、カーテンで隠すことはせず、内部が望見できるようにして、家の中のぬくもりが外にもれてくるような感じがする。



ストックホルムの旧市街——ガムラ・スタン

ダイニングルームで夕食のご馳走になったが、ダイニングテーブルの上には、ろうそくの灯りだけがある。最初は、うす暗くて食べるものがよく見えない感じがしたが、ワインでも飲んで話し出すととまらない。気取った感じではなくて、いかにもさりげない雰囲気がよい。長い冬の寒さと暗さの中での住まい方として、洗練された感じがする。

公園は住宅の中になん



デビー、コミューンの住宅団地——半円型の高層住棟



ウップランズベスビィーの住宅団地住棟

となくあるようである。ことさらに区画がはっきりしているわけでなく、歩いていて、ふっと公園の中に入っていくようで、そこには自然な地形の中に木製の遊具があったり、ベンチが配され、その向うの森には小さな丸太小屋のようなものがあったりする。

衛星都市——テビー、ウップランズベスビィー——

スウェーデンは各国に先がけて計画的な郊外都市づくりに着手した。それらの都市は、ひとつの都市としてなりたつすべての要素、すなわち住宅・商店・学校・レストラン・公園などをあわせもっている。

テビーは、ストックホルムに隣接したテビー・コミューン（市）の住宅団地。都心北方13km。ストックホルムの衛星都市計画の一つで、いくつかある衛星都市の中では比較的新しい。本格的開発は1960年代以降であるが、1950年の建築で注目を集めた、グリントトープやネスビィダールの大規模高層集合住宅から最近のものまで、一つの団地内で各年代の典型的な集合住宅スタイルが見られる。

ウップランズベスビィー——ストックホルムとテビー市に隣接するウップランズベスビィー市に1985年に開催された住宅博覧会場があり、現在その時に建設された各種モデル集合住宅がそのまま残され住宅として使用されている。ガラス屋根の中庭を囲む低層集合住宅、吹抜シースルーエレベーターをもった中層集合住宅等、ニュータイプの興味ある集合住宅も多い。

ストックホルム市庁舎

中央駅の西側にあるクングスホルメン島の南岸に建つ20世紀初頭のスウェーデンのロマンティシズムを代表するラグナル・オストベリィの傑作である。高さ106mの赤れんが造りの塔を湖面に映して、シンボリズムとバランスを巧みに表現したデザインは見事である。しかし、水に面した敷地条件からイタリア、ヴェネツィアの総督館からの借用があるともいわれている。

金のモザイク「メーラレンの女王」で壁面を飾られた黄金の間ではノーベル賞の受賞祝賀パーティが開かれる。ここの塔からの眺めは市の概観を知るに絶好である。

森の火葬場

アスプルンドが完成を見た最後の計画であり、多くの人びとが彼の最大の作品と考えるものが、1935～40年にかけてつくられた森の墓地と火葬場であった。これは国際設計競技によるもので、1915年、彼とレヴェレンツが1位となったのである。当初、2人は協同して設計するつもりだったが、建設委員会は結局アスプルンドひとりに仕事を与えたとしている。

入口の全面の広くなだらかに傾斜する芝生地に美しい十字架を伴って建っている。建築群は3つの礼拝堂と火葬場、納骨堂からなり、正門には大きなポーティコをもっている。単純な構成の中に水平線と垂直線の関係が生み出す静寂な雰囲気が満ちており、20年代の厳格なギリシャ建築の古典主義から、国際様式の影響を受けたより自然な解決への移行を表わしている。

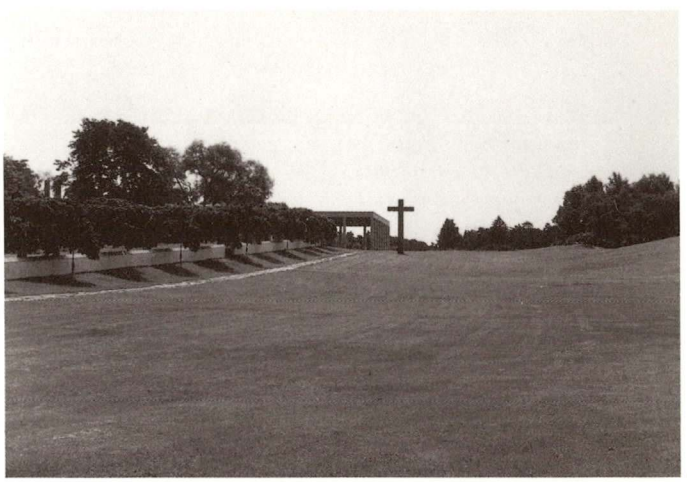
ガムラ・スタン

ストックホルムの旧市街。13世紀から19世紀にかけて建てられた建物がぎっしりと並び、その間を縫うように細い路地がうねる。

（なかじま　はじむ／愛知工業大学教授）



ストックホルム市庁舎の中庭広場



アスプルンドの森の火葬場——広くなだらかに傾斜する芝生に十字架をのぞむ

ヨコハマ都市デザインフォーラム国際会議 —1992年3月16日から4日間—

「ヨコハマ都市デザインフォーラム」（国際会議＋発表展示、提案型事業、地域展開型事業の3事業で構成）は、横浜の都市デザインが市民、自治体および企業の協力のもとに飛躍的に発展し、その結果、都市デザインに関する情報の深さと密度により横浜が世界の都市の中で高い評価と尊敬を受けるようになることを最終的目標としている。

3月に開催する国際会議は、上記フォーラムの事業の一環で、"都市のクォリティ—都市デザインの新たな展開—"のテーマのもとに、4つの分科会を中心に展開される。

会　　期　1992年 **3** 月**16**日(月)～**19**日(木)
会　　場　パシフィコ横浜会議センター
使用言語　英語、日本語（日英の同時通訳）
参 加 者　600人（日本500人、海外100人）予定

参加登録

	～1992年2月29日	〃3月1日～
一般参加者	30000円	35000円
学　　生	15000円	18000円
同伴(家族)	無　料	無　料

登録料には、すべてのセッションの参加、会議資料一式、レセプション、テクニカルツアーと昼食代を含む。

登録方法　参加希望者は、下記へ「参加登録要綱」を請求されたい。ヨコハマ都市デザインフォーラム国際会議登録事務局（〒100 東京都千代田区内幸町2-2-1日本コンベンションサービス㈱内 TEL03-3508-1213）

問合せ先　ヨコハマ都市デザインフォーラム実行委員会事務局（横浜市都市計画局内、TEL045-671-3852）

主　　催　横浜市、ヨコハマ都市デザインフォーラム実行委員会

■1992年3月16日　基調講演・全体会議

基調講演「都市のクォリティ」／槇文彦（建築家）

■3月17日　4分科会

・セッションA1

「文化人類学的側面からの都市論」

青木保（大阪大学）／ミヒャエル・トリープ（シュツットガルト大学）／武内和彦（東京大学）

・セッションA2

「エコロジー的側面からの都市論—環境と都市」

A1に同じ。

・セッションB1

「都市デザインの基盤となる文脈」

長島孝一（都市デザイナー）／レム・クールハース（建築家）


レム・クールハース

・セッションB2

「社会的文脈の中でのアーバンデザイン」

タニー・リー（香港中文大学）／ジョン・クリッケン（サンフランシスコSOMパートナー）


ウェイミング・ルー

・セッションC1

「都市づくりの文脈と参加・協動」

小林重敬(横浜国立大学)／林泰義（都市プランナー）

ウェイミング・ルー（セントポール再開発公社理事長）

・セッションC2

「既成市街地再編と都市づくりの文脈」

大村謙二郎（建築研究所）／ナタン・スタークマン（パリ都市計画局長）／フリードマン・クンスト（ベルリン州都市開発・環境保全局）／鈴木隆（獨協大学）／横浜市

・セッションD1

「自治体政策としての都市デザイン」

リチャード・ベンダー（カリフォルニア大学）／アラン・ジェイコブス（カリフォルニア大学）／渡辺定夫（東京大学）／小澤恵一（横浜市）

・セッションD2

「創造実験都市・横浜」

松葉一清（建築評論家）／ヨコハマ都市デザインプロポーザル提案者／小林克弘（建築家）／南條史生(美術評論家)／六川勝仁(横浜商工会議所)／田村美幸（公共の色彩を考える会）

■3月18日　4分科会

・セッションA3

「政治経済学的側面からの都市論—ボーダーレス社会における都市」

佐和隆光（京都大学）／ピーター・ドローゲ（マサチューセッツ工科大学）／坂村健（東京大学）

・セッションA4

「情報化都市論」　A3に同じ。

・セッションB3

「歴史的（文化的）都市資産の活用」

倉田直道（都市デザイナー）／レイモン・ルメール（ルーヴァン大学）

・セッションB4

「都市空間の質—西欧的都市空間とアジア的都市空間」

長島孝一／リアズ・ハッサン（フリンダー大学）

※セッションB1～B4にはコメンテーターとして、西村幸夫(東京大学)／リュー・タイ・カー（シンガポール政庁都市再開発局長）も参画。


リュー・タイ・カー

・セッションC3

「パートナーシップ」

林泰義／浅海義治（環境デザイナー）／中村昌広（横浜国立大学）／アラン・ジェイコブス／フレッド・エッツェル（カリフォルニア州弁護士）／ウェイミング・ルー／横浜市

・セッションC4

「住民とコミュニティデザイン」

林泰義／浅海義治／中村昌広／ランドルフ・ヘスター（カリフォルニア大学）／ダニエル・アイソファーノ（サンフランシスコMIGパートナー）／ヘンリー・サノフ（ノースカロライナ州立大学）／井上赫郎（街づくりコンサルタント）

・セッションD3

「横浜の都市資源の活用」

菅孝能（都市デザイナー）／ミヒャエル・トリープ／吉田鋼市（横浜国立大学）／村橋克彦（横浜市立大学）／延藤安弘（熊本大学）

・セッションD4

「横浜の都市デザインの方向性」

西脇敏夫（横浜市）／リチャード・ベンダー／宮村忠（関東学院大学）／林仁夫（野村不動産）／岩崎ともみ(岩崎学園)／竹山実(武蔵野美術大学)

■3月19日　横浜視察・全体会議

横浜港クルージング、横浜ビジネスパーク・ツアー、山手・関内地区ウォーキング、みなとみらい21地区ウォーキングの4コースのテクニカルツアー

「住宅・建築 省エネルギーフォーラム」 2月に開催

㈶住宅・建築省エネルギー機構は、2月の省エネルギー月間に、標記フォーラムを開催する。

日　　時　1992年 **2** 月**26**日(水)
会　　場　サンケイホール（東京・大手町）
参 加 費　15,000円（消費税を含む）
ただし、財団の情報会員等関係者は、14,000円
参加申込　㈶住宅・建築省エネルギー機構フォーラム係（〒107 東京都港区赤坂1-6-19 勝永ビル電話 03-3583-7121）

住宅・建築における省エネルギー対策の新たな展開
建設省住宅局長　立　石　　真氏
今後の省エネルギー対策のあり方
東京大学工学部教授　松　尾　　陽氏
これからの都市型集合住宅について
明治大学工学部教授　内　田　祥　哉氏
雪氷圏からみた地球環境
北海道大学名誉教授　若　濱　五　郎氏
ソ連・湾岸・温暖化
東京電力㈱取締役　加　納　時　男氏

INAXギャラリー KIOSK展

駅構内の売店（ロシア語ではキヨスク）の店舗自体を、大量の商品を効率よく収納した小さな建築として見る視点から企画された本展では、東日本JR、東日本キヨスク㈱の協力を得て、本物の店舗に、本物の商品を、並べ方もそのままに、平均的な取り扱いアイテム480種類を展示する。

会　　期　1992年 **1** 月**10**日(金)～ **2** 月**24**日(月)
10：00～18：00（2月15日は休館日）
会　　場　INAX大阪ショールーム（大阪市西区新町1-7-1 TEL06-532-1956）

大阪ＪＣ建設クラブ会員大会開催

このほど、大阪ＪＣ建設クラブ(佐野吉彦会長)の'91会員大会が、大阪市内の東洋ホテルで開かれた。

大阪ＪＣ建設クラブは、日本青年会議所(ＪＣ)の建設部会の近畿地区にある単位会の中の一つで、メンバーも建設関連のさまざまな分野から参加している。同部会は、「建設業のイメージアップ」をテーマにさまざまな事業に取り組み、日建連、建設省などと交流を図りながら、社会的提言を行っている。同クラブは、この部会を支える主軸ともいえる。

これまでも、91年４月日本ＪＣ建設部会大阪会議では、現場での集中ヒアリングを行ったほか、各業界の産業人を集め、「建設業のイメージアップと人材育成」と題したシンポジウムを企画、開催し、注目をあびている。

このほど行われた'91会員大会は、91年の活動を締めくくるもので、事業報告などに続き、シンポジウム「大阪の将来／アートの可能性」を行った。ゲストは、山本哲三氏（彫刻家・大阪芸術大学教授)、竹村楊子氏（ＡＤ＆Ａ主宰・インテリアデザイナー)。

シンポジウムでの２人のスピーチ内容はつぎのとおり。

アートと建築は、互いに近い位置関係にありながら、まちづくりの面では必ずしもうまく共働できていないのが現状で、最近ようやく市民のアートや建築に対する理解がましてきた。山本氏は、最近の仕事『パークヒルズ田原の野外彫刻を組みこんだ住宅計画』を例に、そこでは、多くのアーティストがうまく共働し、生き生きとしたアートとまちなみが調和した空間づくりの成功例を紹介した。しかしその反面、いままでの多くのまちづくりでは、アートがまちなみに埋没して、そのもの自体の精彩がない状況であると説明。



大阪ＪＣ建設クラブシンポジウム会場風景

一方、竹村氏はインテリアデザイナーとして、また、アートプロデューサーとして多くの素晴しい空間を大阪を中心に創り出してきた人物。また、主宰するＡＤ＆Ａギャラリーは、「アートは皆が育てるもの」という趣旨どおりに強い個性をもつアーティストの作品を大阪のウォーターフロント、港区のレンガ倉庫街のギャラリーに展示し、アートの理解者を増やす触媒的な活動を行っている。

２人の話は、大阪だけでなく、我が国のまちすべてをアートの似合うまちに創り変えてゆくにはいかにすべきか。それは、建築家やアーティストだけでなく、行政、都市計画、各分野での専門家、そして何よりも市民自体が対等な立場から発言し、真剣にまちづくりを考えていくことから始まるということで一致した。

'92の建設クラブは、濱浦康水氏を新会長として、大阪のまちづくりにこれまで以上に積極的に関って、さまざまな提言、企画、イベントなど行っていきたいとの方針をうちだしている。

JICX 大交流会「歩くデーターバンク」開催

このほど、日本インテリアクリエイター交流協会（JICX）の大交流会が、大阪市内の日本綿業会館（設計：渡辺節）の綿業倶楽部で開催、同会会員ら約二百数十名が参加、交流の輪を広げた。

JICX は、去年６月の設立以来、インテリアクリエイターとインテリア関連企業がひとつに融合した組織で、会員同士の業務委託や、求人・求職への対応を行う、ユニークな団体。会員は個人162名、事業所52社、企業41社で、前記の事業のほか、図書ライブラリーによる図書や、カタログの閲覧、見学会などの会員サービスを行っている。

当日は、タレントの原田伸郎らの軽妙な司会で、参加者相互の交流を図る名刺交換と次回の再会を予約する形式のゲームが行われ、再会を約したカップルは、出会いを記念したポラロイド写真を撮影し、各々に景品を渡すなど楽しい試みもあり、会場は大いに盛り上がった。また、JICX の役員や委員の紹介と、事業の内容の説明などもあわせて行われた。



JICX 大交流会会場風景

JICX 副会長の吉羽敏郎氏によると、来年度の活動予定は、

「アメリカのインテリア業界の状況視察のツアーを行う。それは、我が国のインテリア業界より進んでいるアメリカの事情をつぶさに見たいことと、我が国のインテリアソフトの価格が不明瞭なので、明快な標準体系をつくる参考にしたいため。また、アメリカにおいてのインテリアのさまざまな資格試験制度も勉強したい。国内での事業は、会員活動を拡充するため東京に JICX の推進本部の設立と、同じく東京で開催されるインターナショナルハウジングフェアにも JICX から出品したい」と抱負を語っている。

建築の眼



コモンシティ星田Ａ２ゾーン住宅
設計　坂本一成

きたうら
北浦かほる
大阪市立大学生活科学部
生活環境学科助教授

しまざき　つとむ
島崎　勉
愛知県建築部長

なかがわよういち
中川洋一
安井建築設計事務所
設計部長

こばやししろう
小林志朗
フジタ大阪支店近畿圏
設計部長

「花長風月」

関西の、国公立建築系大学の就職担当者と建築業協会との意見交換会があった。91年度卒の建築系学生の就職状況は、選り取り見どりの売り手市場だった。学生の希望は時代を反映して、３Ｋ（きつい・汚い・危険）をさけ、現場よりもゼネコンの設計部や企画開発に人気が集中しているのが昨今の状況である。学生が会社を選ぶ条件は「花長風月」と言われている。花形企業、長期休暇、社風、月給、つまり一流企業の名前の威力とオフィスの物理的環境も含めた居心地の良さ、そして気兼ねなく取れる休みと高い給料である。しかし、こんな学生たちも、一旦入社してしまうと組織の歯車に組み込まれ、大半は遅くまで残業する会社人間になってしまう。大手の建設業では男女雇用機会均等法の影響もあって、やっと女性の一部を総合職として一人前に扱うようになった。しかし、生活に目を向けていた女性にまで、会社人間としての忠誠を誓わせるようになったともとれる。数日前に国民生活審議会の「個人生活優先社会をめざして」と題した中間報告がまとめられた。様々な社会問題の背景にある企業中心社会が非効率で長い労働時間を生み、家族と過ごす時間を削り、家庭生活をゆがめている、と言う見解を示して話題を呼んだ。「花長風月」を求めている学生たちの意識の方が、会社人、家庭人、地域人、国際人としてのバランスを保ち、これからの社会で、人間らしい生活を目指しているとも考えられる。　（K. K）

無駄の効用

一見無駄に思えることが世の中には沢山ある。例えば、会議の毎に配られる資料。特にぶ厚いものは短時間には目を通すことさえ困難であって、内容を理解するまでに到らない。しかし、資料に関して思わぬ質問や指摘されることがまれにあって大変、的を得ていたりする。こうなると残る資料が全くの紙きれになるとしてもそれは無駄ではなかったということになろう。

また、生命自然の現象で、何億という精子のうちのたった１個が卵子に入るわけだから、その１個だけがあればいいのではないかと思う。ところが、現実にはある一定数以上の精子がないと受精が不可能だそうだ。思いを達し得ない何億かの精子を無駄と片づけるには少し早計である。

こんな風に考えてみると、計画経済に内在しただろう問題が推量される。沢山の経済主体が、それぞれ工夫して生産する場合、不用のものもあるかも知れない。しかし、１個の計画主体による単一の意志では生じ得ないものを創造できる有利さがあるのではないだろうか。

ひるがえって建築空間に関して言えば、効率一点ばりの計画に無理が生ずることは、無駄の効用からも解説できると思うがどうだろうか。　（T. S）

道路と建築

道路と一体になった建築の事例として、１．モニュメント、シンボルとなるゲート状のもの、２．バスセンター、駐車場、駅舎などの交通関連建築、３．道路上を人工地盤とした、道路と直接の関連のない上部利用、などがある。ゲート状のものは、道路と一体になった最も歴史的なパターンであり、パリのグランアルシュと凱旋門の新旧対比は強烈な都市的シンボルである。関西新空港のゲートタワービルは日本へのゲートとしてのシンボル性にこだわったプロジェクトである。

近年、新設道路上空の建築利用を可能にする関連法の調整がなされた。これを適用した実例が西梅田に現われたが、そこに感じるものは、都市の高度利用もここまできたかという、過密で性急な印象であり、歴史的事例にみる自然さがなく、ゆとりのある都市づくりという観点からの理解はむつかしい。今後、この手法による建築の実現については、都市景観形成上大きな影響力をもっていることと共に、公的性格の強い市民利便施設などである場合は、防災、避難、特に周辺との自然な一体的計画などに充分な調整がなされることに留意し、健康な都市づくりの成果としてお互いに認め合いたいものである。（Y. N）

ボーダーレス時代の街づくり

現在いろいろな領域でのボーダーレス時代を迎えて、我々を取り巻く生活環境は大いに変りつつあるが、建築の世界もやはり例外ではないようだ。もちろん我が国の近代建築そのものが欧米に見習うことによって始められ欧米建築家の作品も古くから存しているのだが、昨今の現象は時代を背景に着実にボーダーレスの根付きを感じさせるものがある。最近、竣工した海遊館、アサヒビール、イルパラッツォ、センチュリータワーなどすでに話題を呼び評価を受けているが、更に関西空港、東京フォーラムもすぐに姿を現わして来よう。

このような時に大変ユニークな企画として実現した福岡のシーサイドももちとネクサスワールド香椎がある。いずれも世界の建築家の個性ある共同住宅等による建築展であり、ボーダーレス街区なのである。今迄の日本では見られない独特の雰囲気をもっており、この実現にはかなりの御苦労があったものと思う。個々の建築は別として、これからこれらの建築群をどのように評価していくか、又これが我が国で果す役割は何か、今建築界がポストポストモダンで混沌としている時にその影響は少なくないであろう。時間をかけて眺めていきたいと思う。　（S. K）

夢物語
―人がかわる、街がかわる―

いつの間にか21世紀まであとわずか。
これからの建築やまちづくりも夢物語のままでなく、現実化する時が近づいてきました。
世紀末のここ20～30年、史上類のない速度と密度で科学技術の進歩があり、人間の生活環境もずい分と変わりました。反面、いろんな問題も指摘されてきました。
多様な価値観やライフスタイルに支えられたこの時代を背景に、これからの人や街のあり方を多角的に自由に語ってもらおうということで、このプロローグは始まります。
新しき年の始めに、建築と社会をとりまく夢一杯の物語が、みなさまの心の中にひろがるきっかけになればと思います。　（本号編集担当　田中直人）

人がかわる
1
生活者の昨日・今日・明日／猪飼政昭
2
自分らしく働いてますか／太田明子
3
女たちがかわり、女たちがかわる／奥村礼子
4
高齢者・身障者が、単身まちへ出る／吉田あこ
5
異人の住む周縁の町づくり／國本喜之
街がかわる
6
二つの住・宅・夢・語・り／山枡勝弥
7
これからの交流施設／大塚辰美
8
天国の楽園からの愛の文化施設、文化活動!!／北大路善之助
9
再びアメリカに学び商業を再構築する／香川英行
10
変わり方への一つの疑問／岡　並木
11
ニュータウン開発のゆくえ／奈須　豊
12
関西文化学術研究都市のゆくえ／大久保昌一
13
大阪ベイエリア開発のゆくえ／吉川和広

本特集編集幹事
河端秀直／山尾弘子／小浦久子／田中直人／中井省吾／横関真紀／吉村英祐

人がかわる夢1話

生活者の昨日・今日・明日

猪飼政昭

これまで——

15年ほど前、私の勤める会社で「これからは生活者の時代だ」と言われ出した。これは、マーケティング・コミュニケーションする側がその対象を観る視点を消費者から生活者に変えなければならない、という動きであった。定量化されたデータのみを判断の材料にするのではなく、もっと表情を持った者として対象を知ろうという指摘にもなっていった。当時のキー・ワードは「ライフ・スタイル」「生活提案」そして「生活者」だった。

そして80年代を迎える。

80年代に入り、受け手の生活感度が送り手の企業に先行する場面が出てきた。それに対応する企業が80年代に目指したことは、集約すれば二つであり、その一つが生活者指向であった。

つまり、一つはエクセレントになること。そして、もうが生活者を視座に入れ、もろもろの活動をするようになったことで、またそのために、企業は生活感性を磨く努力を重ねた。

そして、いま——

80年代後半から、日本は一応「生活重視社会」になってきた。それは、人々の生活を大事にするエネルギーが優勢になる社会の到来である。その中で、生活者は「衣食足って住遊を知る」サイクルに入ってきている。

ところで、生活が政治、経済、社会のもろもろの影響を受けてなされるものであることは、言うまでもない。これからの生活者を考える際、どうも生活に影響するそれら上部、外部のラジカルなテーマによる力が大きくなるように思える。内弁慶的、平和ボケの中での生活のあり方では済まなくなってきそうだ。

90年代は、そう甘くはない。

これからの社会——

では、これからの社会がどうなるのか、の予測の中で生活者の変化の方向を眺めてみる。

私はこれからの生活者に影響を与える、または生活者が否応無く巻き込まれる社会トレンドを5つ挙げたい。

■**「個別社会」**　これはますます個別化された生活原理で社会が運営されること。多国籍化という予想の前に、世代、地域などという従来の課題に、もう一つの大きな難儀な課題が加わる。

■**「ソフト重視社会」**　これまでも観られたこのソフト化のトレンドに拍車がかかる。これが生活者のレベルでは、どうなるのか。私には、高感度化といわれたこれまでのトレンドから、より知的で情趣的な内容を持つ人が活躍し出すように思える。

■**「感動欲求社会」**　琴線にふれる文化を求め、そこで感動したい、とする欲求が増大する社会。

■**「シニア社会」**　中高年齢層の社会に占めるボリュームの増大は、社会構造の変化だけではなく、社会価値のシニア化を招く。「大人価値」の増大である。振り返れば、アメリカ社会が子どもにディズニーランドと「大人になること」しか与えてこなかったことに対し、日本は子ども、若者に多くを与え過ぎた。

■**「地球意識社会」**　地球規模で物事を考える必要性が理解され出し、情報化がそれを促進する社会。特に、「国際的であること」と「地球規模の環境意識」が社会の主要論点となる。

これらを考えると、どうも生活者は、これはおかしな表現ではあるが、社会的な存在にならざるを得ない。

これからの生活者——

これからの生活者は、今まで以上に大きな時の流れに身を任せることになる。それで生活者はどうなるのか。

私は30代を生活者探求に費やしてきた。というほどのことはないが、生業として生活者を考えて10年。生活者探求、以前は梅干と思っていたが、最近ではらっきょう、と思っている。その時々のお客の注文に合わせていたことで、自分の仮説といえるほどのものがなかったことを考えれば、当然のこと。ただ、これまで「これからの生活者像」で描かれた姿は、余りにも「今より賢く、美しく」的な大仰なものが多くなかったか。

そこで、私はほどほどのところで予想してみる。

まず生活者の作法。キー・ワードは「技巧的生活者」。それぞれの立場、階層で、外からの力がどれほどのものであろうと、かなり技巧でやっていきそうな気がする。ところで、この言葉は谷崎潤一郎が言っていたことであるが——。

つぎに生活者の気分。こっちは「エンジョイ」というキー・ワードを挙げたい。ENJOY:楽しむ、おもしろく……する、楽しみ味わう。アメリカでは一杯の水割り、一皿の料理が「エンジョイなさい」という言葉とともに供される。私はこれが好きで、それも可愛い女の子に言われればチップも弾んでしまう。分相応に楽しむ。この気分が大きくなるように思える。

本当に、90年代、エンジョイされるモノ、コト、バをどれだけ揃えられるかが、私たちの課題ではないか。

（いかい　まさあき　株式会社電通マーケティング局ディレクター）

人がかわる夢2話

自分らしく働いてますか

太田明子

近年、あちこちで働き方が話題になっているように思う。

ひと頃、ニューオフィスブームというのがあり、景気の良さも手伝って「オフィス」がどんどん綺麗になった。「快適性の重視」「知的生産性向上支援」などというフレーズが声高に叫ばれ、商品生産の効率追求から、やっと働く「ひと」に光があたるようになった。しかし、企業側にしてみれば、それはやはり究極の生産性、効率性の追求であり、企業のイメージアップのためではなかっただろうか。

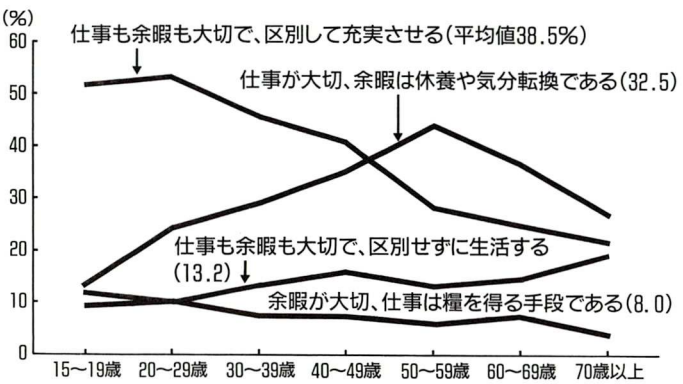
ところが、一度快適な空間を（とはいえ、それ以前が劣悪すぎたともいえるが）味わってしまったわれわれワーカーは、自らもその快適性を追求することに気づき始めた。長期休暇やフレックスタイムの導入は、「ひと」を意識したものであっただろう。企業側が制度に踏み切ったおかげで、働く側も改めて「働き方」を意識するようになったのではないだろうか。

「遊職人種」がふえる

埼玉県志木市において、初めてサテライトオフィスの実験が行われたのは昭和63年5月のことである。東京の一極集中の是正、都心の地価急騰対策、社員の持ち家促進等を背景に、今までの常識を破った斬新な発想だと話題になった。

「職住近接」という言葉は、当時、一見目新しく見られたが、冷静に考えてみるとそうでもないはずである。その昔、農村社会において、田畑と家というのはそう離れていなかったはずである。また、工業社会として栄えた時期、住居は工場の近くに建てられ、また、鉱山の周辺には町ができるほど人が集まっていたのではなかったであろうか。当時は、仕事場の近くに住むことで生産性向上のための効率化をはかっていたのであろう。

しかし、時代とともに産業が都市部へと集中し始めると、ひとも都心に近づくようになった。無意識のうちに「職住近接」



資料出所：総理府「余暇と旅行に関する世論調査」昭和61年

仕事と余暇に対する考え方（年齢別）



家族でリゾートオフィスを利用すると、休日でなくても、家族のコミュニケーションがはかれる。（但馬テレワークオフィス滞在中の一コマ）

協力：大林組　萩原氏

を実践した結果、都心には人とものが溢れるほどになってしまった。そして、家を求めて、人々の住まいは郊外へと広がっていった。気がつくと「職」と「住」は離れていた…。

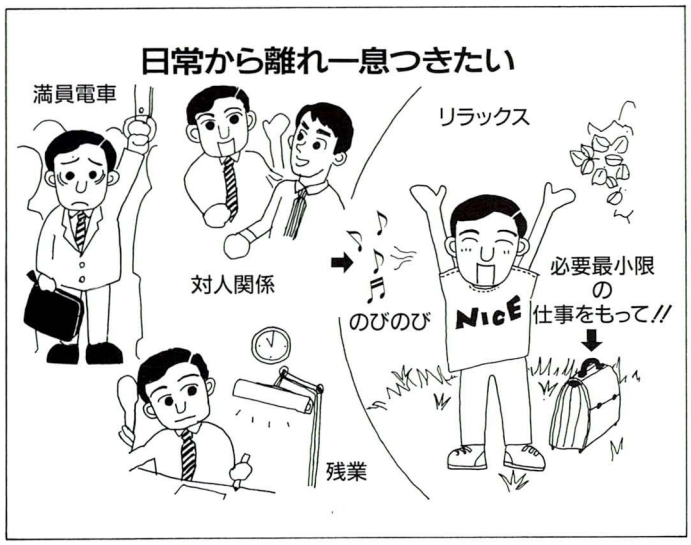
しかし、悲観することはない。さまざまな努力を経て、世の中が高度な成長をとげた今、私たちには、これまででは考えられなかったような自由と選択肢が新たに与えられたのだから。

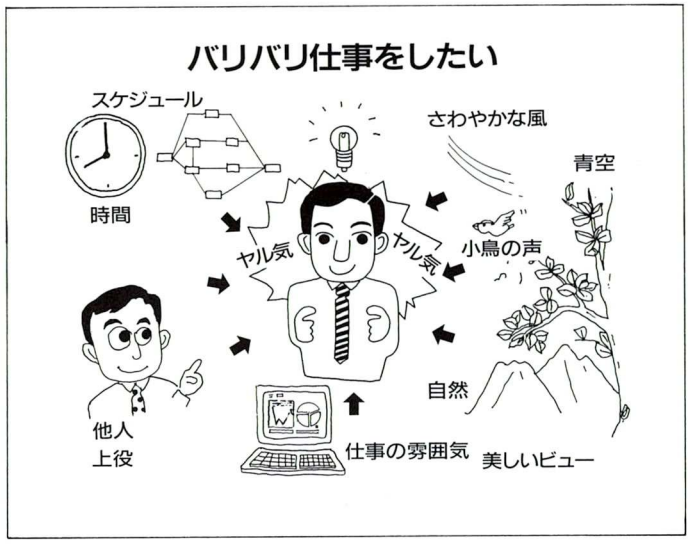
もう、一致団結して物をつくらなければならない時代ではない。いま、もっと自由に、もっと楽しく働くことができるはずである。「遊職人種」なる言葉も出てきた。働くことと遊ぶこと、そして暮らすこと、そのすべてにもっと自分らしさを追求してみてはどうだろうか。

テレワークオフィスの試み

この秋、兵庫県が中心となって県内に二つの「テレワークオフィス」を仮設した。淡路島のリゾートホテルに一つ、但馬のペンションにもう一つである。「こんなものをつくってなんになる」「コストパフォーマンスは本当によいのか」などという声も聞こえてくる。しかし、そんなことを証明するためにつくったのではないということをご理解いただきたい。

サテライトオフィスやリゾートオフィスは、もっと自由に、もっと楽しく働くための手段の選択肢の一つにすぎない。こんなところで、こんなものを使って働いてみたら、あるいは暮らしてみたら今まで忘れていたことを思い出すかもしれないし、気づかなかったことが見えてくるかもしれない。現に、サテライトオフィスやリゾートオフィスの試みを実際に体験し、あるいは研究して、これまでと違った働き方、家族のあり方、暮ら





仕事ももっとしたいし、もっと楽しみたい。これからはこんな欲ばりもあっていいのでは？　協力：内田洋行



この姿を「勤務」と見るか「リゾートの延長」と見るか?ニセコリゾートオフィスにて

し方、生き方が見えてきたという人も多い。

本当のゆとりと豊かさを求めて

国の豊かさと幸せを求めて、ひたすらに働く時代は過ぎた。そして、豊かになった国の中で生まれ育ってきた世代が社会に出てくる時代がやって来た。「とらばーゆ」や「第二新卒」といった言葉が流行となり、実際に行動に移してしまう人たちのキーワードは『いい感じで働きたい』。自分らしく働き、生きていくためにあらゆる手段と可能性を模索し、試行し続けるという。従来の意識や常識を否定しているわけではない。日本人独特の協調性や忍耐力があったからこそ、今の日本があるわけである。しかし、時の流れとともにわれわれを取りまく状況は変化し、そこに生きる人々の姿も変わっていくのだから、働き方も変わって当然である。

表現こそ違って見えるかもしれないが、一人の人間として幸せを望む心はいつの時代も変わらないであろう。自分や家族の幸せを確保し、他人の幸せにまで気が回るようになったとき、はじめて本当のゆとりと豊かさが生まれるのだと思う。

（おおた　あきこ　日本サテライトオフィス協会チーフコーディネーター）

人がかわる 夢 3話

女たちがかわり、女たちがかわる

奥村礼子

女がかわった、男も少しかわったが…

みんな知的に向上した？

夢でなく現実である。女性の高学歴化も社会進出も、結婚しないかもしれない症候群も、出生率低下も。これに加えて、日本が先進国の間では犯罪発生率が低いことや、昨今、いわゆる３Ｋの仕事が嫌がられるのも平和な日本の高〜い〝教育熱〟のたまものと言えましょう!?

小さい頃から男女とも勉強ができることが評価の対象となり、多くの人が頭や感性を使う仕事につきたがる。趣味やスポーツでの〝肉体遊び〟はカッコ良いが、〝肉体労働〟はカッコ悪いのである。腕力の問題ではないので、男性社会の壁はあっても女性がつける仕事は多く、やみくもに結婚はしなくなり、生活の地味部分の家事・育事（育事は少し違うが）だけでは生きがいを喪失する女性も増えた。男女とも結婚したい症候群はあるのだが…３高指向、自分の生き方変えたくない指向、僕の母ちゃん求める指向、逆玉指向etc.，男女思惑入り乱れ、結ばれる糸が少なくなった。

働き方が悪い

女性の仕事や生きがいに理解を示す男性も増え、縁あって結ばれても、家事、育事は女性側にくるのが現実。これは〝女がスルモノ〟の意識のほかに、仕事人間や企業戦士のような働き方をする男性が多く、時間がとれないことにもよる（わざと夜飲んで週末ゴルフに行く人もいるが）。そして女性も仕事人間の働き方をすれば、子育ては困難だ。生活多様派エンジョイ派も出現しているが、まだ忙しすぎる人、忙しいのを自慢する人も多く、本当に働き方が悪い。

夫婦ゲンカするよりも

女性の社会進出がもっと進んでいる米国でも、家事、育事の分担で夫婦が気まずい思いをするよりは、人を雇い、あるいは、いろいろなサービス業を利用する人が増大しているそうだ。

少産化が、経済性や国力の危機で問題視され始めた。〝国のために産むんじゃない！〟と腹も立つが、それで、仕事も子育てもしたい人をサポートするシステムが整えられるなら、まあ良いか。だが子供を欲しくない人がいても当然だし、都会だけでなく、地方でもこれだけ幼児からの教育が盛んであれば、子供にかける親の手間や費用は膨大であり、さらに住環境等を考えると、少なく産んで丁寧に育てようと思うのは当然だ。

女がかかわる

生活も街づくりも地味と派手

仕事を持つ女性が増え、消費者から生産者側で活躍する女性が多くなったが、街づくりとなるとまだ少ない。しかし「女のまちづくり宣言　京都発」（学芸出版社）（**写真**参照）などの本も出て、抽象論でなく生活体験による、男性には発想のできない具体的な提案もあり、見る人が見れば新たなビジネスや空間デザインが次々浮かぶはずである。





街へのかかわり方は年齢、性別等個人によってさまざま。都市計画のプロと思っている人も、自分の体験した視点でしか具体的な発想はできない。私自身、学生時代からもっと女性や子供、老人、身障者など社会的弱者も街づくりに参画しなければと頭で考えてはいたが、某ゼネコンのＣＭで〝面白くなければ街ではない〟みたいなものがあったように、子育てを体験するまでは〝面白さ〟〝魅力の仕掛け〟といった派手な面を追求し、〝強者の論理の街づくり〟をしがちだったと反省している。

健康な若者や大人はいろいろな街の面白エキスのはしご享受で生活ができるが、社会的弱者には、生活のインフラともいうべきものが、ソフトでもハードでもいまだに不足している。街づくりは、面白さや魅力といった派手な空間づくりと、生活のインフラの地道で地味な空間づくりを絶えず考えなくてはならない。そのために、さまざまな立場の問題意識を持った人々の意見を聞く場を、行政も民間も積極的に設定する必要がある。

母がかかわる街づくり

高齢者のための町づくりが建設省を中心に言われているが、これは高齢者自身だけでなく、介護する者と介護される者とのかかわりも当然重視されてくる。

これまで子供と都市空間についても論じられてきたが、子供と一口で言っても保護者と一緒でなければどこへも行けない乳

ユートピアCity ワーキングマザー編

□中・低層は優先的に乳幼児、身障者、高齢者のいる家庭が入居

□アイスボックス付き買い置きボックスが郵便受けと同様に設置（**写真**参照）
- 近くのスーパーと提携し、電話で頼めば食料品、日用品がボックス内に置かれている。（生鮮食品もアイスボックス付きなので安心）



宅配物受け渡しロッカー
——オンラインで結ばれ、カード1枚で宅配物の受け渡しができる。

□共同施設・レンタルルーム
- 保育園——一時保育、病気保育も可能。親が希望すれば各種幼児教室のスタッフが派遣され、保育時間内に受けられる。
- 子供の城——学童保育中心だが、乳幼児も遊べ、雨の日のプレイルームでもある。専任スタッフがおり、各種イベントを子供達とともに開催。おけいこ事教室もある。
- アスレチックルーム
- 来客用の宿泊施設
- カラオケ付きパーティールーム
- トランクルーム
- 布団乾燥室
- ビジネスルーム——コピー、ファクシミリ、ワープロ、パソコン完備

□サービスや業者の紹介・斡旋
- ベビーシッター、ルームメイドは常駐
- 郵便・荷物——預かり・発送受付
- メッセージサービス
- ハウスクリーニング、メンテナンスの業者斡旋
- クリーニング24時間受付
- 絵画・観葉植物レンタル
- 各種レンタル
- 病院・医院の情報提供
- おけいこ事、塾の情報提供

□外部空間
- 乳母車、車イスで諸施設へ行けるルート設定
- 遊び場、公園は乳幼児から小中生まで遊べるきめ細かな遊具や空間がデザインされている。保護者や高齢者のために、植栽の縁石などを利用し、多彩に座れる空間をデザイン。
- 屋外バーベキューコーナーや貸農園、貸花壇があり、住民が自主管理できる外部空間がある。

幼児と、小・中学生とは分けて（場合によってはもっと細かく）考える必要があり、母親＋乳幼児期は乳幼児だけでなく母親にも使いやすい空間でなくてはならないのに、見過ごされている場合が多い。〝母親と都市〟は長い間ほっておかれた視点である。小さい子供連れの母親は、初めて街から〝お前たちは来るな〟と拒絶される思いを経験する。あんなに〝いらっしゃい〟と言われてきた都市から！今までグルメできたのに、コンサートや美術館に行けたのに、子連れはダメ。乳母車を押して歩けば段差だらけ、梅田に買い物に行けば階段だらけで、車イスの人たちの苦労が実感でき、彼らはもっと街から拒絶されていると思うとやりきれない。こういった都心部には車イスや乳母車でも行ける、つまりエレベータやエスカレーターを使いながら歩き回れるルートを設定し、ルートマップを掲示するぐらいの配慮が必要だ。

ワーキングマザーの初夢

最近はいろいろなサービスが受けられる集合住宅が増えてきたが、そろそろワーキングマザーとその子供たちをターゲットにしたものが現れて良いはずだ。立地は職住近接で、諸施設のストックの多い都市居住。多様なサービスを受けやすい大規模集合住宅。高齢者、身障者、一般家庭がおのおの高いサービスが受けられるユートピアCityが誕生という設定で、特にワーキングマザーのために次のような施設やサービスがある初夢を見させてもらった。

（おくむら れいこ 都市プランナー）

夢

人がかわる夢4話

高齢者・身障者が、単身まちへ出る

吉田あこ

音楽会の電動車いす君

動かしてはいけないとされた脊損者を立たせた治療に成功したリハビリ医学は、次に伝統的手動車いすに代わって電動車いすを普及させ、四肢まひの重度者をも自立して街を活歩させるようにした。

この重度君にクリスマスの音楽祭の切符を贈ると、所定の時刻にちゃんと席にひとりで来ている。一方、手動の車いすの軽度君達はリフトカーを手配し、乗降時の付添をつけ交通渋滞の中を来るので、いつも遅刻スレスレである。重度君は単車なみで歩道も車道も混雑を縫って自在である。身は言語障害、首も上体も背もたれに固定しての姿であるが、乗り降り切符も手助けも必要ないので自宅から直行便、それに贈呈用の花束まで持参するので人気はいや増すばかり。



電動車いす君はいつも花形！

ラブレター好きのパソコン通信君



今日はあの子にチュッ　チュッ　チュッ…

近年、電話に押されて古色豊かなラブレターは忘れられがちだが、ここに人気上昇はパソコン通信である。見られず、おそわれず、暗号だけで、夢のような自分のイメージを相手に与え得、ウィットを交わせるので内気な男女に愛好される。これが、会話不得手の聴障者に向く。文章は綴れてもやさしい声で表現できない人々はこれを使って人々の心に飛び込み、交流を深め、自らを学ぶ。

また、打つ速度の遅い脳性まひ君はリアルタイムの交信でなく、じっくり文章を練るワープロでラブレターを発信し、ついに本まで出版する。身はベッドに横たわり、スキャンの点灯に合わせて息を吹き、やっと1字打ち込むわけだが、時間は十分あり、それこそ1字1字に思いがこもる。

ハイテク・ホームの単身君

身を粉にして家事作業をこなすのは往時の不便住宅の時代。今は家中の掃除は塵が床に落ちる前に空気清浄器が吸塵し、衣類の汚れも洗濯ロボットが乾燥からハンガーかけまでやってくれ、朝風呂はベッドからブランコに乗って浴槽へ、噴流で体を洗わせ、朝食はロボットがメニュー通りに配膳して運んでくる。新聞やメールはFAXが書斎の机上に配ってくれる。ヤング時代から愛好したこのホームオートメ化が、体の不自由になりかけた高齢期にも有効で、単身生活を支えてくれる。まさに年を越えたエイジ・レス・ホームとはこのことである。



「家は住むための機械」と、建築家コルビジェは言ったそうな！

スクーターで走る寝たきり君



寝たきり君は走ってばかり

寝たきり同様の高齢者も天井を走る水平移動機を使って、重度者用のスクーターに乗り移ってしまえば、あとはこのスタイルで街を自在に走れる。

スクーターの外観は若者用と同様だが、坐の安定が特にしっかり工夫され、操作も本人の上肢機能に合わせて特に配慮がある。これは三輪車なので、路面の斜面も少々の曲面も狭い路も安定して通行できるから、四輪の車いすより街路向きである。ドイツなどでは体の不自由な高齢者が愛好し、観光やショッピング先でよく出会う。

ピンクのマフラーをなびかせ、ショートヘアで走る姿を見ると、とても、スクーターからひとりで降りられない人とは思えないさっそうとした姿である。それとわかるのは、この人が、車いす用トイレを捜している時だけである。

21世紀にはスクーターに電話もつき、ひとりぐらしの留守宅も防犯コントロールも、風呂わかしも路上でリモコンできることになろう。

（よしだ　あこ　筑波技術短期大学建築工学科教授・工学博士）

人がかわる夢5話

異人の住む周縁の町づくり

國本喜之

夢のあるまち

ニューヨークは「ゴールデン・ドア」と言われる。とにかくそこへ行って頑張れば道が開けるだろうという夢を与え続けている都市である。夢が人を呼び寄せる。雑多な人が集まることにより、都市の活力が再生産されている。

この都市は常に「周縁のまち」を持っている。かつてはソーホー地区がそうだった。若いアーティストたちが集まり、暗くて、冬は寒い古びた倉庫の中から新しい文化と夢とアートを生み出していった。既成のものとは違う感性はなかなか受けいれられないけれど、出し続けていくことで次第に評価が生まれる。今では、ソーホーのアート・デザイン・ギャラリーはステイタスのあるメジャー文化になっている。その結果、家賃も上がり、かけだしのアーティストには手の届かないマチになってしまった。もはや「周縁の町」のパワーはない。これに代わって、ホボーケンやトライベッカが新しい「周縁の町」になってきていると聞く。

周縁の町を取りこんでいくことで、そこで生まれてきた新しい生活・文化・スタイルが、既成の都市の中心を生きかえらせることになる。

三つの「周縁の町」

「周縁の町」には三つのタイプがある。①大学の町、②外国人の住む町、③アルチザン・コロニー。

「大学の町」では毎年4分の1程度の若い世代が入れ替わる。常に新しい血を地域に送りこんでいくことができる「町」である。そして本来的には、自治と自由のあるアジール。

「外国人の住む町」には、外から異文化を持ちこんできた人々が住みついている。彼らの持ちこむ異質な生活文化は、日常のなじみのある生活の中の刺激になったり、不協和音になったりしながらも、相互に認めあっていく中で、新しい生活環境が生まれる。

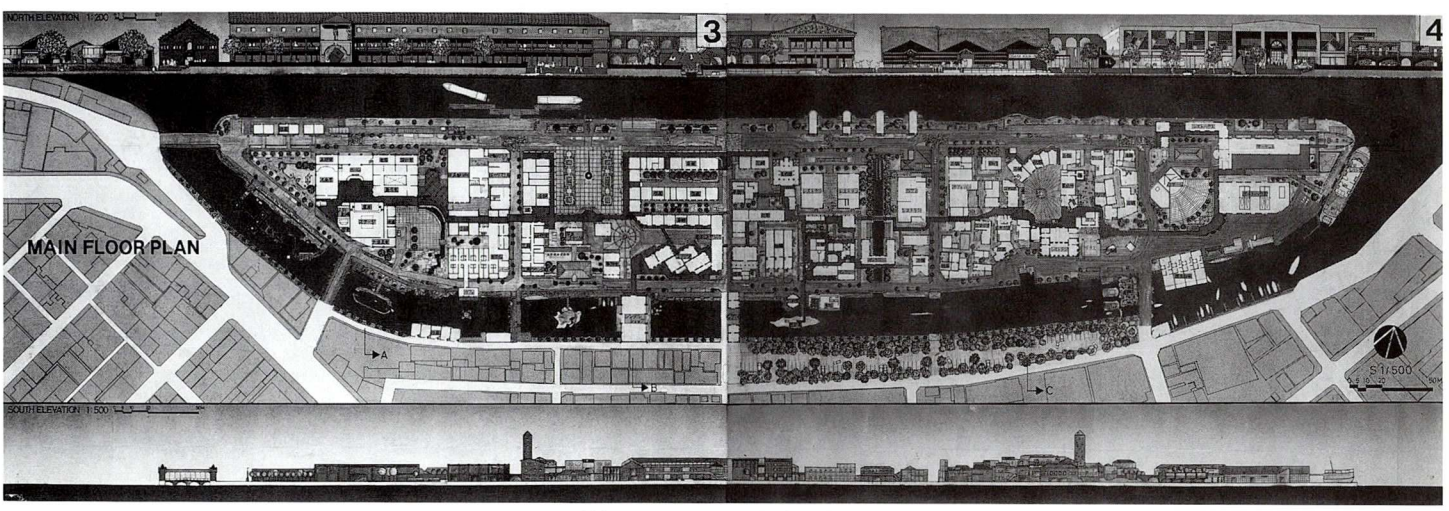
「アルチザン・コロニー」は、内からのカウンター・パワーとなる創造活動の担い手たちが集まり住む町である。

異質なものに出会う状況を常につくり続けていくことで、都市は再生していく。一つの都市がどれだけさまざまな「周縁の町」を持つことができるか、どれだけさまざまな人が一緒に集まり住むことができる状況をつくっていけるかが、今後、都市が生きていくために重要になるだろう。

「異人町」構想

今、大阪西区の九条デルタ地区で、「異人町」構想を進めている。「異人町」構想には二つの柱がある。「外国人居住区」と「アルチザン・コロニー」をつくることである。

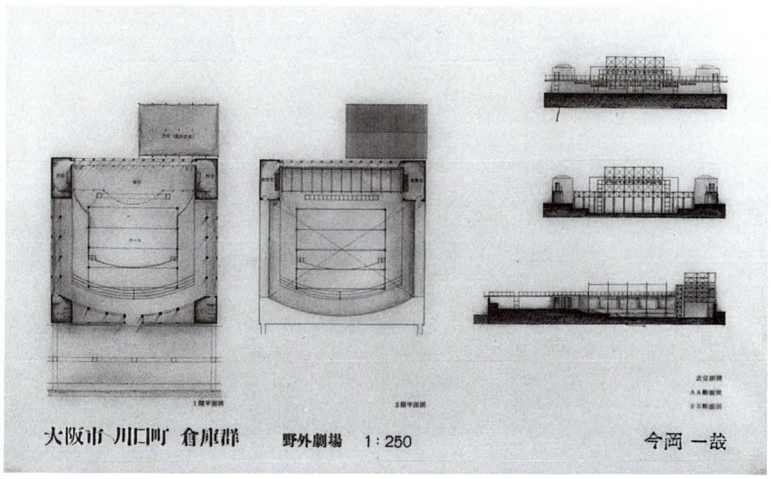
もともと川口の地は、明治期には大阪の開港とともに「居留地」と「雑居地」のあったところである。その後、流通の発達と工業化の流れの中で倉庫街となり、今では経済産業構造の変化の中で、遊休化する倉庫の新しい利用が求められている。隣接する中之島西部地区で進められている国際会議場と国際業務ビルの開発計画に呼応して、外国人向けのマンションづくりを検討するところも出てきている。九条デルタ地区では、戦前の「川口中華街」復活を語る在阪華僑の動きもある。外国人が集まり住むことができるような状況が芽ばえつつある。かつての「居留地」を含む九条デルタ地区に、未来型の外国人居住区を



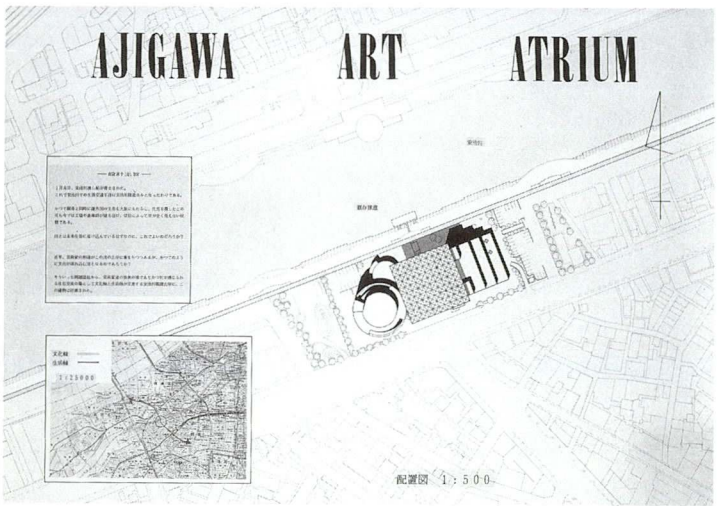
「安治川昭和の大開削」塚本英文

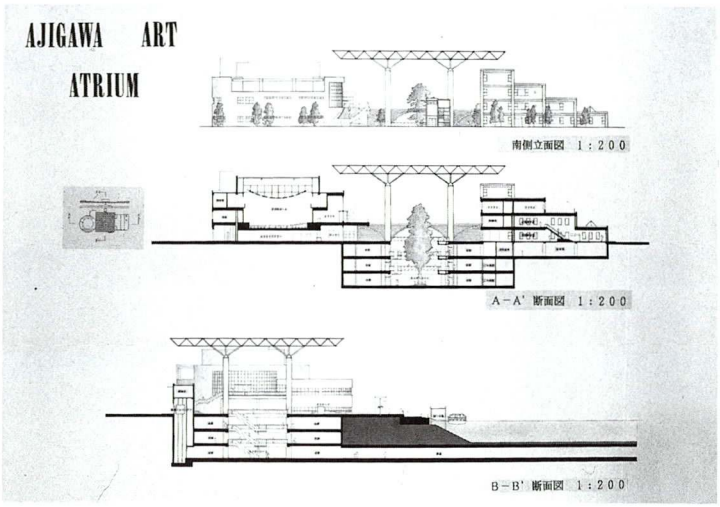


「川口・安治川アートプロジェクト」—風の人—中前寛文【美術作家】



「川口倉庫群、芸術・イベント村計画案」(図面の一部)今岡一哉





「AJIGAWA ART ATRIUM」池田賀典

実現していくことで、新しい生活文化を伝える「町」づくりが期待できる。

もう一つの「周縁のまち」がアルチザン・コロニー構想である。倉庫や九条南の鉄工街の工場などは、高い天井と柱の少ない広い空間を実現している。アトリエや工房、スタジオとして非常に使いやすい空間である。外国人が外からの異人であるのに対し、内からの異文化創造の担い手たちであるさまざまなアーティストたち、クリエーターたちが集まり、活動できる「まち」として再生していくには、倉庫や工場街はとてもよい条件といえる。さまざまな感動、目新しいものへの驚き、受け入れにくい刺激……など、どのようなものであれ、とにかく都市の中に出していくことができるチャンスのある都市は、そのチャンスを求めて異人が集まるだろう。アルチザン・コロニーづくりは、そうした都市のチャンス（ゴールデン・ドア）の状況づくりの一つである。

「人」がまちを変える

今、臨海部でも都心部でも、大規模な再開発の計画が進められている。何万平米、何十万平米ものオフィスビルや商業施設やホテルなどが建てられていくことになるのだろう。どれほど斬新なビルが建てられても、これまでと同じような人が使っているかぎり、町はそれほど変わらないだろう。“異なる”人々が、都市に入ってくるときに、都市は変わる。「周縁の町」をいくつもつくり続けていくことが、都市を活性化する。「周縁の町」は、いつか都市の中心の一部となり、その時に、これまでの都市が再生されるだろう。

（くにもと　よしゆき　都市プランナー）

二つの住・宅・夢・語・り

山桝勝弥

200X年のチェリーマンション

『庭師急募！200%あなたの希望条件に添います。』

200X年、新聞のリクルート欄は、こうした庭師求人広告で埋め尽くされるようになった。きっかけとなったのは、その数年前、緑の少なさで有名な日本第二の大都市が"総床面積10,000m²以上の新しい建築物は、オフィスであれ、住宅であれ、すべて床面積の10%をガーデンにしなければならない"という制令を出したことに端を発している。瞬く間に、この制令は全国主要都市に飛び火、"燎原の火"のごとく広がりを見せた。

実際のブームの火付け役となったのは、とある都市マンションで、居住面積と同じ広さを持つルーフ&インナーガーデン付き住戸を売り出し、そのすべてに"巨大な桜の木"を植えたのが人気を博した。今では「チェリーマンション」として伝説的存在と化し、専任の"桜守り"を抱え、春のシーズンには住民全員参加による盛大な"お花見パーティ"が開催されるまでになった。まず各戸ごとの演出によるそれぞれのお花見招待で始まり、夜もふける頃になると、センターコートに全員つどっての楽しい行事が繰り広げられる。

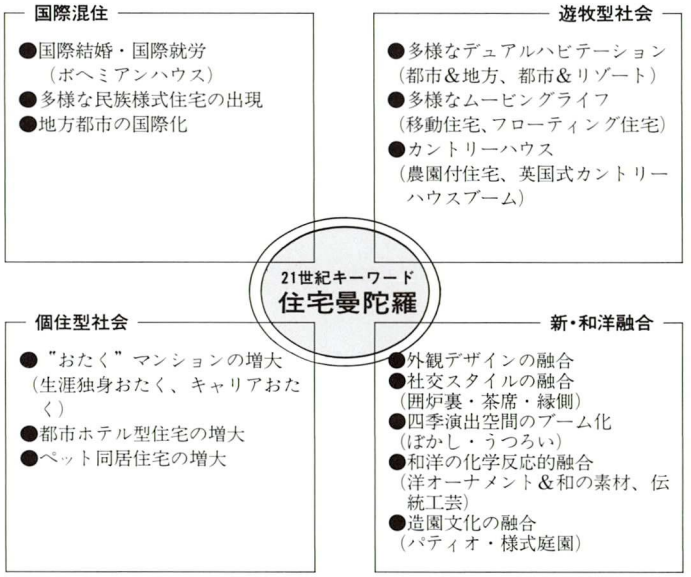
それ以降、「柳マンション」とか「泰山木マンション」、「農園マンション」とかが流行した。中にはトロピカルな話題性を狙い「椰子の木マンション」を売り出したのは良いが、運悪く"椰子の実"が通行人の頭上に落ち社会問題にすらなったほど。

オフィスビルでも、エントランスガーデンはもちろんのこと、各階のエレベーターホール、高層ビルの窓辺は色とりどりの花壇で埋まり、それらの"香りのリラクセーション"効果で仕事効率が大幅にUPするという意外なメリットが注目を集めた。

あるビルオーナーはこの10%ルールをオフィス部分に振り向けるのが嫌さに、地下駐車場をBIOテクノロジーで開発した"光ゴケ"を敷き詰めた。それがまるで"夜光虫の海"を想わせる幻想的なジオ・ランドスケープデザインと評判をとり、その年の「建築大賞」を受賞してしまったというようなこともあった。

10%ルールに対して行政側から各種の恩典が与えられたが、デベロッパーやオーナー達は、容積（床面積）の割増しや補助金より、○○△○△のオプションの方を選択するのが常だった。（あえて表現しませんが、読者、特に行政の方、デベロッパーの方の想像・オモワクにおまかせします。）

この制令は、都市で「庭付住宅」を諦めていた人達に夢と希望を与えた。また、20世紀末、大都市が抱えていた都市のスプロール化、人口流出、夜間人口の減少を解消しただけでなく、米の自由化で壊滅的な状況にあった農村をも救う起死回生策、"ひょうたんから駒"の善政ともなった。



都市のマンションあるいはオフィスビルでは花壇を管理したり、マンション農園を指導したり、樹木をメンテナンスする人材として農家の人達に目を付けたのだ。スタイリッシュな職業として「農民庭師」が俄然脚光を浴び、最初に掲げたように「庭師広告」が新聞紙上を賑わすようになったという訳だ。

同時に、生活、街景観、建築様式にも大きな影響を及ぼした。身近なところでは、中途半端な機能しかなかった"ベランダ"が姿を消し、景観後進国と悪評高かった"ベランダの布団干し"が見られなくなり、その代わりに、久しく都市で見かけなかった蝶々やウグイスが帰ってきた。ビジネスマン達の顔にもトゲトゲしい表情が次第に少なくなり、かつて日本人が持っていた「農耕民族特有」の柔和さが感じられるようになった。毎年増加の一途をたどっていた都市生活者の離婚率が減少に転じたとの総理府調査に、みんなビックリしたものだ。10%のガーデンを組み込んだビル、マンションの建築手法は「ジャパン式緑の建築様式」として、まず米国のタイムズ誌が取り上げ、またたくうちに全世界に伝播。最初に制令を敷いた日本第二の都市は、都市としては初めて都市環境部門"ノーベル平和賞"を授与された。ちなみに、世界的ブームのきっかけとなった「チェリーマンション」の桜は、シンボルツリーとして世界各国から引き合いが殺到、自由主義国として定着した旧ソ連に送られた桜は、"旧・赤の広場"に植えられ、名称も「桜の園（チェーホフ）広場」と改めら

れ、春になると花見酒ですごい人気と伝えられている。

上記のようなエピソードは、決して本題ではありません。

さて、ここで、20世紀末から21世紀にかけて"都市のあり方"に大きな影響を与えた社会的現象、都市生活者の一種の反乱を思い起こさねばならない。それは20世紀の都市住宅への"アンチテーゼ"であると同時に、新しい都市への"ベル・エポック"となった。

そのきっかけとなったのは、マスコミが"団塊世代の反乱"、"バイバイシンドローム"と名付けた「都市バナレ、会社バナレ」である。責任ある立場の企業ミドル達が、子供達の独立を機会に、あるいは定年前にあっさり会社を辞め始めた。リタイア後は、リゾート地で悠々自適を決め込むもの、技能を生かして"フリー職人"を志願するもの、あるいは"ふるさとでの農業回帰"、"中年ヒッピー"と話題になった海外移住など、「サラリーマンの遊牧民化」が急速に進展した。(当初は新旧交替、風通しがよくなるなど歓迎していた企業が多かったが、あまりの人材流出に頭を抱え始めた。同時に、それまで住んでいた郊外住宅、マンションが大量に売りに出され、中古住宅マーケットはパニックをきたした。構造的要因だけに、あのバブル・ショックの頃とは比較にならないほどだった) それに続いたのは、豊かな住環境・教育環境を求める子育て世代である。"多極分散政策"をうまく活用して地方都市へと散っていった。大都市には学生、フリーター、ジャパンドリームを目指す国際出稼ぎ層が溢れ"ファーストフード"と"繁華街"だけの"寂寥"とした街に変貌していった。

200X 年・再来離満氏や
元・大江流さんの優雅な生活



ログキャビンのたきぎ スケッチ筆者



居間の長火鉢 月岡芳年画、部分を模写筆者

"ホンモノのくぬぎ"の感触を手で味わいながら、再来離満氏は、一本の薪を暖炉にほうり込んだ。パチパチと心地よく燃え盛る暖炉の火を見詰めながら、どこか遠い昔に体験した懐かしい感覚を思い出そうとしていた。この薪は、今朝、会社への出勤前に書斎の立体映像ディスプレイにメッセージされていた"本物の輸入くぬぎ入荷！"をみて思わず注文してしまったものだ。ツーンした生木の香りは、遥か先祖からの特別の贈り物のように思えた。ふと、21世紀に入り飛躍的に進んだ"大脳生理学・遺伝子解析"の成果として、"人類共通の原風景・歴史体験をしまっておく脳内バンク"の存在が発見されたというニュースを思い浮かべた。もしかすると、この懐かしさは、洞窟生活時代の焚き火の記憶かもしれないな……と一人笑みがこぼれるのだった。

ここは、最近ブームと化した"都市の村＝アーバン別荘"をコンセプトに建設されたヴィラ風コンドミニアムの一室である。"アーバン別荘"とは、20世紀末の都市政策の反省と学習をもとに、"遊住モデル"として登場してきたものである。豊かな緑を植林した農園付きヴィラスタイルの「森のモデル・六甲」、都市の海岸線を再開発した「海のモデル・浜」があり、生来海好きの彼は「海のモデル」を選んだ。

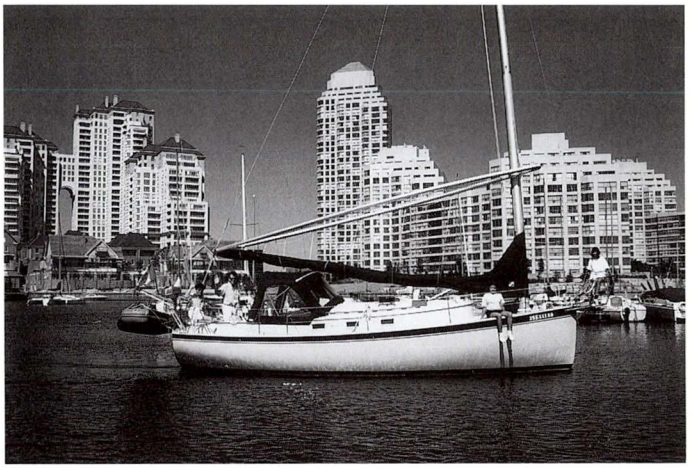
下層フロアは、海と直接つながる建築構造となっていて、クルーザー、ディンギー、プレジャーボートなどを保有する人達の「艇庫付きハウス」である。週末には、クルーザーオーナーの同僚と外海に出て釣りを楽しむ。驚くほどBigな釣果を得ることもしばしば。時には料理好きの彼が見事な捌きで我が舌を楽しませてくれる。このコンドミニアムからクルーザーで会社まで通勤する人も多い。その上のフロアゾーンは、「スタジオ・アトリエハウス」など趣味を楽しむ人達が多く住んでいる。面白いのは、「町屋小路」と呼ばれているフロアーで、京町屋を再現した風情の住戸が軒を並べている。石畳のエントランスには、いつも打ち水が真新しく、小路の突き当たりには水掛けお地蔵も鎮座している。玄関ポーチに"広縁"をしつらえた住戸もあり、"集いの場"になっている。ネオ・ジャパンスタイルとして

結構若いファミリー世代に人気がある。

再来離氏が購入した「DENハウス」は、和風書院風とか、ビクトル・ユーゴー風書斎とか、コックピット書斎とか多彩なバリエーションが話題になったコンパクトな書斎風住戸の一つである。彼は、かねてから思い描いていたヘミングウェイ・スタイルを購入した。リビングのワイルドな暖炉と、手づくり風リクライニングチェアが自慢できる。(このチェアはα波・β波・Fmシータ波が自在に選択できるリラクセーション機能を持ったスグレモノなのだ。)このフロア購入層はアッパーミドルが多く、文字通り"都市の隠れ家"的に利用したり、外国人ビジネスマンの"サテライトオフィス"だったり、個性的な"道楽ハウス"だったり、活用スタイルはまさに多彩だ。同僚の一人は、趣味のシネマライブラリーを上映する目的のために購入して、映画館と同じような椅子もセットし「本格シアターハウス」に改造してしまったのもいる。再来離氏も彼の上映会に招待されたが、ルームの入り口に"もぎり"コーナーをしつらえ、彼がそこに座るという凝りようである。このコンドミニアムには、いつかの日本の"村"が持っていたアット・ホームな付き合いが自然に生まれている。

再来離満氏のかつての部下で元・大江流さんは、静かな地方で気の合った仲間と高級ハイテクチェア職人としてすごしていたが、最近になって、再来離氏のマンションのペントハウスを"5年もの"として購入した。アジア各地から人気のチェア・セールスに海外を走り廻ることになり、都市に拠点が必要となったためである。住んでみると最上階のトロピカルゾーンは明るくてなかなかの風格である。この頃はアーバン別荘から地方や海外に仕事に出かける日々を送っている。

このアーバン別荘は30年償却と決められており、オーナーは最近、開発された定期分譲方式をとっている。5年もの、10年もの、20年もの、満期商品と顧客は選択でき、5/30、10/30…の持ち分を購入し、その期間だけ所有権を持つ方式だ。必要な期間、意外と安く手に入り、オーナーも賃貸と分譲の双方のメリットを生かせることになり、好評の中、定着しつつあった。3年もの、5年ものは転勤族やリタイア層住み替え組に結構人気があった。値上がり期待の人ももちろんいたが、それはフルーツ効果の範囲内にとどまっている。トロピカルゾーンの"短期もの"に人気が集中し、かつてのバブル現象のように高騰必至であったが、多くのアーバン別荘がチェリーマンションのような恩典を得ながら建設され、また、期限がきたユニットは売りに出されるため、何とかバランスを保っているようだ。



海のモデル・アーバン別荘のイメージ
TRENDY11(日経ホーム出版社)、小林良彩子氏撮影

元・大江流さんは、ビジネスを中国にシフトしていこうと、上海のアーバン別荘を5年後に購入予定である。

再来離氏もかつて、都市を離れ、地方都市を住処に選んだ。都会に生まれた彼には、徐々に活力をなくしていく"日本第二の都市"のすがたは見るに忍びないものだった。俺たちの"ふるさと"だという憧憬にも似た想いは、常に心の奥底に"チラチラ"焚き火のように燃えていた。"アーバン別荘"のプロジェクトに真っ先に手を挙げたのも、こうした抑え難い気持ちだった。最近では、再来離満氏と同じ気持ちを持つサラリーマン家族のみならず、地方の住宅を処分してこちらに定住するリタイアー層、シルバー層が増えている。シルバー層は、地方よりむしろ医療・文化施設が整った、またいろんな情報や種族のいる都会生活を選択し始めた。シングルシルバーのためにお世話を買って出る企業の新たなボランティア制度がスタート、「メセナハウス」として定着してきたのも喜ばしいかぎりだ。

再来離氏は、暖炉の火からふと視線を窓の外に移した。思いきり大きく切り取られたピクチャーウィンドーには、夕日を浴びてアフター5のクルージングにでかけていく白いヨットが琵琶の湖に"ぼかし絵"のように浮かんでいる。こうした風景こそ、時代を超え日本の人・都市・暮らしに刻み込まれた"原風景"だと確信していた。

❖

都市に暮らしてきた人々こそ、都市に<心のふるさと=原・風・景>を熱烈に求めていたという当然の真理であり、地方へ移住していった人々のアーバン別荘を目指しての、日本第二の都市へのUターンが始まった。21世紀の都市住宅は、日本人の生活歴史が重なった縦軸の"深み"にたち返り、世界の文化の横軸の"広がり"との常に革新的融合形でありたい。そのために、まずは、再来離氏や元・大江流さんのように、それぞれにポジティブな生活スタイルを築き上げる努力が大切なようだ。

(了)

(やまます　かつや　三井不動産株式会社関西支社開発事業部部長代理)

これからの交流施設

大塚辰美

プロローグ

都市の成熟化が進むと、その都市が持つ固有の価値をその存続の基盤として成長を続けていこうとする。コンベンション都市は、都市の自己実現の発揮を通じて所得を確保していこうとする最も高度な都市形態である。それは、ビジターインダストリーへの挑戦でもある。近年、各地に大型のコンベンション施設の建設が相次いでいる。地域経済の活性化や地域の国際化への熱い思いがそうさせるのであろう。都市が新しい段階を迎えつつある象徴でもある。

国際会議

すべての会議は国際会議になっていくだろう。最近の科学技術、政治経済、情報の国際交流の進展がこのことを示している。国際観光振興会・コンベンションビューローのコンベンション統計によれば、1990年わが国で開催された国際会議は1,077件で、過去最高であった前年の856件を24.5%上回る記録的な数字となった。参加者は359,913人で対前年比18.3%増、うち54,552人が海外からの参加者で対前年比20.3%増で、いずれも過去最高記録を樹立した。京都（184件、17%）、神戸（161件、14.9%）、大阪（96件、8.9%）の、いわゆる関西コンベンションゾーンは、3都市を合わせると441件で、全国の40.3%を占めるまでに成長した。また、国際会議参加外客数も3都市で全国の47%に達した（**表**参照）。

東京が84年に件数全体の50%を割って以来、国際会議の地方分散化が続いている。90年の東京は172件で全国の15.9%、参加外客数も20.3%であった。

国際会議開催件数（都市別）

	1990年	1989年	1988年	1987年	1986年
会議開催件数	1,082件	856	764	549	502
参加者総数	359,913人	304,230	289,747	194,058	236,376
うち参加外客数	54,552人	45,329	41,545	37,299	34,408
①東京	172件	187	205	190	139
②京都	184件	115	131	77	58
③神戸	161件	125	89	55	57
④大阪	96件	92	66	66	59

国際会議の地方分散化の第一の理由は、世界の国際センター東京には管理中枢機能を持つ企業が一極集中しているが、これら私企業の主催する販促会議、企業内研修などが本統計に含まれていないことで、東京が依然としてわが国最大の国際会議都市であると考えられる。その第二は，わが国の国際会議の部門別開催状況をみると、90年で、①科学技術（354件、32.9%）、②医学（166件、15.4%）に関する国際会議が全体の48.3%を占め、東京が絶対的優位にある政治経済に関する国際会議は、全体の19.1%に過ぎないことが原因していると考えられる。このことは、地方都市のコンベンション都市戦略に、次のことを教えているように思われる。

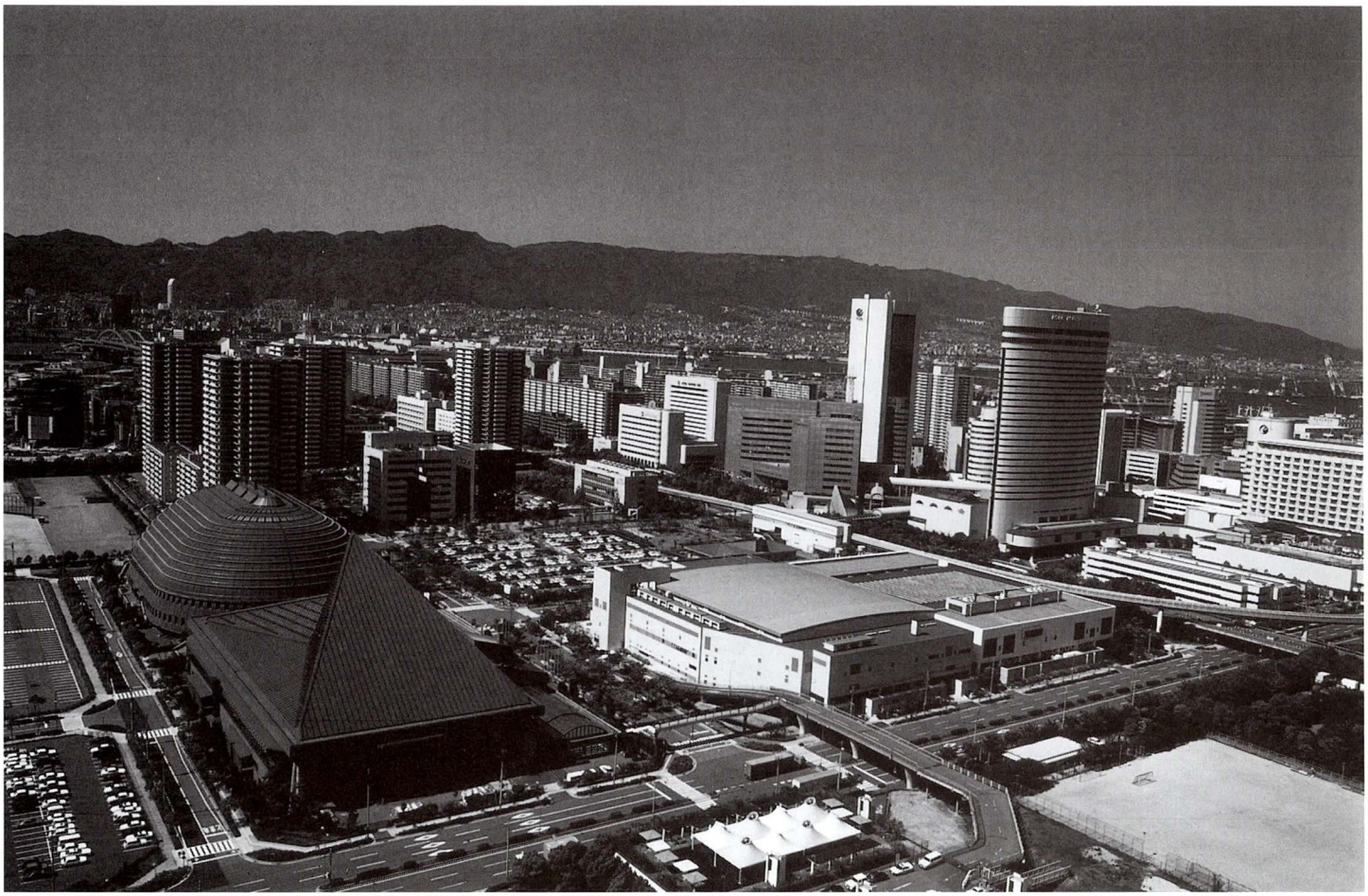
(1)地方では、学術研究型の国際会議が主流である。

(2)多くの都市が地方の国際化と地域の活性化のため、コンベンションの振興に取り組んでいるが、学術研究型の国際会議の開催・受け入れのためには、推進組織や施設を充実させる一方で、地方が学術研究において高いレベルの集積を持つ必要があ



国際会議風景


国際会議交歓風景



関西コンベンションゾーンの拠点の一つ、神戸ポートアイランドでは今日も国際会議が開かれている。

り、長期的な都市戦略に深くかかわる問題である。

(3)地方における国際会議の開催は、地方がコンベンションの開催を通じて、世界への情報発信機能を持ちうることを示しており、地方都市は、コンベンション型情報拠点論を都市政策の中に位置づける必要がある。特に①世界と交流できる人・物・情報の玄関口—空港、②地域発展の苗床となる文化学術圏の整備が最大の課題となる。幸い関西では、関西国際空港、明石海峡大橋、神戸空港計画、関西文化学術研究都市、ライフサイエンスの拠点千里、播磨科学公園都市、アジア太平洋トレードセンター、神戸ファッションマートなどのビッグプロジェクトが進行中であり、関西コンベンションゾーンの形成の前途は明るい。

課題

すべてのコンベンションは、国際化の方向に向かい、国際会議の日常化、同時通訳なしの英語オンリーの会議の増加、女性の参加者の増大、開催経費をエコノミカルに処理することなどを通じ、その効果は地域を越え、産官学の横断的交流を促進し、情報市場を形成していく。施設は一級のデザイン、最新の技術・設備、会議場・ホテル・展示場などのコンプレックス化、施設のフレキシビリティ・機能性、ケータリング機能の重視、などわが国の交流施設が解決すべき課題は多い。

一方、コンベンション施設は、自治体の施設が多く、条例等の制約を受けるため、運営面でいくつかの課題を持っている。コンベンション施設は、国家間・都市間競争施設であり、サービス業としての対応が必須である。週休二日制の時代に、早朝出勤、祝祭日勤務、夜間徹夜仕込みの日常化の中で、顧客に対し、専門知識を持って、親切なサービスを提供していくサービス業である。文化ホールなどと異なる側面がある。３Ｋに位置づけられかねない。交流施設の21世紀への課題である。

（おおつか　たつみ　財団法人神戸国際交流協会常務理事）

天国の楽園からの愛の文化施設、文化活動!!

北大路善之助

ブルネレスキー：モーツアルトさん（天国の楽園の芸術総監督）、下界では21世紀が近づいたと…。心の時代にと…。いろいろと創ったり開発したりしておりますが？天国の楽園では今年はどのような愛の文化センターを創りましょうか？

モーツアルト：そうだなあー、エジプトのイシス神殿や君の創ったフィレンツェの花の聖堂をイメージして、ミケランジェロに設計をお願いしては！

ブルネレスキー：それは楽しいものが創れそうですネ！

モーツアルト：天上の絵はラファエロに楽園の絵を、ロビーの絵はルノワールにヴィーナスの水浴を、モデルは下界の宮沢りえの写真集を見てイメージしてもらおう！広場の彫刻はピカソに何か面白いものを…。廊下の絵は尾形光琳に楽園の花園を描いてもらおう！そして初演のオペラは



「モーツアルトの肖像画」（チニャローニ作）より



カラヤン

「天国の魔笛」で、私が作曲し、脚本は世阿弥に書いてもらおう！きっと面白い創作オペラができるヨ！そして、新人の指揮者カラヤン君に振ってもらおう！そうそうソプラノはマリア・カラスに歌ってもらおう！アア、それからステンドグラスはマチスに南仏の小さな教会のイメージでお願いしよう！

ブルネレスキー：何かワクワクしますネ！素晴らしいものが出来そうですネ！

モーツアルト：それからレオナルド・ダ・ヴィンチに「モナリザのウィンク」の絵も１枚描いてもらおう！モナリザがウィンクしているのも魅力的だヨ！それは愛の美術館に１枚だけ飾ろう！きっと観る人はウィンクすると思うヨ！

ブルネレスキー：誰か来たようですネ！

モーツアルト：そうそう、今日は魯山人君がおいしい日本酒を持って来てくれるそうだ。ヤァ！いらっしゃい！

魯山人：こんにちは！あい変わらず忙しそうですネ！手土産にうまい灘の生一本極上の「白鷹（ハクタカ）」を持って来ましたヨ！

モーツアルト：それは素晴らしい、アリガトウ！創作意欲がワキますヨ！ところで魯山人君の美食倶楽部「天国の楽園」は、いかがですか？

魯山人：イヤイヤ美食家に好評なようで、先日もソクラテスさんと一休さんがご一緒に来られ、大いに満足され、哲学を語り合い、またソクラテスさんが最近は下界ではラブ・ストーリーものが人気のようで、愛とは？この命題があらゆるものに問われております！下界では愛の感じられない建築とかデザインはどんどんスクラップされていっております！

モーツアルト：下界ではまだコンクリートの打ちぱなしの建築物が多いようですが！もうソロソロ天国の楽園のように、コンクリートの打ちぱなしの建築物は，おやめになった方が良いのではないかと思います！

ブルネレスキー：下界の若者たちも最近は、そう思っている傾向ですヨ！

魯山人：そうですネ！モーツアルトさんの言うようにコンクリートの表面仕上げは何か心地よい風味が感じられませんネ！下界の建築家も大分気がついてきて、もっと愛の感じられる表現に変化し始めました！

モーツアルト：しかし日本の開発プロジェクトの設計図にはまだまだ多い感じがしますヨ！愛の表現が下手ですネ！

魯山人：下界の建築家の方は忙しくて、恋愛する時間がないそうです！だから、たっぷりとした大らかな愛の表現をした作品がまだまだ少ないですネ！今後の課題です！

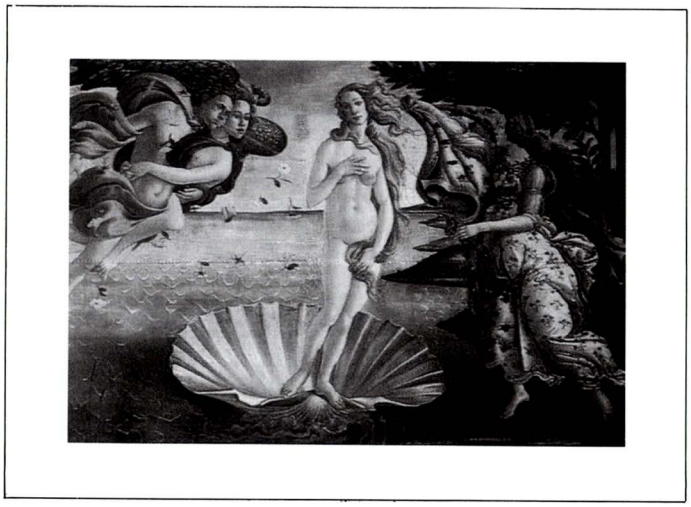
モーツアルト：私の下界で作曲した音楽を聞きながら、愛のある建築を、少しでも多く地球上に創造していってほしいものです！本当に！

ブルネレスキー：花の都フィレンツェの時代の方が、何か生き生きとした大いなる愛のルネサンスの息吹が感じられましたネ!!モーツアルトさんの下界の作品、K467やK136やK525のようなリズム感が欲しいですネ！

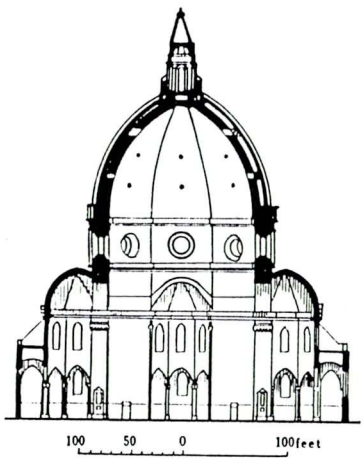


フィリッポ・ブルネレスキー

モーツアルト：ボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」「春」



ボッティチェリ「ヴィーナスの誕生」



ブルネレスキーの花の大聖堂
「サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂」

を観ていると本当に素晴らしいネ！下界の人々も、21世紀に向かって何かしようとアセルよりも、「天国の楽園」づくりという命題で、いろいろとイメージし発想してみると、きっと愛の女神がほほえんでくれるヨ！もっと大らかな愛の表現が、愛の感じられる作品が創造されることを望むネ!!…。今、天国の楽園では、愛の文化センターの花園に、108のいろいろな女神の彫刻と噴水を創っているところだ！天国の芸術家の大いなるガーデンサロンにしたいからネ！下界の人々も今、真剣に楽園を求め勉強しているみたいだネ！天国でも、下界でも、愛の楽園を創ることが創造者の使命ダヨ!!ブルネレスキーさんが創った花の聖堂も、ドームの屋根のカーブといい、最高に愛に満ちた作品だネ！下界の建築家も、花の都フィレンツェに行って、ゆっくりとルネサンスの愛を感じてこないと、本物の作品は創造できないネ！私も下界の36年間のうち⅓はいろいろな国を旅し、いろいろな音楽に出会い、いろいろな女性に出会い、その時の愛のイメージが音楽になったのだから…。もっともっと人間を愛し、自然を愛し、自分の人生を楽しみ愛することが大切だヨ！今、天国から下界を見ていると、まだまだ心のこもった愛の作品が少ないネ！

魯山人：そのうち日本の430兆円で天国の楽園への道を創るかも知れませんヨ！関西では大阪ベイエリア開発とか35兆円のプロジェクトが動き出しています。しかしまだまだ愛の表現がヘタですネ！センスが不勉強です！天国の楽園から夢の観光バスを下界に出して、天国の楽園ツアーを、愛の美学セミナーツアーをしないとイケマセンネ!!



北大路魯山人「織部蟹絵平鉢」昭和34年

モーツアルト：そうだ！パパゲーノに言って、愛のパラダイス列車を発車させ、下界に迎えに行ってもらおう！ピンクのハートのマークのついた列車に乗ってミッキーマウスや、ドナルドダックを連れて天国の楽園に招待しよう！その件は、楽園のプロデューサー、ウォルト・ディズニー君にお願いしよう！2月14日の愛の日に「天国の楽園」でフィガロの結婚パーティーがあるから、その時に下界と天国の合流パーティーをやろう！下界からドミンゴもパヴァロッティもキャサリン・バトルにも、それからルノワールのモデルの宮沢りえにも、ロビーの絵が完成するだろうから観てもらおう！その時に、天国で作曲した作品を下界にお土産に持って行ってもらおう！3000曲ぐらいあるから！下界の人々に大いに感動してもらえると思うヨ！とにかく愛に満ちた作品ばかりだから…。「愛」は永遠の命題だから!!

サアー乾杯しよう！下界の人々に「愛」を!!アアーもう朝になったネ！そうだ！今朝はパラダイスホテルのカメリアのレストランで天国一のおいしいフレンチトーストを食べに行こう！…。新しい風が吹いてくる！君は感じているかい？……。

（きたおおじ　ぜんのすけ　21世紀スタジオ代表）

再びアメリカに学び商業を再構築する

香川 英行

やはりアメリカは我が国にとって、お手本にすべき〝小売商業先進国〟である。

我が国に本格的なＳＣが建設され始めた20数年前を思い浮かべると、その基本は、すべて彼の国アメリカに拠っていたといっても過言ではない。立地・規模・組み合わせ、そして開発者（ディベロッパー）など、一部の相違点はあったものの、ＳＣ自体の「形態」について、多くを学び積極的に取り込んできた。

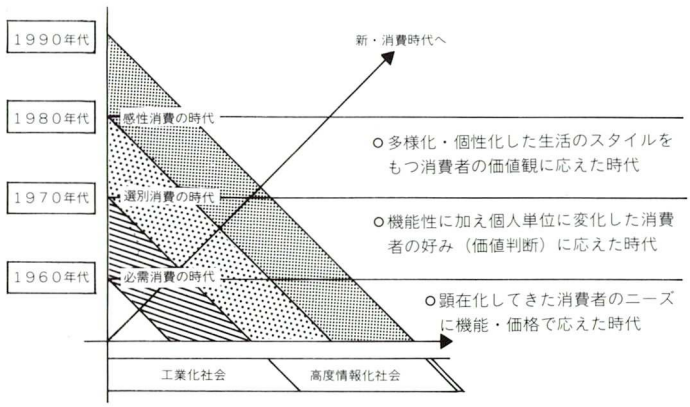
そして時を経た現在、第二のアメリカ詣が小売・流通関連業界を席捲している。なぜ今、アメリカなのか。どうしてまだ、アメリカなのか。

アメリカの小売商業における変化は、いうならば群雄割拠の嵐の中で、日々新しい業態が登場し、一方では支持されなくなった業態が消え去っていく様相を呈している。

賢くなった消費者は、自分たちのライフスタイルを商業に合わせていくのではなく、自分のスタイルに合致する業態（店舗）を選択している。消費者がモノを買わなくなったのは、アメリカに限らず我が国においても同様である。この厳しい環境下のサバイバルゲームに生き残ってきた小売商業者の対応策に着目し、その考え方を学ぶことにこそ　先進国アメリカにその範を求める意義がある。

従前のアメリカ詣が、「形」や「売上げ」の巨大なシアーズ・ＪＣペニーといった、ビッグ・リテイラーを学ぶためであったのに比べ、今回は「考え方」や「収益性・成長性そして人気度」の高いウォルマート・ノードストローム等、バリュー・リテイラーに学ぶためであるといえる。

この20余年の間、我が国はアメリカをも凌ぐ勢いで、大きく構造の転換を果たした。二度の石油ショックを乗り越え、高度経済成長期を経て、「消費」を中心にした経済・社会構造へと変貌を遂げてきたのである。そしてこれからの、生活価値が高



消費の変遷

まった80年代に続く90年代＝産業優先社会から、真の生活優先の社会へと風向きが変化する時代＝にこそ、生活に密着した「商業」の担うべき役割は大きいといえる。消費者のライフスタイルの変化・国際化のうねり・大店法の規制緩和と商業集積法の施行、そして来るべき高齢社会など、今後「商業」が中心となって、解決していかなければならない課題が数多く存在する。

周知の通り、今はモノが売れない時代だといわれる。かつての活発な消費活動によって、家庭には一通りモノが行き渡りモノが溢れている。『そのような人々にさらにモノを提供しても、果たして買ってくれるだろうか』大中小・零細を問わず、小売を営む商業者の関心事（心配ごと）のすべては、この一点に集約されているといえる。

〝フロー〟から〝ストック〟の生活に移行し、サイフの紐が固くなったことは確かであるが、毎日性から週間性・月間性そして季間性とおのおのの需要に応じた買い物は、必要不可欠な重要な生活行動であり，決して消費者は日常生活の中で、必要なモノ・欲しいモノそして足りないモノを買わずにいる訳ではない。モノが売れなくなったのではなく、必要なモノ・欲しい



パワーセンターに出店している話題のウォルマート



ノードストローム・サンフランシスコ店



ホートンプラザ（サン・ディエゴ）





ＳＣに核として出店しているノードストローム

モノが揃っていないから買わないだけのことである。特に必欲品については、選択するための最小限比較できる品数さえ揃っていれば、そしてそれが情報性を有した「ゆとり型商品」（＝自ら求める価値観に出会ったときに生まれる心の落ち着きを誘う、ライフスタイル提案型商品）であるなら、消費者は先を争ってそれを求めるはずだ。

小売商業は一種の人気商売である。メーカーではない商業者が消費者に対し、商品（モノ）の組み合わせ技術を駆使する、言い換えれば、商品の編成権を行使することで、「豊かな生活のイメージ提案」ができる。それによって人を集め人気を得ていくのであり、人が集まらなければ交流も交歓も行われないことは自明の理である。

これからの商業は面白くなる。

ごく単純なモノの流れを、商業者がいかに工夫し、自らの考え方を織り込みながら、求める消費者に高い値ごろ感（価値÷価格）を与えていくのかを日々腐心する。それが結果的に、次の新しい業態開発へのステップとなる。商業が〝変化対応業〟といわれる所以であり、最後に〝変化創造業〟に到達する進化過程である。

私は商業はホスピタリティー産業であると考えている。「おもてなし」の心が消費者への心配りとなり、それをもとにお互いの信頼という絆が深まっていくという、琴線に触れる経済行為であるからだ。

この産業が持つ可能性は図り知れない。だからこれからの商業はますます面白くなる。

（かがわ　ひでゆき　有限会社ディ・プレイン研究所代表取締役）

変わり方への一つの疑問

岡　並木

主人公はナポレオン３世

都市の主人公は、時代によって替わる。そして皇帝、王。革命で登場するもろもろの独裁者。日本では天皇、将軍。いまは先進国といわれる諸国でも、そういった権力者が主人公だった時代は、つい最近まで続いてきた。

そして、都市は、その時代、時代の主人公に奉仕する姿、機能を整える方向で整備されてきた。

オスマン男爵が見事に改造したパリも、その例外ではなかった。その時代の主人公はナポレオン３世であった。1853年、ナポレオンは、オスマンをセーヌ県知事に任命し、パリの大手術を命じた。

それまでのパリは、オスマンの回想によると、こうであった。「市役所の前のシャトレー広場とグレーブ広場との間は、恐ろしい巣窟だった。木造のボロ家が傾き、崩れようにも道が狭いので、向かいの家に寄りかかっている始末だ。しかもそこに住む居住者の数は、数えきれない」。ほとんどの道は狭いだけではなく、曲がりくねっていた。狭いということは、暴動を起こすものにとってはバリケードをつくりやすいということであり、曲がりくねっているということは、鎮圧する側が大砲を打ち込みにくいことを意味する。

ナポレオン３世は、オスマンを呼んだとき、すでに主要な道路などの基本計画を自分でつくって持っていた。３世の道路改造の最初の目的は「反乱とバリケードのパリを、大通りで切り開き、迷路を潰すこと」だったという。ルイ・フィリップ王に対する２月革命（1848）のバリケードの中から生まれてきたナポレオン３世は、パリの都市構造こそ暴動や革命の温床だということを，よく知っていたのだ。

「例えば、まっすぐなリボリ通りで、反乱蜂起は不可能である。パリが安全になったこと、これが何にもまして、政府がこの事業に金を投じた理由となろう」と、オスマンはいっている。

オスマンが手掛けたのは、もちろん道路の大改造だけではない。上下水道の改造、市場、劇場、公園、住宅。あらゆる面でパリを一新させた。だが、その視野の中に、一般の庶民は入っていなかった。大改造の犠牲者は少なくなかった。その多くが、改造で住居を失った貧困層だった。「ユニークな都市―ロンドン」を書いたイギリスのラスマッセンは、こういっている。

「1862年に、パリには６万6578戸の家があった。ナポレオン３世とオスマンの計画した大通りの建設が完成したとき、そのうち２万7000戸が破壊された」。

そして、オスマンは家を失った人々の転出先までは、計画していなかった。しかしこの問題は政敵の乗ずるところとなり、やがて1870年、オスマン失脚の誘引の一つになったといわれている。

そしてパリの主人公は市民へ…

このようにパリの変身は、その時の主人公ナポレオン３世のためのものであった。その後間もなくパリの主人公は、民主化された市民に替わる。新しい主人公は、ナポレオンならびにその前の専制君主たちの残してくれたパリの優れた施設、機能を、市民の生活に合うように修正にとりかかった。

1900年に地下鉄を開業させたり、郊外にパリ市民の住宅地を開発してきたのも、その修正の一つと考えていいし、ナポレオン３世が最終的に完成させたルーブル宮殿を、美術館に転換したのも、その修正の流れの一環であろう。

もちろん新しい主人公が必要とするものを、前の主人公が全く無視してきたことは沢山あろう。それを都市に新しく組み込むことは当然だが、前の主人公の遺したものを、新しい主人公にプラスになるように活かし直す知恵も大事であろう。

江戸と駿府の都市システム

日本ではその点が、どうなってきたのか。かつて徳川家康が開いた江戸、駿府。それは徳川の威光を示そうとする街構えであったことは間違いない。しかしその街には17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパのどの都市よりも、優れた姿と質があった。

長屋のような超過密な住まい方をしながら、しかも路地の奥には共同の井戸やトイレを抱えながら、江戸265年の間、記録に残る経口伝染病の大流行は３回しかなかった。これに対してパリ、ロンドンでは15年から20年おきに、コレラ、ペスト、チフスが大流行した。

その違いは、排水、屎尿、生ゴミといった都市の排泄物を、ヨーロッパでは道路がその捨て場であったのに対して、江戸（駿府も）では、一切道路にはそれらを捨てさせないシステムを最初から組み込んでいたことに、大きく関係しているといっていいだろう。

江戸では排水は、まずドブで受け、それを小下水、大下水、掘割り、川という順序で流し、川の自浄作用で始末していった。

生ゴミは町ごとに１ヵ所に集めて、人足が舟で隅田川の河口左岸に埋立地を造るために運んだ。屎尿はご存じの通り一滴も残さずといっていいほどに、近郊の農村に買われていった。つまりどれもがリサイクルのシステムに乗っていたのだ。パリには14世紀から下水道があったというが、その長さは、江戸の下水システムが完全に機能していた1663年に、わずか2.3キロであった。

1691年に来日したオランダ船の船医ケンペルが、江戸参府旅行日記（斉藤信訳）にこんなことを書き残している。

「品川の町を通って、江戸本来の郭外の町に入っていった。道はずっと整備され、平らで幅も広く、きれいになった。魚市場に行き当たった。それから大きな中央の町筋を進んだ。この主要な中央通りはちょうど五十歩の幅があり、われわれは、信じ難いほどの人の群れや、大名や役人の従者、みごとに着飾った婦人たちに出会った」。

最後の「みごとに着飾った婦人たちに出会った」というところが大事だ。都市の排泄物の捨て場と化していた当時のヨーロッパの道は、着飾った婦人たちが歩ける道ではなかった。17世紀の前半に、パリ、ロンドンでは、辻駕籠、辻馬車が登場するが、ラスマッセンは「それの愛用者は、着飾った婦人たちが中心だった」と書いている。

江戸に比べれば、はるかに小都市だった駿府は、排泄物の始末の仕方は、江戸とは違う方式をとっていたが、やはりサイクルの考え方で処理されていた。

また、都市の景観も、富士山が、毎日の生活の中で人々の心に残るような道路のつくり方を、江戸でも駿府でもしていた。これなども、ヨーロッパの都市には見られないスケールの大きなランドスケープ・アーキテクチュアの感覚であった。

そういう変化で良かったのか

しかし、現在のパリのように、オスマンのパリを活かしながら、新しいパリへの脱皮を進めているような街が、日本にどれほどあるだろうか。

たとえば、都市の排泄物をリサイクルのシステムで処理してきた日本の祖先の知恵は、20世紀を迎えるころから、アメリカ仕込みの流して捨てるという下水道工学によって否定されてしまった。

むしろヨーロッパのほうが、屎尿、下水を大地へ返すというオスマンの蒔いた種を育てる方向へ、19世紀末から発想を転換し始めた。

つまり、19世紀末から20世紀初めにかけて、日本とヨーロッパとで文化の交差が起こってしまった。

東西の道をできるだけ富士山に正対させようとした江戸、できるだけ長く富士山と天守閣とが１枚の絵の中にまとまってみえるように、市内で東海道をわざわざ折り曲げた駿府。そういった景観への優れた配慮も、東京や静岡は完全に忘れてきてしまった。

僕の在籍する静岡県立大学が、数年前、静岡県景観賞の候補に挙がったことがある。僕も委員会のメンバーの一人だったが、残念ながら僕はこの候補案には反対させてもらった。反対の理由のひとつは、県立大の敷地が富士山の見える丘の裾にありながら、キャンパス内のメインストリートも、教室の窓も、富士山とは、あさってのほうに向けてつくられてしまったことだ。

江戸のたとえば三番町の街路のかなたには、晴れていれば必ず富士山があった。こうして富士山は江戸っ子の心に浸み込んでいった。県立大の学生も折に触れ、富士山が心に浸み込む仕掛けの中で４年間のキャンパス生活を過ごすことができれば、どんなに豊かな思い出を抱いて巣立って行けただろうか、と僕は思う。

だから、校舎建築そのものは、かりに建築学会賞に値する立派なものであったとしても、景観賞の対象にはなりにくいと考えたのだ。

ところで、いまパリは確かに市民のための街になった。しかし日本の街は、いま一体誰のための街なのだろう。都市の主人公が、将軍や殿様、あるいは天皇でなくなったことは間違いあるまい。しかし市民が主人公であるとは、とてもまだ思えない。

枚数がないから簡単に述べるが、現状では日本の都市の主人公は、まだまだ行政管理者、という段階を脱皮しきっていない、といわざるをえない。管理の効率が、都市の在り方を多分に左右してきたと言ってもいい。祖先の知恵を活かすより、排除して新しいものに変えてしまえば、確かに変化は速いし、管理もしやすいであろう。

そういう変化で良かったのか。21世紀への課題の一つはここにもあると思う。

（おか　なみき　静岡県立大学国際関係学部教授＝比較都市論）

街がかわる夢11話

ニュータウン開発のゆくえ

奈　須　　豊

近代に入って開発されたニュータウンは格別の意味を持っている。1898年エベネーザー・ハワードが「田園都市構想」を世に問うて以来、開発されてきた多くのニュータウンは、洋の東西を問わずそれぞれの国や地域において特性を持ちつつ、工業化、都市化の時代の新しい居住環境を形成するとともに、都市化に対して一定の秩序を与える先導的なモデルとしての役割を果たしてきたといえる。

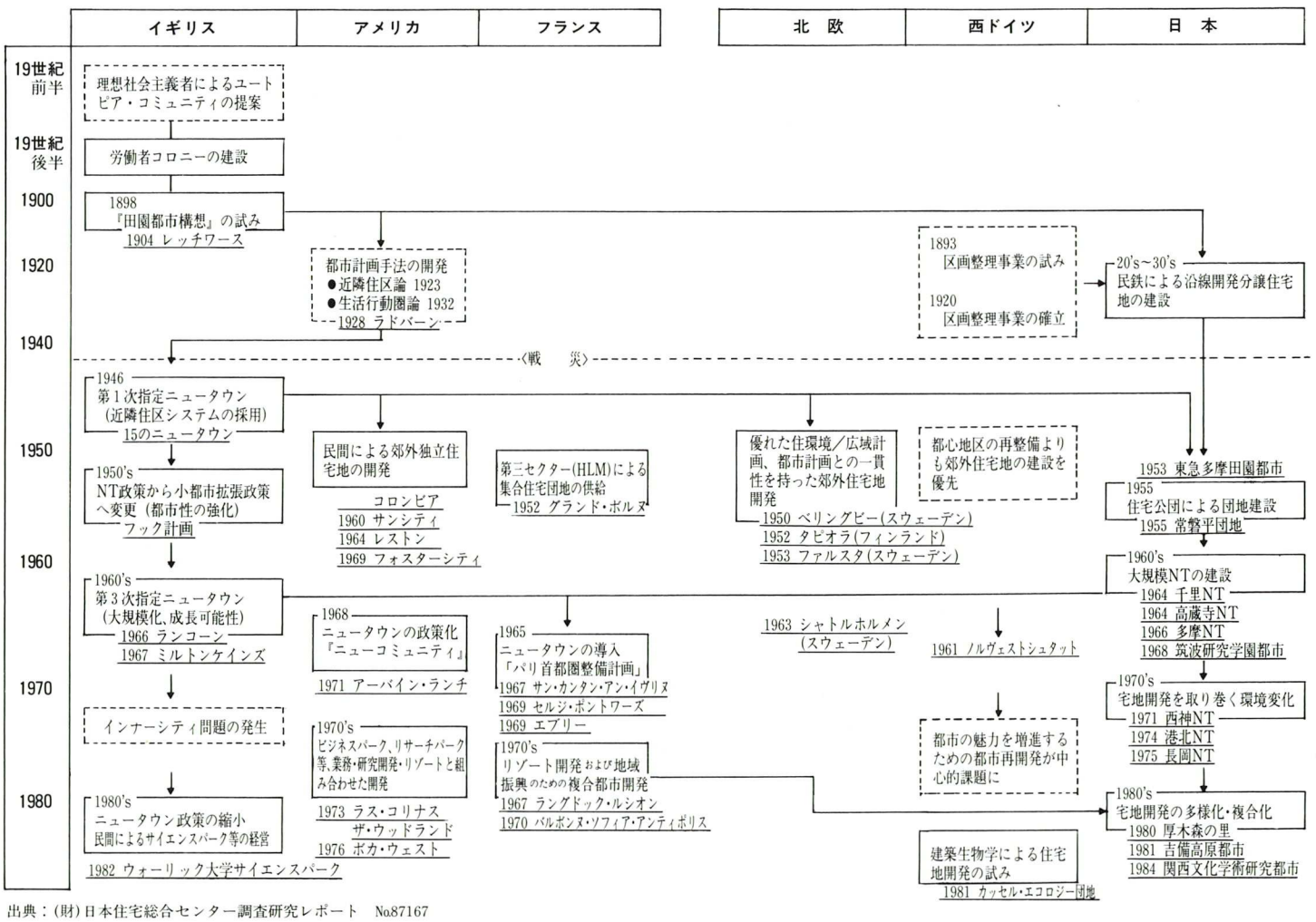
我が国におけるニュータウン開発

我が国におけるニュータウン開発は、1950年代初頭に蓄積されつつあった住宅開発技法を発展させ、イギリスのハーロー・ニュータウンの計画理論の特色であった「近隣住区構成」をベースにし、学校・公園・道路・上下水道・各都市施設の公共施設などの集約的整備はかるものであった。

こうして日本は英国に範をとりつつ、日本型のニュータウンを成立させてきた(**図－1**)。そのニュータウン開発の多くは、戦後大都市圏への人口集中が始まり膨大な住宅難を緩和するために低廉で大量の住宅を供給することと、大都市周辺部の宅地化によるスプロール現象の防止などを目的としている。1960年代～70年代にかけて、千里ニュータウンの開発に始まり、泉北ニュータウン、多摩ニュータウンなど大規模なニュータウンが順次開発されてきた。そして、現在開発中のニュータウンもある(**表－1**)。

ニュータウンの現状と課題

これらの多くのニュータウンは、21世紀を目前にした今日、時代の大きな転換期に遭遇しており、すでに開発されたニュータウンは現在成熟したコミュニティとして生きているが、開発以来すでに20～30年経過したニュータウンでは、開発後における居住者のライフスタイルの変化や価値観の多様化などにより、



出典：(財)日本住宅総合センター調査研究レポート　No.87167

図－1　各国におけるニュータウン開発の経緯

表−1　事業手法・主体別大規模ニュータウン一覧

大規模ニュータウン連絡会議調査資料より

事業主体 / 事業手法		住宅・都市整備公団 地域振興整備公団	住宅供給公社	都道府県	市町	県＋住・都公団	市＋公社	市＋公団＋民間	公団＋民間
A	土地区画整理事業	篠路拓北(S55～) 八戸新都市(S57～) 港北NT(S49～) 南八王子(S63～) 板橋(高島平)(S43～52) 洋光・港南台(S41～62) 千葉・千原NT(S52～) 常総NT(S46～) むさし緑園都市(S45～) 高蔵寺NT(S41～61)		北海道 北広島(S44～) びわこ文化公園都市(S56～)		浦安NT(S47～)	湘南ライフタウン(S47～)		関西学研(S45～)
	土地区画整理事業＋その他	竜ケ崎NT(S52～) 上野新都市(H1～)							
B	新住宅市街地開発事業	秋田新都市(S59～) 和泉中央丘陵(S59～)		成田NT(S43～62) 桃花台(S46～) 神戸三田・県(S46～)		千葉NT(S44～)			
	新住宅市街地開発事業＋その他	いわきNT(S51～) 鳥取新都市(S58～) 賀茂学園都市(S51～) 宮崎学園都市(S54～)		泉北NT(S40～57) 千里NT(S35～44)	西神NT(S46～)				
C	土地区画整理事業＋新住宅市街地開発事業(＋その他)	筑波(S43～)				多摩NT(S41～) 神戸三田・公団(S46～)		須磨NT(S37～)	
D	宅地造成事業								
E	開発許可		泉沢・千歳(S53～)						
F	その他	長岡NT(S50～) 吉備高原都市(S55～)		千葉海浜(S41～) 播磨科学NT(S59～)					

(注1) 開発面積300ヘクタール以上の公的大規模ニュータウンを対象とした。

計画当初の施設配置や、まちの構成に画一的な面があるところから、居住者ニーズとのギャップが生じてきている。また、施設の老朽化、人口の高齢化など将来に予想される問題も多く、今後はその存続によって新しい時代におけるニュータウンの役割を担わなければならない。

また、将来新しく開発されるニュータウンには、これまでとは違った役割を担っていくことが要請される。つまり、ニュータウンの資格そのものは一般行政の中に解消されていくべき運命であると考えられるにせよ、ニュータウンによってつくり出された環境的、施設的あるいは都市的資質については、その際立った特性を消耗し、老化あるいは陳腐化させることなく、今後も居住環境形成のパイロットとしての役割を持ち続けることが、これからの課題としていえるのではないか。

ニュータウンを建設段階別に「主な問題点と対応策」について、平成2年に大規模ニュータウン連絡会議[1]が調査し、まとめた結果(**表−2**)を要約してみると、次のとおりである。

管理段階にあるニュータウンにおける問題点

「管理と運営に関して」は地区・近隣センターなどの活性化およびその施設の整備更新が必要であるとしており、そのための対応策として、地区センターの再整備および近隣センターの将来像に関する調査などが実施されている。「管理・運営の主体・システム」については、高齢化対策や居住者ニーズの把握およびニュータウンの管理システムの策定ならびにニュータウンの再整備の構築が課題であるとしている。

概成段階にあるニュータウンにおける問題点

「建設の時代的背景による影響」では、1960年代後半のオイルショックによる経済的変動から、住宅・宅地の売れ行き不振によりニュータウン開発の事業経営の悪化を招くこととなり、結果として、事業計画の変更、事業期間の延長を余儀なくされた。

「計画に関して（都市的魅力の創出）」は、管理段階にあるニュータウンでは見られなかった居住者ニーズへの対応策として、多様な都市機能の導入、居住環境に関する景観形成や、個性的な住宅地の形成が課題となっている。

「地区・近隣センター等の活性化」については、管理段階にあるニュータウン同様、地区センターの機能強化を図る必要性が強調されている。また近隣センターでは吸引力のある施設の誘致や未利用地と一体の再開発を計画する。あるいは、拡大・縮小・廃止・買い戻しなどの抜本的な対策を講じる必要があるとしている。

開発途上にあるニュータウンにおける問題点

「建設の時代的背景による影響」として、やはりオイルショックによる経済変動のあおりをうけて、住宅・宅地の売れ行き不振が生じたようである。その結果、住宅タイプ・計画人口の変更および住区構成の見直しを行っている。

「計画に関して（都市的魅力の創出）」では、概成段階にあるニュータウン同様、多様な都市機能の導入、街角施設の導入など新たな複合都市への計画を試みている。

「地区・近隣センター等の活性化」については、地区センターの整備に民活方式で対応する。また近隣センターについては、吸引力を高めるために二つの近隣センターをセット配置するなど、配慮している。

表—2　ニュータウン別の主な問題点と対応策

大規模ニュータウン連絡会議調査資料より

		管理段階にあるニュータウン		概成段階にあるニュータウン		開発途上にあるニュータウン			
		千里ニュータウン(S35~44)	高蔵寺ニュータウン(S41~61)	多摩ニュータウン(S41~)	千葉ニュータウン(S44~)	桃花台ニュータウン(S46~)	神戸三田国際公園都市(S46~)	西神ニュータウン(S46~)	賀茂ニュータウン(S51~)
建設の時代的背景による影響				〈政策による変更〉 ・住宅タイプ・計画人口の変更 ・土地利用の変更 ○住宅・宅地の売れ行き不振 ・事業期間の延長	○住宅・宅地の売れ行き不振 ・土地利用の変更 ・住宅タイプの変更 ・事業期間の延長	○住宅・宅地の売れ行き不振 ・住宅タイプ・計画人口の変更 ・住区構成の変更	○住宅・宅地の売れ行き不振 ・住宅タイプの変更 ・容積率の変更	○住宅・宅地の売れ行きへの影響 ・基盤施設の先行整備による付加価値づくり ・住宅＋産業団地のセット配置による魅力づけ	
立地・交通条件に関して					○鉄道整備の遅れに伴う住宅・宅地の売れ行き不振	○新交通システム整備の遅れに伴う住宅・宅地の売れ行き不振 ○新交通システム整備後も予測される交通連絡の悪さ			
計画に関して	都市的魅力の創出			・多様な都市機能の導入 ・住宅地・駅周辺の良好な景観形成	・多様な都市機能の導入	・多様な都市機能の導入 ・個性的な戸建集合住宅地の形成	・多様な都市機能の導入 ・街角施設の導入 ・高規格住宅による町並み形成	・多様な都市機能の導入 ・街角施設の導入 ・地区計画等の適用	・多様な都市機能の導入 ・街角施設の導入 ・個性的な住宅地の形成 ・地区計画等の適用
	変化するニーズへの対応	・リザーブ用地の確保						・リザーブ用地の確保	
	空間・景観の総合性		○用地の切り売りによって予想される景観の混乱					・景観コントロール	
	計画の主体			・施設計画への住民参加					
事業手法・事業主体に関して				○土地買収の行き詰まり ・複数事業手法の適用	○資金不足による事業経営悪化 ・住宅・都市整備公団との共同事業化			○新住法における土地利用等の柔軟な見直しが困難	○地域公団事業における範囲の制約（住宅建設等） ○地域公団事業における民間への土地譲渡の制約
公共施設整備に関して									
管理と運営に関して	住宅・住宅地の更新	○住宅地の更新と環境保全との調和の問題化							
	地区・近隣センター等の活性化	・地区センターの機能強化、再開発	○地区センターの経営不振 ・開発者の土地買い戻し	・地区センターの機能強化、魅力ある環境整備		・民活方式による地区センター整備			・民活方式による地区センター整備
		○近隣センターの低迷 ・コンサルタント派遣制度による計画策定 ・活性化方策・将来像に関する調査実施	○近隣センターの低迷	○近隣センターの低迷 ・吸引力のある施設誘致 ・未利用地と一体再開発 ・大型商業施設の整備 ・吸引力ある街の構造整備	○近隣センターの低迷 ・再編整備を検討中（拡大・縮小・廃止、分譲地の買い戻しなど）		・吸引力を高めるため二つの近隣センターをセット配置		
	その他施設の整備・更新	○児童減少に伴う空教室化 ・社会教育施設への活用 ○スポーツ施設整備に伴う環境保全面からの反対 ○駐車場の不足 ・駐車場の増設整備	・高齢者用文化・レクリエーション施設の整備						
	管理・運営の主体・システム	○高齢化に伴う問題 ・高齢化対応の住環境について検討中	○居住者ニーズの把握が困難	○住民主体の街の更新困難 ・公共主導の再整備のためのシステムを検討中				・公共公益施設の健全な運営のための収益・非収益部門のセット配置	
	位置づけの変化への対応	・ニュータウンの再構築にむけて検討中		・ニュータウンを含む広域の整備計画作成					
周辺地域との融和に関して		○緩衝緑地の利用に関する賛否	・周辺農地の貸農園利用	○酪農地区の土地集約への反対 ・酪農公園として整備		・農業公園の整備	・開かれたニュータウンづくり ・貸農園、朝市の開催	○周辺開発による環境悪化予測 ・開発の規制誘導 ・良好な地域環境の形成	・朝市の開催

（注）○は主な問題点、・は主な対応策を示す。

「周辺地域との融和に関して」は、開かれたニュータウンづくりをめざす。あるいは良好な地域環境の形成を図るなど対応策を講じている。

以上、ニュータウン別の問題点と対応策を概観してみると、

●完成したニュータウンにおいては（開発後30年近く経過）、

1）ニュータウン全体の再整備

2）開発当初の計画における居住者ニーズとのギャップ

3）ニュータウンの管理機構

●現在建設中のニュータウンにおいては(開発後20年近く経過)、

1）ニュータウン再整備システム

2）多様な都市機能の導入

3）居住地環境の良好な景観形成

が課題となっている。

ニュータウン開発のゆくえ

ニュータウンは、その開発の年代やこれまでの開発の進展によって、さまざまな発展的段階をたどるものである。完成したニュータウンでは、新しい時代におけるニュータウンの役割を担うために、ニュータウンの再整備に向けてのグランドデザインや再整備システムを構築するプランの策定に取り組む必要が

ある。と同時に、町を管理する機構の設置が急務であると思う。それには住民・管理者および学際的な領域の専門家集団からなる機構を考える。

現在あるいは今後開発されるニュータウンには、従来の住宅都市、いわゆるベッドタウンではなく、生活者のライフスタイルや多様な価値観を吸引した複合機能を持つ都市づくりが求められている。

ニュータウンの多くは、大都市の過密状況を緩和をするためにつくられてきたものである。ニュータウンの創造は新たなコミュニティの創造であるが、よりよい居住環境形成のパイロットでもある。ニュータウンは、人類の貴重な資産の一つである。

イギリスハーロー・ローカルプラン

イギリスハーローの市議会によってつくられた「ハーロー・ローカルプラン」を紹介しよう。このローカルプランは「ハーローの未来」をつくるとして1990年1月に出されたものである。その内容は、ローカルプランの戦略・人口と住宅・雇用・交通・ショッピング・レジャー・コミュニティ利用・自然環境・鉱物資源と公益事業・実行方法と財源の各項目から成り立っている。

ローカルプランの主要な論点

ローカルプランの主要な論点は、人々や住宅、仕事の機会が、現状で、こうしたものの変化とどのように相互に関係しているかを、理解することである。環境や土地利用、開発の要因も、機会を公平に与えよという要求と密接にかかわっている。雇用や住宅の変化がどのように人口の変化に影響を与えているかということは、何が要求されているかということを見ることによって、明らかにできる。

地域需要というものは、都市（それは行政的な境界によってかたちづくられたものである）の中に暮らし、働く人々と関係しているものである。初期のニュータウン開発では「自己完結型」として考えられていた。一方、より広域の要求から見れば、ハーローは「準・地域」の一部であり、職業供給、ショッピング、レジャー、その他のサービスの機会からすれば広域の中心として機能している。

*

人口や住宅、雇用といったものの相互関係は、ハーローの準・地域的な役割の文脈の中で捉えられるべきものであり、それは、西エセックスやハートフォードシャー、M11沿いの周辺市町村との関連で見るべきである。

都市は、第一世代の居住者に対して、仕事と住宅を提供した。会社が創設され、ショッピング施設やレジャー施設が広がり、さらに住宅が増加してくると、こうした状況は変化をみせ、第二世代の労働者が地域労働力として流入し、交通ネットワークができていった。

現在では、ハーローは周辺と密接な相互依存関係にあり、他のどこにもないほどの多くの施設やサービスを提供することによって、準・地域の中心となっている。地域に居住する労働者は、一般に、第一世代の労働者とは異なった技術を持っているため、地域企業は広い範囲の地域から労働者を募集している。そのため、ハーローの居住者はロンドンや周辺の都市で職をさがさねばならず、多くの人々がハーローの外で住宅を追い求めている。

*

こうした問題によって、ハーローのための住宅や雇用、サービスを適切に供給し、地域需要を活性化することがむずかしくなっている。政府の施策にある要因、さらには、人口構成のアンバランスが特殊な失業問題を引き起こし、住宅困窮層を増加させている。

計画ではこうした問題に言及し、スタンステッド空港拡張やブレントホールパーク、ハービジネスパーク、ピナクルズ工業団地の開発、さらには、道路ネットワーク計画によってもたらされた機会を有効に活用しようとしている。

ローカルプランの目的

計画には7つの主要目的がある。

1) 都市からの人口減少を食い止め、人口構成のアンバランスを是正する。
2) ハーローの住宅需要に対応する。
3) 都市に仕事を求めている人々の要求に対応する。
4) 開発の要求と、環境の質の維持の要求とのバランスをとる。
5) ハーローが持っている雇用、ショッピング、レジャー、サービスにおいて、地区での役割と準・地域的な役割双方を発展させる。
6) 土地や財政、労働で不足しがちな資源を、最大限利用する。
7) ローカルプラン全体にわたって、公平に機会を与えるという観点を確保する。

注(1) 大規模ニュータウン連絡会議－平成元年11月発足　事務局(財)大阪府千里センター

（なす　ゆたか　財団法人大阪府千里センター参与）

関西文化学術研究都市のゆくえ

大久保昌一

学研都市の都市イメージ

関西文化学術研究都市（以下、学研都市と略称する）は、高度情報社会における時代の諸特徴を鋭敏に反映する都市として変貌していくのではないかと考える。

学研都市の都市像として、構想の当初から、われわれは次の5点を主張してきた。

第一は学術研究の拠点という意味でのアカデミアポリス。第二は各クラスターが有機的に結合し、それぞれ特徴ある機能を発揮しつつ、全体として調和ある都市機能を遂行することのできるような機能連関、器官と個体との関係をもった都市、つまり、機械モデルではない生物モデルをベースとしたバイオポリス。第三は文化創造や文化活動・学術研究を通じての活発な都市としてのカルチャー・アンド・コミュニケーション・ポリス。第四は、時代の経過とともに陳腐化し老朽化しかねない都市の諸機能や構造を、事前に更新してゆく、持続的発展の可能な都市としてのダイナポリス。第五は地球に優しい都市としての生態系の保全に配慮したエコポリス。すなわち、Academia-polis, Biopolis, Culture & Communication-polis, Dyna-polis, Ecopolis というA. B. C. D. Eという5つの都市像の複合体としての都市イメージに描いた(1)。

A—アカデミアポリス—

しかし、第一のアカデミアポリスについては、大学の集積がまだまだ十分とは言えず、また、研究分野についても、自然科学系・理工学系に比して、人文科学系や社会科学系が皆無に等しいという現状の問題点を突破しなければならない。

B—バイオポリス—

第二のバイオポリスについても、クラスター間の公共交通手段や情報インフラの整備について、まだはっきりした目途がついていないし、大都市の都心部との連結も不十分である。生物モデルにはほど遠いと言わざるを得ない。将来トランスポーテーションとテレコミュニケーションのネットワークを密に仕組み、都市全体の有機化に向けて、努力を続けなければならない。

C—カルチュア・アンド・コミュニケーション・ポリス—

第三のカルチャー・アンド・コミュニケーション・ポリスについても、文化機能がまだイメージの段階であって、現実の事業ベースにおりてきていない。平城京跡クラスターにおける文化財総合機構や、木津精華クラスターにおける総合芸術センターも、随分以前に提案されたが、いまだに日の目を見るに至っていない。文化学術研究都市というのは看板倒れではないかと、そろそろ、学研都市の悪口を言う人が出始めても不思議ではない。しかし、この種の批判や非難は、学研プロジェクトに少しでも関与した者は等しく謙虚に受け止めるべきではなかろうか。ただ、文化機能の強化について学研関係者の努力が不足ということもあるだろうが、わが国はまだまだ、実質的には文化国家ではなく、その証拠に、文部省や文化庁の予算は目減りこそすれ、ここ数年増加してはいない。そんな関係で、文化施設の創設はむずかしい。しかしとくに、世界的な規模での歴史的遺跡、遺産の破壊が続いており、各地での人種・民族紛争やある種の宗教戦争が文化財の破壊を加速しているが、このような現実を見るにつけ、何とかわが国が率先して破壊を防止し、破壊の最大原因である戦争を阻止しなければならぬ。そして文化財調査・研究・修復を全面的にバックアップするべきである。

D—ダイナポリス—

第四のダイナポリスについては、われわれ仏教者は、すぐ「盛者必衰の理」を唱えて、先端的な学研都市もいずれは衰微する、徒に自然に逆らわず、衰えるのにまかせることがよい、と諦観するか、あるいはキリスト教のように、いずれ復活するのだから、落胆することはない、というように楽観視した方がよいか。しかし、悲観論も楽観論もともに、努力することを放棄して、時代の推移に身をまかそうという態度であることに私はいささか不満をもつ。あまつさえ、学研都市計画のはしくれに参加させていただいた一プランナーとしては、われわれの知恵で、ない知恵を絞ってでも、学研都市が将来衰退するであろうことを防止しなければならないと思う。いやむしろ、そこに住む人びとがますます楽しく、人間性が解放され、自己実現、自己開発、さらには自己超越に向かうように仕向ける都市、悪魔から次第に遠ざかり、神に接近することができるような社会制度や生活環境をつくり出さねばならぬと思う(2)。

地球に優しく、弱者に優しく、外国人に優しく、生きとし生けるものに優しい学研都市。持続的に発展することのできる学研都市でなければならぬ。そのための自己更新システムを内蔵した学研都市を実現せねばならぬと考える。

E—エコポリス—

第五に、地球に優しく、あらゆる生物に優しくと言ったが、優しさとは何かについて、われわれの認識を深めることが必要である。優しさとは、ベンサム流の功利主義的幸福観ではなく、それを逆転させたジョン・スチュアート・ミル流の利他主義的幸福観を身につけることであり、自分の幸福よりも他者の幸福を優先する。われわれ物質的先進国の人間の幸福よりも工業的途上国の人びとの幸福を優先する。健常者の幸福よりも障害者の幸福を優先する。一口で言えば、優しさと自己犠牲であり、さらには自己超越であり、自己滅却である。そのような幸福観に立って相手の喜びだけではなく、痛みが分かる人間になることが大切だ。

このような考え方が態度の対極にあるのが、自己中心主義である。このエゴティズムが国家首長のパーソナリティに潜んでいるとき、必ず戦争が起こった。それが人間中心主義の形をとるときは、他の生物を抹殺して地球環境問題を深刻化させ、やがて、人類が滅亡に向かう。とにかく、このようなエスノセントリズム（ethnocentrism）が、ここに言う優しさの対極にある。このエスノセントリズムを打破し、優しさを強化せねばならぬ(3)。

このようなスタンスで、学研都市をイメージするとき、そこに現れるのが、エコポリスである。地球環境産業技術研究所の立地も決定し、エコポリスへの第一歩が踏み出された。しかし、それだけでは十分と言えない。テクノロジー開発のウェートが、エコテクノロジーにかけられ、無公害のバイオミニカル・インダストリーを開発し、生活様式・消費生活も循環システムを組み込んだものとする必要がある。

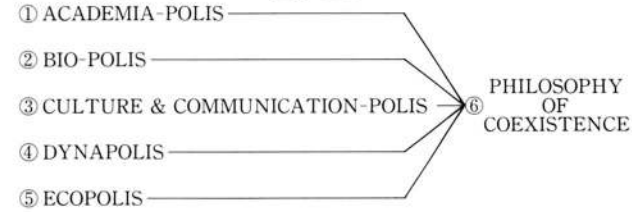
❖

学研都市が以上のようなポリスを指向して、質的にも高められ、展開エリアも、グレーター・学研都市として拡大されていくことを期待したい。

（おおくぼ　まさかず　大阪大学名誉教授）

注

(1) 学研都市のイメージと基本理念



(2) 人間発展のレベル（優しさのステップ）

① SELF-DESTRUCTION　Ⓐ DEMON LEVEL
② SELF-PRESERVATION
③ SELF-RENEWAL　Ⓑ FLORA & FAUNA LEVEL
④ SELF-ACTUALIZATION
⑤ SELF-DEVELOPMENT　Ⓒ HUMAN LEVEL
⑥ SELF-SACRIFICE
⑦ SELF-TRANSHEND　Ⓓ ACCESS-TO-THE-GOD LEVEL

(3) 価値観の大転換の必要性（学研都市の中心的研究テーマの一つ）

①西欧近代合理主義からメタラショナリズム（meta-rationalism）へ
理性のみに依拠した狭い合理主義から、理性・感情・情緒・感性・直観など、全人間能力を踏まえた広い合理主義へ（新しいパラダイムの構築）

②自己主義から自他主義へ
ベンサム流の功利主義的幸福観から、ジョン・スチュアート・ミル流の利他主義的幸福観へ。

③人類益からの行動規制
期本的人権の確立、基礎的福祉の確保、生態系の保全、恒久平和の確立。

④そのため、東洋思想と西洋思想の融合化、統合化が必要である。

大阪ベイエリア開発のゆくえ

吉川和広

大阪ベイエリアルネッサンスの時代

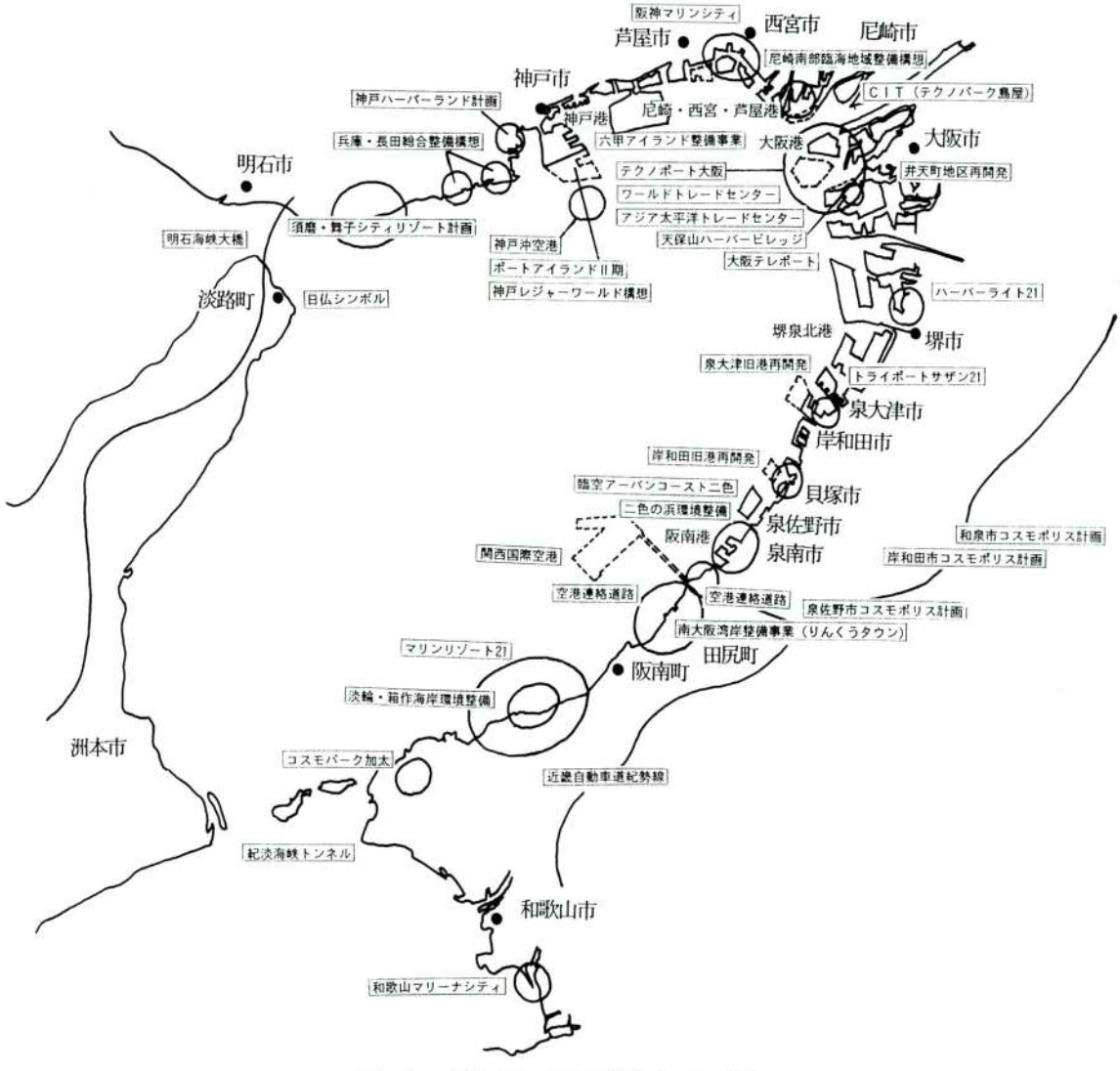
第二次大戦後の経済の高度成長期において、大阪ベイエリアは、産業の近代化に伴って急激に拡大する物流を担うとともに、産業の場、生産の場として重化学工業のための広大な空間をつくり出し、わが国の経済成長を支えてきた。そして、ウォーターフロントは、そのほとんどが産業関連用地と物流関連用地で占められるようになった。このため、ベイエリアは〝くらし〟からなんとなく遠くなってしまった。〝まち〟からウォーターフロントが次第になくなり、市民のベイエリアへの関心も薄くなってきた。

1960年代にわが国の経済を支えた重化学工業にかわって、情報化、都市化時代の21世紀にベイエリアに新しく形成される産業は、R&D活性度の高い知識集約型の産業であるといわれている。そして、知識集約型の産業発展のためには、創造性と、それを支える豊かな文化的背景が要請される。

泉州沖5kmに建設中の関西国際空港は、1994年夏の開港を目指して工事も急ピッチに進められている。24時間運用の国際ハブ空港が持っている機能を最大限に活用して、世界の最新の知識や情報に手軽にアクセスすることにつとめ、創造的な世界都市—コスモクリエイティブシティ—をつくっていくことが重要な課題となっている。

大阪ベイエリア整備のグランドデザイン

関西国際空港、明石海峡大橋、関西文化学術研究都市の三大プロジェクトを契機に、大阪ベイエリアは**図—1**に示した主要



図—1　大阪ベイエリアの主要プロジェクト

プロジェクトが進行中であり、今までにない活況を呈している。

関西経済連合会は、いち早く産・官・学の代表者による大阪湾ベイエリア開発推進協議会を発足させ、総合的な大阪ベイエリア開発整備のためのグランドデザインを描くための作業を進めていたが、1991年4月にその成果を発表している。

2025年を目標とする全体構想は、開発の目標を「世界都市"関西"形成のフロンティア」とし、世界都市機能の強化、新たな環境の創造、広域交通の基盤整備などについて基本的方向を示すとともに、望まれるプロジェクトとして38種類を提案し、こ

表—1　ベイエリア開発のシンボルプロジェクト

なぎさ海道	大阪湾岸の水際線の遊歩道
国際ベイエリア研究センター	環境保全などのシンクタンク
大阪湾メモリアル・ミュージアム	美術館、博物館、図書館の集積
世界機構ランド	国際的な研究機関、金融センターの誘致、整備
オリンピック誘致	湾岸の都市連合で21世紀初頭に
ベリエリア・エキスプレス	大阪湾を一周とする高速道路、高速鉄道
アジア・太平洋サット・プラン	アジア・太平洋諸国と共同で、通信衛星を打ち上げ
開発記念事業	各プロジェクト完成時に象徴的事業を実施

のうち、なぎさ海道やベイエリア・エクスプレスなど8種類をシンボルプロジェクトとして挙げている。（**表—1**）

交通インフラの整備については、2025年までに世界の主要都市へ6時間、関西の拠点間を30分以内で結ぶことを目標にしている。具体的には関西国際空港の滑走路を3本に増やす全体構想の早期実現、第二湾岸線などによる環状軸の整備、第二国土軸の形成などを提案している。

また、「大阪湾の持つ自然環境やその恵みが貴重な共有財産である」との基本認識にたって「新たな環境創造」について提案し、水質改善、水際線の開放、景観に配慮したインフラ整備をうたっている。

また、開発整備を円滑に進めるための制度手法とて、規制緩和や手続きの簡素化、容積率の割増し、開発利益の還元と計画的な土地利用などを提案している。

さらに、グランドデザインに沿って具体的にベイエリア開発を進めるため、「大阪湾ベリエリア開発推進機構」を設置するとともに、特別法の制定を強く求めている。

オーバルビジョン2025

大阪湾ベイエリア開発推進協議会のグランドデザインの発表と呼応して、運輸省第三港湾建設局は1991年4月「オーバルビジョン2025」を発表した。オーバルビジョン2025は、大阪湾、その「自然と調和した経済・文化の交流・創造空間の形成」を目指して、豊かで美しい自然環境と安全で快適・便利な生活環境の形成、そして、全国的、世界的な経済・文化の中枢機能を有する臨海部の形成を柱とする「世界と結ぶ関西海洋都市」の創造を目標としいる。

そして、この目標を達成するため、水域環境を改善するとともに沿岸域共通のシンボルとなる湾央拠点の形成を目指したベイ・キャピタル構想、マリンリゾート空間の形成を目指したクロワッサン・リゾートシティ構想、複合機能都市を形成するためのニュー・ネックレス・アイランズ構想、再開発を推進し、アメニティ豊かなまちづくりを進めるルネッサンス・コリドール構想、港内拠点間を30分で結ぶハーフ・アワー・ネット構想



図—2　ハーフ・アワー・ネット構想

（**図—2**）を提案している。

グランドデザインも、オーバルビジョンも21世紀のコスモクリエイティブシティづくりを目指したものであり、その実現に向けて英知を結集していくことが重要と考える。

（よしかわ　かずひろ　京都大学教授・工学博士）

構造の頁

200

ＦＲ鋼の利用

丸岡　義臣

ＦＲ鋼とは

通常、建築鉄骨に使用されている一般鋼は、高温になるに従って降伏点が低下し、その温度が350 ℃近辺を越えると常温時降伏点規格値の⅔以下（＝長期許容応力度）になるため、法令上では建設省告示第2999号（1969）で火災時の鋼材許容温度が平均で350 ℃以下となるよう耐火被覆することを義務づけている。

しかし、設計者、施工者は以前から、よりスレンダーな鉄骨が表現できないか、工程上の工数・工期・コストが低減できないか、また防錆と耐火被覆のはく離に問題は生じないかと頭を悩ませてきたのも事実である。

これらの問題に少しでも答えられないかと、建設省総合技術開発プロジェクト「建築物の防災設計法の開発」（1982～1987）において、従来の建築基準法等の規定によらず総合的に建築物の防災安全性を評価する手法「建築物の総合防火設計法」（編集：国土開発技術センター、発行：日本建築センター）が開発され、この新耐火設計法に対応して新日本製鐵㈱が1988年７月建築構造用耐火鋼材－ＦＲ鋼（Fire Resistant Steel）－を開発、発表した。

ＦＲ鋼は、従来の一般鋼が火災時の鋼材許容温度を平均350 ℃以下になるよう規定されているのに対し、一般鋼にCr（クローム）、Mo（モリブデン）などの合金元素を添加し、高温耐力を向上させ、600 ℃まで常温時降伏点の⅔の応力度を保証した鋼材である。

ＦＲ鋼の特徴

ＦＲ鋼を構造部材に使用した場合、火災時にその部材の鋼材温度が600 ℃を越えないときは、その鋼材を無被覆で、また越える場合は600 ℃までの断熱を行えばよく、従来の一般鋼より耐火被覆を軽減することができる。

材料特性からみたＦＲ鋼の特徴は、以下のとおりである。

①常温時特性は、一般鋼の溶接構造用圧延鋼材（JIS G 3106）と同等である。

②高温時耐力が、一般鋼に比較して極めて高い。

・600 ℃でも、降伏点が常温時規格値の⅔以上を確保している。

・弾性係数は、700 ℃を越えるまで急激な低下を生じない。

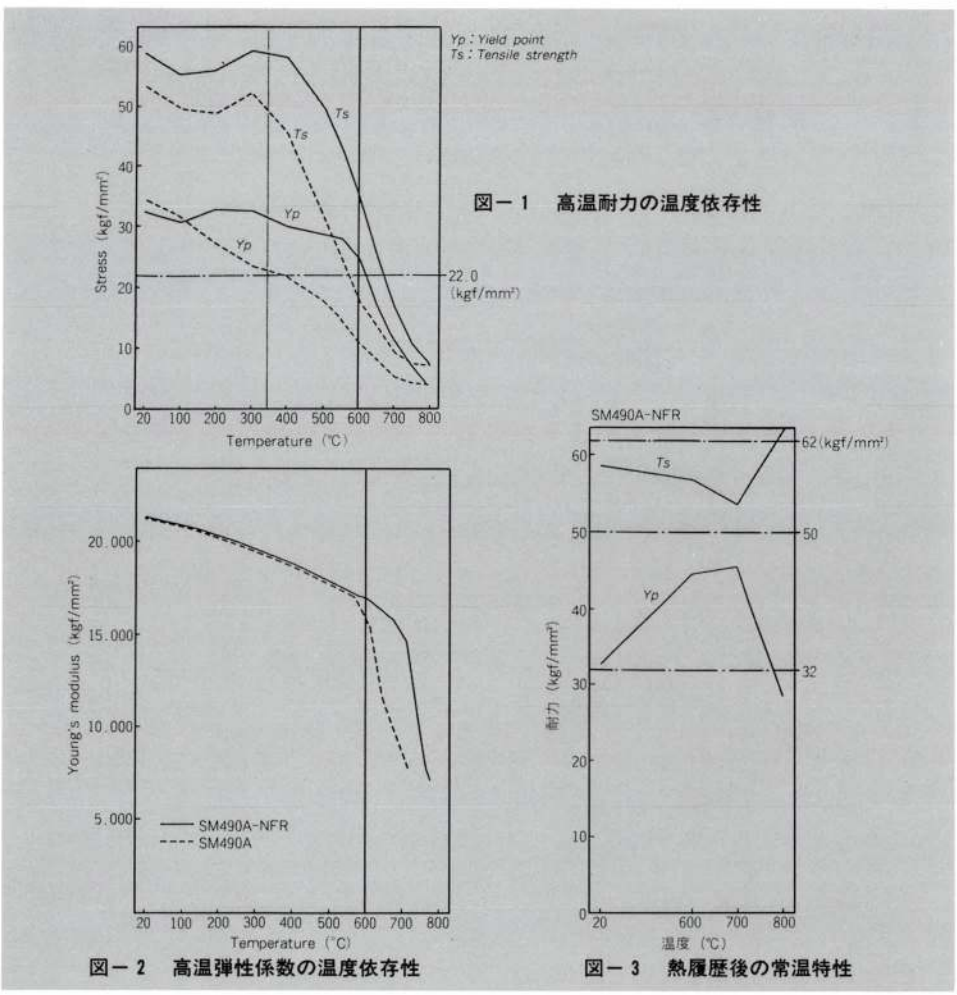
・700 ℃までの熱履歴では、冷却後の常温時機械的性質に再現性がある。

なお接合部には、鋼材と同等以上の耐火性能を有する専用の溶接材料・高力ボルト等の使用が必要である。

図－1に高温耐力の温度依存性を、**図－2**に高温弾性係数の温度依存性を、また**図－3**に熱履歴後の常温特性を示す。

ＦＲ鋼の耐火設計

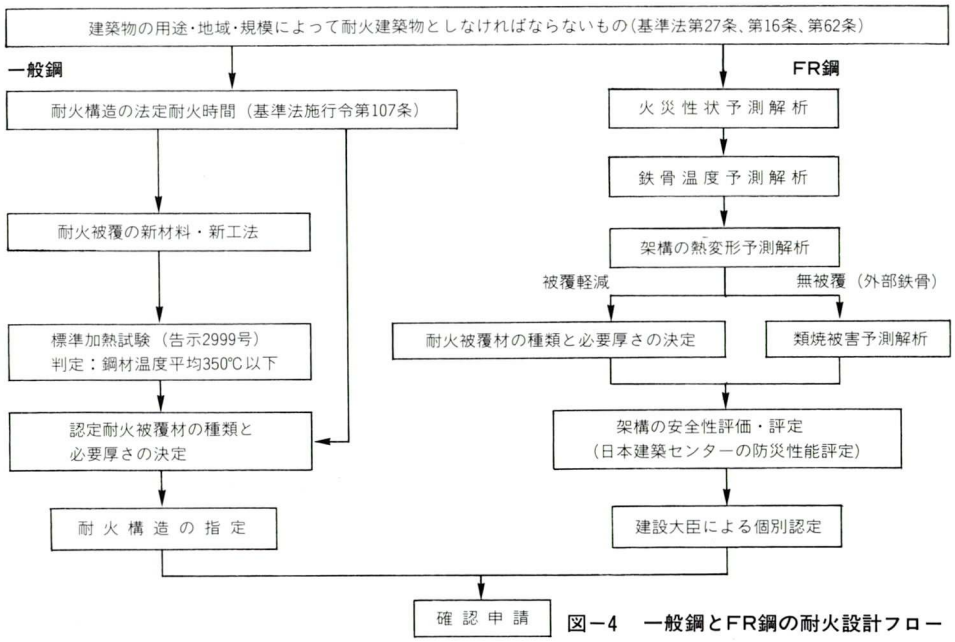
建築物は、建築基準法により「耐火建築物」の指定を受ける場合は、柱・梁等の主要構造部材を耐火構造とし、それぞれの部材の耐火時間に応じ鋼材温度が平均350 ℃以下となるよう耐火被覆を



図－1　高温耐力の温度依存性

図－2　高温弾性係数の温度依存性

図－3　熱履歴後の常温特性



図—4　一般鋼とFR鋼の耐火設計フロー

表—1　建築構造用耐火鋼材（ＦＲ鋼）

メーカー名	商品名	種類	対応JIS規格	製品			備考
				鋼板	H形鋼	角形コラム	
新日本製鐵㈱	NSFR鋼	NSFR400A, B, C	SM400A, B, C	$6 \leqq t \leqq 100$	$t \leqq 40$	——	
		NSFR490A, B, C	SM490A, B, C				
		NSFR490B, C-TMC	SM490B, C-TMC	$40 < t \leqq 100$	——		
		NSFR520B, C	SM520B, C	$6 \leqq t \leqq 40$			
		NSFR520B, C-TMC	SM520B,C-TMC	$40 < t \leqq 100$			
		NSFR400AW, BW, CW NSFR490AW, BW, CW	SM400A, B, C SM490A, B, C	$6 \leqq t \leqq 100$			耐候性を有する
川崎製鉄㈱	KSFR鋼	SM400A, B, C-FR SM490A, B, C-FR	SM400A, B, C SM490A, B, C	$6 \leqq t \leqq 100$	$t \leqq 40$	——	
住友金属工業㈱	STFR鋼						
㈱神戸製鋼所	——	SM400A, B, C-FR SM490A, B, C-FR	SM400A, B, C SM490A, B, C	$6 \leqq t \leqq 100$	——		
日本鋼管	NKK-FR鋼	SM400A, B, C-FR SM490A, B, C-FR	SM400A, B, C SM490A, B, C	$6 \leqq t \leqq 100$	$t \leqq 50$	——	
		STKC400P-FR STKC490P-FR	SM400A SM490A	——	——	$t \leqq 32$	原板SM400A-FR 原板SM490A-FR

表—2　ＦＲ鋼を使用した建築物

名称	建築主	設計・監理	施工	建物規模		耐火仕様
				延床面積（m²）	階数	
新川ビルA、B棟 （新日鐵第２ビル）	小川運輸	新日本製鐵	同左	23,500	地上15F 地下２F （A棟）	被覆軽減
八幡第２ビル （飛幡ビル）	鉄ビル・日鉄ライフ	日本設計	奥村組 ほか	15,800	地上８F 地下１F	外部鉄骨　無被覆
横浜そごう商品館	横浜そごう	鹿島建設	同左	28,900	地上６F	被覆軽減
常滑公園体育館	常滑市	住宅・都市整備公団 環境デザイン研究所		8,700	地上４F	外部鉄骨　無被覆
荻窪大林ビル	カミオギ・エステート	大林組	同左	27,100	地上18F 地下２F	外部鉄骨　無被覆
東京都健康プラザ （仮称）	三菱信託銀行	日本設計		83,700	地上17F 地下２F	被覆軽減
P&G 日本本社・研究所	積水ハウス アーバンライフ 新泉興産	竹中工務店	同左	43,506	地上31F 地下１F	被覆軽減
飯倉ローバービル	ケイワン	リチャード・ロジャス ・パートナーシップ 戸田建設	戸田建設	3,232	地上９F 地下２F	外部鉄骨　無被覆 または耐火塗料
ホテル法華クラブ	法華倶楽部	菊竹清訓建築設計 事務所ほか	大林組	9,623	地上26F 地下３F	外部鉄骨　無被覆
千葉そごう （高層駐車場）	千葉そごう	タカハ都市科学研究所	大成建設 ほか	86,000	地上17F 地下２F	無被覆

することが規定されている。

これに対し、ＦＲ鋼を使用する場合は、「新耐火設計法」を適用し、建築物ごとの耐火性能を解析的に評価しながら、構造部材の耐火設計を行うことができる。ただし建設大臣による個別認定を要するため、設計工程上の配慮が必要である。

図—4に、一般鋼とＦＲ鋼、おのおのを使用した場合の耐火設計フローを示す。

ＦＲ鋼の鋼種と鋼材

1988年に新日本製鐵㈱が開発したＦＲ鋼は、1990年11月、川崎製鉄㈱、住友金属工業㈱、㈱神戸製鋼所、日本鋼管㈱の高炉４社へ、ＦＲ鋼を使用する設計技術、すなわち①ＦＲ鋼に関する諸実験データの公開、②ＦＲ鋼を使用する建築物の設計規準の公開、③耐火設計用解析ソフトの公開、等を提供し、現在では**表—1**に示す建築構造用ＦＲ鋼が製品化されている。

ＦＲ鋼を使用した建築事例

ＦＲ鋼が開発され３年、一般化されまだ１年しか経過していないが、建築に使用されている事例は、すでに**表—2**に示すごとく10件、鋼材総量も約２万tonに達しようとしている。

また、その使われ方も意外に外部鉄骨に多く、デザインが重視され、そのデザインにより高い付加価値を付けるべくスレンダーな鉄骨部材を表現しようと意図しているように思われる。

その意味からも今後は、構造家よりも設計者の関心が高くなり、今までのビル建築に限らず駐車場、体育館、ビル間をつなぐスカイブリッジ等、多くの用途に使われることが予測される鋼材である。

あとがき

ＦＲ鋼は、その開発によって、

①構造部材の、デザイン要素への採用および幅の広がり

②スレンダーな構造部材の提供

③耐火被覆の軽減および無被覆

④耐火被覆の軽減による、工数、工程、コストの低減

等で設計者、施工者に多くの直接および間接的メリットを生みだしたといえる。

しかし、この新しい材料のメリットをより生かし、さらに社会へ広めるためには、

①新耐火設計法の充実による、防災性能評定の簡略化

②耐久性に富んだ遮熱、防錆および仕上げ塗装を兼ねたノーメンテ塗料の開発

③切断、溶接等の加工技術の一般化

等が望まれるところである。

参考文献

1）新日本製鐵㈱　岡松眞之ほか：建築構造用耐火鋼材（ＦＲ鋼）の開発について、ビルディングレター、1990．９

2）日経ＢＰ社　斉藤寿直：ＦＲ鋼が無被覆鉄骨造を実現、耐火塗料も初めて認定に、日経アーキテクチュア、1991．10．28

（まるおか　よしおみ　株式会社竹中工務店大阪本店設計部次長＜構造担当＞）

設備の頁

201

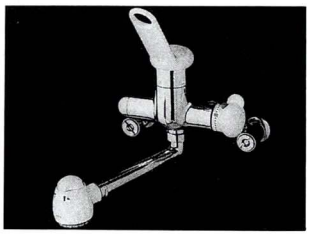
水まわりを考える—3—
新しい台所・浴室の器具

園田　一徳

台所用の新しい水栓

(1)　サーモスタット付き混合栓

台所用の水栓は操作性が重視され、2バルブ式からシングルレバー式に主流が移行しつつある。吐水・止水はもちろん、温度調節まで1本のレバーで行えるのが特長であるが、新しい試みとして、自動温度調節機構（サーモスタット式）を組み込み、レバーハンドルを開閉のみで使えるようにさらに操作性を向上させたものがある。(**写真—1**)



写真—1　サーモスタット付き混合栓

(2)　台所用自動水栓

台所での作業性を一段と向上させるべく、吐水、止水を自動で行える、台所用自動水栓も開発されている。(**写真—2**) 特長は、以下に示す。



写真—2　台所用自動水栓

①センサーによる自動吐水／吐水口下部に感知物を差し出すと自動的に吐水を行い、感知物がなくなれば自動的に止水する。熱湯を使う場所でもあり、安全のため、使用者に「自動」の意識を持たせるべく、スイッチ操作で「入」にしてから自動運転が開始される。また、切り忘れ予防のため、最後の止水から約15分後に自動的に「切」になるタイマーも組み込んでいる。

②自動温度調節／温度調節はサーモスタット式を採用し、操作の煩わしさから解放している。

③施工が容易／キッチンのキャビネット等に取り付ける1穴タイプの水栓だが、エレクトロニクスを応用した器具になりがちな、キャビネット内での複雑な配線作業もほとんどなく、通常の混合水栓と同等の施工性としている（制御部は水栓本体に内蔵）。

④豊富なバリエーション／自動センサーを主軸に、次のバリエーションがあり、おのおの駆動電源にAC100Vタイプと乾電池タイプを準備して、既設取り替えにも柔軟に対応できる。

・自動センサー＋吐水口スイッチ＋フットスイッチ
・自動センサー＋吐水口スイッチ
・吐水口スイッチ＋フットスイッチ

⑤吐水切り替え／洗い物に合わせ、整流吐水とシャワー状のスプレー吐水に切り替えることができる。さらに、泡まつキャップ（付属）との交換で、水はね予防にも配慮している。

⑥非常時への配慮／電源を必要とするものは、停電や電池切れがつきまとう。乾電池タイプでは水栓本体のカラー液晶表示部に電池切れの予告を出す。さらに電池が完全に切れた場合や停電の場合の応急用に、水栓本体の背面部に手動ハンドルを設けている。

浴室用の新しい器具

(1)　シャワージム・G（写真—3）

ホテルやスポーツジムでしか体験できなかった本格的な多機能シャワーを、家庭でも楽しめるよう多彩なバリエーションを組み込んでいる。

①オーバーヘッドシャワー／スプレー、ソフト、マッサージの3種類の吐水切り替えを行える。

②うたせ湯シャワー／滝に打たれるような重みのある刺激が爽快。

③ボディシャワー／上半身と大腿部を刺激し、スプレーとマッサージの2種類の切り替えを行える。

④ハンドシャワー／リング部の回転で、スプレー、ソフト、マッサージの切り替えを行える。

⑤アンダーシャワー／下方から吹き上げるシャワー。ふくらはぎや大腿部、ヒップ、腰などを刺激できる。

⑥ミクロシャワー／霧雨状のシャワーで、体のほてりをさましてくれる。



写真—3　シャワージム・G

ほかに複数シャワーの同時吐水と、次々にシャワーが切り替わる自動モード機能も備えている。

なお、このシャワーは同時吐水を行う場合に、最大で約40ℓ/minの吐水量を必要とする。サーモスタット付き混合栓で自動温度調節を行うが、シャワーとの配管接続部で2.7 kgf/cm²以上の圧力（流動時）を必要とするので、ご注意いただきたい。

一般住宅での使用を配慮し、給水給湯加圧システムを準備している。20 mmサイズの給水管で、0.5 kgf/cm²以上あれば水側・湯側をおのおの加圧できる。シャワージム・G用に開発したバックアップシステムだが、通常のシャワーはもちろん、多機能シャワーのバックアップシステムとしても使用可能で、内蔵の貯湯タンクを利用して約5分間は60号の給湯能力を発揮する（専用給湯機は32号）。

(2)　ブローバス

浴槽内に気泡を発生させる種々あるブローバスの中で、最近の特長あるものを紹介する。

①ブローバスV（**写真—4**）／6ヵ所の噴出口を持ち、大能力インバータポンプの採用で最大400ℓ/minの噴出水量を可能とし、従来タイプからのブロー感の向上を図っている。足の裏に噴流を当てておくと、ふろ上がりには、ジンジンしびれるくらいの快感があるのが率直な感想。6種類の変化あるブローに加え、噴出位置の切り替え、強さの調節までもワイヤレスリモコンで行える。さらに、循環中には機能部に内蔵したろ過器で汚れを除去し、浴槽水をきれいに保つ配慮もしている。



写真—4　ブローバスV

また、集合住宅の上階から階下へ伝わる低周波音（500 Hz以下）を大幅にカットできる防振パネルも準備し、低騒音化に貢献している。

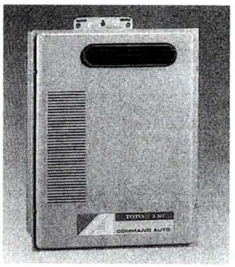
②マンションブロー／設置上の制約緩和および配管作業の簡易化を図り、集合住宅における「くつろぎ空間」を目指したのが、マンションブロー。ユニットバスルーム内にポンプおよび配管を内蔵した上、操作部は壁パネルに組み込んで浴槽リム部を広々と演出し、浴室の一体化を図っている。

なお、防振ゴムの採用で、階下への騒音低減化の配慮も行い、また、安全面から電源部は浴室外の制御盤へ収める設計としている。

(3)　全自動給湯機（写真—5）

現在、給湯能力の主流は16号から24号へ移行しつつある。

①コマンドオート24＜サイレント＞／コントローラのスイッチ操作で、浴槽への湯はり、さめたら追いだき（保温）、水位が下がったときのたし湯まで自動的に行うもので、入浴時のめんどうな操作をなくしている。給湯側は24号の能力で、湯はりもスピーディに行え、また、湯はり中に重なる台所仕事へも配慮し、同時使用を自動的に判断して、浴槽側への供給をセーブし台所へ回す「ツインコントロール」を採用している。



写真—5　全自動給湯機

②トリコン24オート＜サイレント＞／24号の能力で、浴槽と給湯機をシングルチューブで接続し、湯はりとさし湯機能を付加したもの。追いだき機能はないものの、スイッチ操作での高温さし湯と湯はりで、操作性・利便性を向上させている。

おわりに

新しく開発される器具は、いろいろな機能が付加される分、ややもすると操作が複雑になりがちである。水まわりの器具は、生活のベーシックな部分を支えており、機能が複雑なものは敬遠されがちであるが、複雑な動きをエレクトロニクスの力でカバーしていくことで、今後とも新しい器具が登場してくるものと考える。

（そのだ　かずのり　東陶機器株式会社商品技術部）

リポート

「京都の街の色」シンポジウム

「京都の街の色」シンポジウム組織委員会委員
村上幸三郎（東芝ライフテック株式会社研究所・研究主幹）

「…都市景観を形成をする基本的要素であり、景観デザインの手法としてその果たす役割の重要さが最近とみに注目されている『景観の色彩』に焦点をあて、シンポジウムを企画いたしました。シンポジウムでは『京都の街と色とは』『京都らしい色とは』『これからの新生京都にはどんな色がふさわしいか』などを調査、研究、議論し、京都の景観色彩論議の契機にいたしたいと考えます。…、広く、色彩・景観・街づくり・環境などに関心を寄せられる関係各位のご参加を…」*との「京都の街の色」シンポジウム組織委員会の呼び掛けに応じ、全国から約350名の参加をいただいた。

基調講演

講演「『洛中洛外図屏風』に描かれた京の街の色」
武田恒夫（元京都国立博物館美術室長、大阪大学名誉教授）

京都は「洛中洛外図屏風」という文化遺産からも過去の都市空間を語ることのできる唯一の大都市である。先生は、室町末期から江戸初期の洛中洛外図屏風のスライドを豊富に用いて、絵の中に見られる京の街の色を分析され、京の街の基調色は地味な黄褐色系で、それに緑色や茶色、濃灰色、寺社の赤色、暖簾の白色などが点在しており、人物の華麗な衣装や祭りなどの時世の色が彩りを添えてその時代を表現していたと説明された。景観色彩の考察にも文化史的視点が必要であり、かつて京の街がもっていた落ち着いた基調色の再発見が大切ではなかろうかと問題提起された。

景観色調査委員会研究発表

「ビジュアルイメージ‥伝統と新風」
発表者：加藤　力（景観色調査委員長、京都工芸繊維大学助教授）
奈良磐雄（景観色調査委員会委員、京都芸術短期大学助教授）
コメンテイタ：池田光男（京都大学教授）

組織委員会内に編成した景観色調査委員会委員11名による協同研究結果を発表した。

“京都をイメージする色”の調査結果では、緑色、茶色、紫色、抹茶色、濃灰色、などの渋い色調が京都に対する“心の色”ともいうべき色彩として摘出され、“京都にふさわしい色”には、①緑色、②茶色、③紫色、④朱色、⑤赤色などが選ばれ、また、“京都にふさわしくない色”では、①赤色～ピンク、②黄色、③青色など、彩度の高い色群が指摘されている。

“街の実態色調査”は、京都市内を象徴する約30地点をA．伝統地区、B．新風地区、C．混在地区と区分して実情色を分析したもので、伝統地区の基調色は茶色系であり、強調色も多彩ではあるが落ち着いた色使いが見られ、新風地区になるほど白色系が基調色となり、彩度の高い強調色が使われている、と分析結果が報告された。

奈良委員は市内6地点の街の“色彩シミュレーション”結果を報告した。CG処理により、問題視した色彩をさまざまに変化させて、京都にふさわしい色と色使いを具体的に提起し、建築物の色彩はもとより、とくに大型看板類の存在と色彩の氾濫が問題であり、周囲の景観とそぐわないものが多く見られると、色彩作法の重要性を訴えた。

ついで池田先生より、今般の調査はこれからの京都の色彩を考える貴重な基礎データであるが、今後の分析には見出された問題点の検証が必要と指摘されるとともに、ものの見え方の差異にも注意を促され、昼と夜で同じ色でも異なって見えることや、物体色と光源色、抽象的な色彩との認識の差異、照明効果による差異なども考慮して分析すべきなどのご指摘があった。

京都市の景観色を主とする行政の現状

京都市都市計画局都市景観部都市景観課・苅谷勇雅係長に、杉田博明京都新聞編集委員がインタビューする形式で進められた。

1）京都の景観行政の現状は？

最近の京都市施策に50億円の景観基金設立、都市景観部都市景観課の設置などがある。自然景観保全では昭和5年の風致地区規制、42年の歴史的風土特別保存地区指定がある。市街地景観行政は47年の市街地景観条例の制定後、美観地区・工作物規制区域指定や伝統的建造物群保存地区指定、歴史的界わい景観保存地区指定があり、京都市内のほとんどを巨大工作物規制区域に指定している。

2）色彩面の指導と問題点は？

法文以上に細かく色彩まで協議し、その多くは理解を得られているが、反発もある。今後、企業VCIによる看板などと設置環境との調和は大きな問題である。また、屋外に使用する量産商品は、もっと街にあった色彩を開発すべきでは…。

3）11月7日の町づくり審議会中間答申では、景観問題も取り上げているが？

中間答申ではあるが、その精神を生かした施策を行いたい。これ以上京都の景観を悪くしないための指導や規制の強化が必要で、とくに都心部の景観を重視し、行政自身も公共空間の整備を積極的に推進し、行政としての意気込みを示したい。

パネルディスカッション

「京都の街の色」
パネリスト：川崎　清（京都大学教授）
中村弘子（塗師・宗哲十二代）
田中一光（グラフィックデザイナー）
コーディネータ：中村隆一（京都市立芸術大学教授）

コーディネータより、「どうすれば京都が世界の古都として生き生きとした表現をもちうるか」と問題提起し、パネリストの意見が開陳された。

川崎先生は、多くの内外の事例スライドにより建築の諸側面や庭園、街並みに至るまで、色彩作法のあり方を丁寧に解説され、ベーシックカラーとアクセントカラーによるバランスやリズムの表現の諸相を分析の上、街には全体としてのアンサンブルの表出が必要とされた。美的な街づくりは建築物の施主、設計者だけではなく、市民にも責任があり、バックグラウンドしての教養がそれを生むと指摘された。



中村先生は、400年にわたり京で造形に携わってきた家業の立場から、古人が求めてきた美意識と生活を主役に、かつての京の建物は自然素材を生かし、住民が自然との調和にいかに心を砕いてきたかを語られた。とくに、茶人は建物、庭、道具などに自分の好みや工夫などを反映させ、そこでのコトまでもトータルにデザインしてきたと説明され、自然の素材のもつ色の美しさを見極める目の大切さを訴えられた。

田中先生は、京都は日本を代表する、京都の街が良いアイデンティティを示さないと日本全体が良くならないとの指摘から始められ、都市景観の問題点は、①建築物の高さやスケールのあり方、②屋根瓦のもっていたたたずまいの保存、③その土地で産出する素材の活用、④近代的設備の整備レベル、⑤地域文化と企業のVCI戦略との調和、などがあると提起された。現今の京都は黒から白に変貌している、白色の役割はアクセントカラーであり、白色の誤用と多用が街を騒々しくしている、ベーシックカラーとアクセントカラーを区分し、明度を重視して使用すべきと提起された。

各パネリストの意見発表後、会場の参会者と、青色瓦の問題から昨今の都市環境の破壊への危機感や歯止め策、色彩使用基準の必要性の是非など、シンポジウム全体をわたる話題に多くの質疑応答があり、意見が交わされた。

おわりに

昨今、京都の景観は保存か開発かで大きく揺れ、JR京都駅や京都ホテルの改築問題などではなぜか高さという建築物の大きさばかりが取り沙汰されている。今回のシンポジウムは色彩という景観の文化的資質の問題への討議の契機を提起することにあったが、計らずも、多くの人達の賛同を得て、所期の目的を達することができた。

ご支援賜った各位に誌面をお借りし、厚くお礼申し上げるとともに、シンポジウム組織委員会は古都景観への同憂の士によって編成され、無心の協働によって運営されたことを記しておきたい。

注：「京都の街の色」シンポジウム・開催趣旨書より引用。

日時：平成3年11月9日　10：00～17：30
会場：京都新聞文化ホール
主催：「京都の街の色」シンポジウム組織委員会
公共の色彩を考える会
共催：日本色彩学会関西支部、日本デザイン学会
後援：文化庁、京都府、京都市、㈶京都市芸術文化協会、京都新聞社、NHK京都放送局、京都商工会議所
協力：㈳日本建築協会など、31団体

「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和47年～平成4年

「建築と社会」誌は昭和42年からA4変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は980円（消費税込）。購読希望者は事務局（06—348—0635）へ。

＊は欠号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	＊600号記念号	＊インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	＊量産住宅の設備	＊一般号（桂中学）		＊都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	＊第19回青年技術者	＊北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	＊大阪大林ビルディング	＊レジャーと施設	＊大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	＊構造と施工	＊仕上と材料	第20回青年技術者	ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	＊明日の建築はどうなるか	＊保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギー化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	＊第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	＊第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年（57集）	＊証言'76—建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	＊医療施設	＊床工法と材料	＊建築防災と法	＊市街地整備	＊工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	＊集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	＊第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	＊デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	＊照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	＊ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	＊第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	＊水	医療施設—病院建築と情報システム	＊外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	＊一般号	＊第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	＊日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	＊建物の終局強度の検討	＊庁内のまちづくり	＊80年代のインテリア	＊第26回青年技術者	＊建設業の労務事情
昭和55年（61集）	＊80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	＊●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	＊住宅の耐久性	＊建築行政と法規	＊最近の防水工法	＊都市景観とアメニティ	＊屋内体育施設の設備	＊水ぎわのまちづくり	＊今後の外装吹付仕上材	＊●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	＊設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	＊職能論	＊中国の論文—北京の都市計画	＊ポートピア'81	＊台所まわりの計画と設備	＊シーリング材の知識	＊災害と法—安全な環境をめざして	＊都市住宅—住まい手からの発想	＊●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	＊住宅都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	＊間仕切壁の性能評価	＊第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	＊新たな商業空間の展開	＊省エネルギーと開口部	＊医療施設地域医療と設備計画	＊近畿の地盤と地質	＊都市景観—まちなみ美観への誘い	＊大阪市庁舎（第一期）	＊音とホール建築	＊大スパン構造	＊昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	＊●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	＊風土・空気と人間
昭和58年（64集）	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造	＊●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	＊●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	＊大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生み出す文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる	屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発 ●ツイン21	CAD—その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（67集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	第34回青年技術者
昭和63年（69集）	ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	＊建物の外装リフレッシュ	都心居住	中国地方の展望とひろしまのまちなみ	21世紀への照明	制振	超高層住宅を考える	＊●大阪府営繕 ●集合住宅のリフレッシュ	＊●第35回青年技術者 ●800号記念	讀賣テレビ
昭和64年平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備	●竹中工務店創立90周年記念 ●リゾート事情	＊●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料・工法	まちづくりと法	博覧会とまちづくり	都市環境創造と設備Ⅰ	建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	第36回青年技術者	最近の博覧会パビリオン
平成2年（71集）	＊商業化住宅のデザイン	ニュータウン・ルネサンス	東海の都市景観	スケール感	プレハブ住宅技術の現在と未来	国際花と緑の博覧会	建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	＊高強度化多様化をめざして—	やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	＊●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観	感性の時代を迎えての外装材
平成3年（72集）	新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりII ●建築の風景	東海支部復活30周年記念	大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルにおけるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
平成4年（73集）	夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●郵政建築—今日から明日へ—（予定）	●建築家のための設備知識 ●東海特集（予定）									

日本建築協会

月間の動き

平成３年11月分

理　事　会

第２回常任理事会
27日　４時10分～４時45分　於本会会議室
出席者　佐野、鴻池正副会長ほか12名
議事　(1)「今後の住宅政策推進のための基礎的研究」受託の件
(2)協賛名義の件
(3)入退会者承認の件
(4)報告事項

編　集　委　員　会

第８回会員企画小委員会
５日　６時半～８時半　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか６名
議事　シリーズものの報告と掲載予定
第３回「21世紀の住まいを考えるシンポジウム」特集会議
６日　10時～12時　於本会会議室
出席者　上垣内正己氏ほか４名
議事　「21世紀の住まいを考えるシンポジウム」特集内容検討
第２回「建築家のための設備知識―III―」特集編集幹事会
７日　６時～８時　於本会会議室
出席者　北島章因特別幹事ほか６名、伊達幹事ほか３名
議事　「建築家のための設備知識―III―」特集執筆方針
第８回作品作風小委員会
７日　６時半～８時　於本会会議室
出席者　水川委員ほか３名
議事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定（本年度「新建築調査表」）
(3)「Gallery」内容報告並びに掲載予定
(4)誌面（「作品作風」欄・「スケッチブック」欄）の検討
「郵政建築―今日から明日へ―」座談会
13日　３時～９時
出席者　大久保久能（建築研究所 ALSEC 主宰）、澤良雄（アトリエ・サワ主宰）、中川理（平安女学院短期大学）、観音克平・山本晃・山内一正・垣内晃（近畿郵政局）、ほか郵政局１名
●浪速郵便局およびメルパルク見学会　３時～５時
●座談会　５時半～７時半　メルパルク「シャンボールの間」
●懇親会　８時～９時　メルパルク「桂の間」
第８回編集委員会
14日　６時～７時半　於本会会議室
出席者　溝神委員長ほか２名
議事　(1)11月号「第38回青年技術者」・「建築と土木―構造技術の世界―」特集経過報告
(2)12月号「タフでスリムなコンクリート」・「21世紀の住まいシンポ」特集経過報告
第８回広告企画小委員会
26日　４時～５時半　於本会会議室
出席者　溝神宏至朗ほか６名
議事　(1)11月号「青年技術者」・「建築と土木（構造篇）」特集広告経過報告
(2)収支状況報告
第３回「建築家のための設備知識―III―」特集編集幹事会
27日　６時～９時　於本会会議室
出席者　押田忠明（日建設計）、日根東治（安井建築設計事務所）、中野　格（東畑建築事務所）、中村秀夫・林　守（関西電力）、中村秀行・三輪美保（大阪ガス）、伊達幹事ほか４名
議事　特集原稿執筆の方針と調整
第６回構造分科会
28日　６時～８時　於本会会議室
出席者　角幹事、野村委員
議事　(1)「構造の頁」の企画
(2)構造特集の企画

事　業　委　員　会

第５回若い会員の集い小委員会
５日　６時半～10時　於本会会議室
出席者　三好副委員長ほか５名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の企画について
第５回広報小委員会
６日　６時半～８時10分　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか７名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第１分科会からの報告と検討
(3)第２分科会からの報告と検討
第５回見学会小委員会
14日　６時～７時45分　於本会会議室
出席者　南副委員長ほか10名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定
(4)今後の見学会の候補について
第１回東欧建築研修旅行分科会
19日　７時～10時　於本会会議室
出席者　米井主査ほか２名
議事　東欧建築研修旅行分科会の今後のスケジュールについて
第５回事業委員会
21日　１時半～３時　於本会会議室
出席者　多井委員長ほか３名
議事　各小委員会からの報告と検討

建　材　委　員　会

第６回委員会
13日　３時半～５時半　於本会会議室
出席者　金井委員長ほか７名
材料説明：フェローデッキ（鉄筋組込捨型枠）
担当／小幡委員
議事　(1)今後の検討建材
(2)今後の「新建材紹介コーナー」掲載予定
日本ペイント新本社・工場見学会
22日　10時～４時　参加者22名

出　版　委　員　会

第７回委員会
21日　５時～６時　於本会会議室
出席者　山田副委員長ほか８名
議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定について
(3)プロのノウハウ講座シリーズについて

教　育　委　員　会

第37回工高生デザインコンクール表彰式
16日　２時～５時　於本会会議室
設計課題：「景勝地に建つ駅」
出席者　中川審査委員長ほか２名
片倉・和田教育正副委員長ほか２名

講演会・見学会

大阪国際平和センターをめぐる風景
――シーラカンス作品展・講演会――
作品展
12日～17日　11時半～７時半　於ソニーサロン
参加者1,212名
講演会（含、見学会）
16日　２時～５時　於大阪国際平和センター
参加者155名（内、招待10名）
九州話題建築見学会
29日～30日　参加者35名
見学先
・ネクサスワールド　・西部ガスミュージアム
・熊本県営保田窪第一団地　・熊本北警察署
・熊本市営新地団地A　・八代市立博物館

GALLERY・MA 講演ビデオ映写会

25日　６時半～８時半　於本会会議室
宮本　忠長「小布施の詩」
北川原　温「横たわる円錐」
参加者　６名

建　築　ク　ラ　ブ

第235回朝食会
12日　８時半～10時　於大阪グランドホテル
演題「誤解の多い森林資源問題」
講師　佐治　成男氏（日刊木材新聞社大阪支社長）
役員会
28日　12時～13時　於本会会議室
出席者　塚本代表ほか７名
議事　(1)建築クラブ新年宴会開催について
(2)３月以降のスピーカーについて
(3)平成４年度の会費などについて

建築関係団体合同忘年懇親会

第２回実行委員会
22日　４時～５時半
於大阪建築士事務所協会会議室
出席者　高武実行委員長ほか10名
議事　'91建築関係団体合同忘年懇親会について

新年のご挨拶
1992
設計事務所有志

株式会社
A.R.I 建築事務所
代表取締役所長　亀　井　晃　治

本社事務所　大阪市中央区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)
テレファックス(06)768-1406
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL(0743)73－6137
アリックスタイムスクェア　大阪市中央区谷町7-3-4-105　新谷町第3ビル・1F　TEL(06) 764－1089

株式会社 伊東建築設計事務所
代表取締役　岡　本　清　彦

〒556 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)646-0161(代)

株式会社 伊藤建築設計事務所
代表取締役社長　鋤　納　忠　治

本　　社　名古屋市中区錦3丁目3-6(日経錦別館)　電話〈052〉951-1110
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町五番地二(第2日成ビル)　電話〈03〉3294-6061

株式会社石本建築事務所
代表取締役社長　古　畠　誠　一
取締役大阪支所長　山　内　恒　男

本　社　〒102 東京都千代田区九段南4－6－12　電話03(3262) 7161
大阪支所　〒542 大阪市中央区島之内1-20-19(白水ビル)　電話06 (251) 7507代
支　所　札幌・名古屋・九州　　出張所　仙台・横浜

株式会社 泉沢建築設計事務所
代表取締役　泉　沢　哲　史

〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号　TEL(06)543-2281(代)

URABESEKKEI 株式会社 浦辺設計
URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT
代表取締役　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530　電話 06(341)1680
東京事務所　電話 03(3263)9758　岡山事務所　電話 0862(33)6010

株式会社 建設技術センター

代表取締役会長　福永薫
代表取締役社長　坂井茂信

〒532 大阪市淀川区西中島5丁目7－17－602　TEL (06) 304－1148㈹

株式会社 小西設計

取締役会長　小西岬
取締役社長　橋本正章

本社　大阪市西区立売堀1丁目12番16号　電話 (532)4051代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3－3(大木ビル内)　電話(3256)9301代表
広島事務所　広島市中区小町3番3号（原田ビル）　電話 (246)0144

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役副社長　林唯夫

本社　〒550 大阪市西区新町1－5－7　四ッ橋ビル　Phone 06－532－3421
東京　〒107 東京都港区赤坂3－12－5　赤坂田町ビル　Phone 03－3583－2086
神戸　〒651 神戸市中央区八幡通4－2－17　郵船航空ビル　Phone 078－251－0651

住鋼エンジニアリング株式会社

代表取締役会長　湯浅武夫
代表取締役社長　川瀬清十郎

大阪市福島区福島7丁目17番16号
TEL 06－451－8618
FAX 06－451－8605

株式会社 AAA（スリーエース）総合設計

代表取締役社長　浅井潤一

大阪市中央区東心斎橋1丁目6番27号（朝日プラザ心斎橋東ビル2F）〒542　TEL 06(243)7300

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

〒530 大阪市北区末広町３番21号　新星和扇町ビル　ＴＥＬ（06)312－3587㈹

株式会社 大建設計

取締役社長　吉田　周

大阪市西区京町堀１丁目13番20号 大建設計大阪ビル　電話06－449－6800㈹
東京・横浜・名古屋・京都・福岡・北九州・札幌・仙台・広島

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄2丁目6番1号(白川ビル別館)　〒460 TEL052-202-1241(代表)
東京事務所　東京都中央区築地4丁目7番4号(築地ファーストビル)　〒104 TEL03-3248-0474(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　山口幸治

本　社　〒541 大阪市中央区高麗橋４丁目７番６号　電話　06-202-3626㈹
支　社　〒103 東京都中央区日本橋馬喰町２丁目１番１号　電話 03-3663-1765㈹
（住友銀行浅草橋ビル4階）

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社 大阪事務所　大阪市中央区伏見町４丁目４番10号 電話 (06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号（永田町ビル）電話(03)3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル)　電話(052)571-8471
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1（福岡センタービル）電話(092)472-8737

株式会社 日建設計

取締役社長　薬袋公明

〒541 大阪市中央区高麗橋４丁目６番２号
電話　06-203-2361(大代表)

日積工務株式会社

代表取締役　生島道春

本　　社　〒540 大阪市中央区谷町3－1－9（MG大手前ビル）　TEL(06) 944—2755代表
SSDセンター　〒554 大阪市此花区島屋4－2－7（島屋ビジネス・インキュベータ）　TEL(06) 466—7736代表
東京支所　〒110 東京都台東区台東4－14－8（シモジン・パークビル）　TEL(03)3836—1271代表
日積設計監理㈱　〒542 大阪市中央区東心斎橋1－10－7（市川ビル）　TEL(06) 245—7685代表
㈱京都日積　〒602 京都市上京区今出川通室町東人今出川町333番地(第2高橋ビル)　TEL(075)441－5690

株式会社 林設計事務所

取締役会長　林　茂
代表取締役　見波永造

大阪事務所　〒531 大阪市北区長柄中3丁目1番8号　電話（06） 351—6831
和歌山事務所　〒646 和歌山県田辺市稲成町東皆代231番地の6　電話（0739） 22—8227

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長　佐野正一
取締役社長　椚座正信

本　社　大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話 06(943)1371(大代)



復興60周年　大阪城天守閣

新年のご挨拶
1992
建設業者有志

株式会社 **あめりか屋**

取締役会長 前野慶太郎

〒530 大阪市北区中之島四丁目3番25号 電話 (06) 444－1501

株式会社 **淺沼組**

取締役社長 淺沼禎夫

本社・大阪本店 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話 06(768)5222
東京本店 東京都中央区築地六丁目19番20号 電話03(3248)1800
名古屋支店 名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号 電話052(571)5571
支店 札幌・仙台・横浜・広島・福岡

空間に新しいエナジー

ANDO **安藤建設**

取締役社長 長澤光一　取締役支店長 飛岡宏佳

本社 東京都港区芝浦3丁目12－8 電話(03)3457－0111(代)
大阪支店 大阪市福島区福島6丁目3－21 電話 (06)453－2190(代)

商業・建築・設計・施工

株式会社 **イトイ大建**

一級建築士事務所

代表取締役 糸井寅雄

本社 〒537 大阪市東成区東中本2丁目4番21号 TEL(06)971-5171～5
営業所 〒132 東京都江戸川区平井7丁目31番19号 TEL(03)3610-5171(代)

IMANISHI

株式会社 **今西組**

取締役社長 今西壽雄

本社 大阪市天王寺区上本町6丁目6番23-309号 電話06 (779) 3361
支店 東京都新宿区内藤町1番地 電話03(3354) 0581
営業所 京都・奈良・西宮・神戸・埼玉



大之木建設株式会社

取締役社長　大之木晴樹
支社長　稲葉登

本社　呉市中央3丁目12番4号　電話 0823(26)1511番
支社　広島市中区本川町3丁目1番5号　電話 082(231)5244番
支店　東京都港区麻布台2丁目2番12号 三貴ビル4F　電話 03(3585)3655番
〃　福岡市城南区神松寺2丁目13番24号　電話 092(863)7171番



株式会社大林組

取締役会長　大林芳郎
取締役社長　津室隆夫

東京本社　東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 03 (3292)1111番
本店　大阪市中央区北浜東4番33号　電話 06 (946) 4578番
支店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州



株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06) 621-1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)3404-8111(大代表)
支社　東京・大阪
支店　札幌・仙台・浦和・横浜・千葉・新潟・名古屋・神戸・広島・高松・北九州・福岡



鹿島建設株式会社

代表取締役社長　宮崎明
常務取締役 大阪支店長　小島雄

本社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区阿波座1－3－15　電話 06 (536)3311(大代)



海原建設株式会社

代表取締役　海原壹一

〒530 大阪市北区梅田1丁目2番2－300号(大阪駅前第2ビル3F)　電話06(346)1900番



株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(415) 2 8 0 0 (代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田・三田

共立建設株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　加藤毅夫

支　店　大阪市中央区内本町2丁目2番5号　TEL 06－942－2491（代表）
FAX 06－942－2498
本　社　東京都渋谷区道玄坂1丁目16番10号　TEL 03－3461－6141（代表）

株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　熊谷太一郎
常務取締役 大阪支店長　磯俣敏行

本　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03(3260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06（352)1151番(大代表)

コーナン建設株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308－1551大代表
東京都中央区京橋3丁目13番10号(中島ゴールドビル)　電話（03)3564－5711代表
神戸市中央区磯上通5丁目1番24号　電話（078)221－6293代表

公成建設

代表取締役社長　絹川治

本　社　〒600 京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-341-0501
大阪支店　〒531 大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎ 06-375-1121
東京営業所　〒141 東京都品川区上大崎3－3－9－215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453 名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 鴻池組

代表取締役社長　鴻池一季

本　社
大阪本店　大阪市中央区北久宝寺町3丁目6番1号　電話大阪06（244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話東京03(3296)7700(ダイヤルイン受付台)
支　店　神戸・京都・四国・横浜・名古屋・北陸・広島・山陰・九州・南九州・東北・北海道

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06（779）7731㈹
FAX 大阪06（779）7133
関東支店　〒350-02 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492（87）0301
FAX 埼玉0492（87）0300

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤嘉剛　専務取締役大阪支店長 大寺高男

本　社　東京都中央区日本橋本町4-12-20　電話 東京(3661)1231(大代)
大阪支店　〒541 大阪市中央区北浜1丁目1番6号　電話 大阪 (203)7221(代表)

SIMON
OSAKA/TOKYO/VANCOUVER

人にやさしい環境づくり

才門建設株式會社

代表取締役　才門正男

本社　大阪府岸和田市下野町3丁目10番25号 〒596
☎ (0724)38-2121(代)　FAX (0724)23-3681
支店　東京・神戸　営業所　大阪・堺・和歌山

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本　社　大阪市淀川区加島1丁目55番6号　電話 06(301)6636
支　店　東京都荒川区東日暮里4丁目10番10号　電話03(3891)8871
支　店　京都市右京区西院高田町31番地1　電話075(311)8897

SHMZ

清水建設株式会社

社　長　今村治輔
常務取締役 大阪支店長　久保力

本　社　東京都港区芝浦1－2－3　電話03(5441)1111
大阪支店　大阪市中央区本町3－5－7　電話06 (263)2811
支　店　横浜・千葉・名古屋・神戸・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　田鍋健

本　社　〒530 大阪市北区中之島6丁目2番27号(中之島センタービル)　☎06 (446)3111
東京支社　〒160 東京都新宿区西新宿1丁目6番1号 (新宿エルタワー)　☎03(3346)6500

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長 錢高一善

本　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号
大阪(06)531－6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京(03)3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・広島・四国・九州

大成建設株式会社

TAISEI

取締役社長　里見泰男
取締役大阪支店長　市川正美

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル TEL東京(3348)1111大代表
大阪支店　大阪市中央区北浜3丁目7番12号　ＴＥＬ大阪(203)1131大代表
支　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国

限りない未来への挑戦

大日本土木株式会社

専務取締役大阪支店長　牧野保

大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話 06 (341) 5211
東京本社　〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町２丁目35番地　電話 03 (3268)5511

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541 大阪市中央区本町４丁目１－13　電話 大阪 (252) 1201番(大代表)

人のためのNextech

鉄建建設株式会社大阪支店

専務取締役支店長　安藤昭太郎

〒541 大阪市中央区瓦町３丁目３番７号 電話06 (201)1881(代表)
〒101 本社・東京都千代田区三崎町２丁目５番３号 電話03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
常務取締役大阪支店長　西川秀信

本　社　東京都中央区京橋１丁目７番１号 TEL東京03(3562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町１丁目13番47号 TEL大阪06 (531)6095
支　店　東京・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

東海興業株式会社

TOKAI

専務取締役支店長　服部信哉

本　社　東京都中央区八重州１－１－６ 電話 東京(5200)５１１１
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348) ５６０２
支　店　名古屋・東北・札幌・九州・横浜・広島

飛島建設株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　傳田勲郎

大阪市中央区島町2－2－21　〒540　TEL 06（942）2481
本社/東京都千代田区三番町2　〒102　TEL 03（3263）3151
支店/札幌・東北・東京・横浜・名古屋・北陸・大阪・広島・四国・九州

南海建設株式会社

取締役社長　芝谷昭

本　社　大阪市浪速区難波中3丁目5番19号　電話 06（644）7809番
東京支店　東京都千代田区神田須田町1丁目5（新須田町ビル）　電話 03（3251）8431番
岸和田支店・和歌山支店　営業所　堺・泉佐野・橋本・神戸・枚方・京都南・西宮

西松建設

代表取締役社長　柴田平
取締役関西支店長　宗澤修郎

本　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03（3502）0211
関西支店　大阪市中央区釣鐘町2－4－7　電話06（942）1131

株式会社 日興

NIKKO
CORPORATION NIKKO

取締役会長　平本俊秋
取締役社長　平本俊友

本　社　広島市中区国泰寺町1丁目8番4号　電話（082）244－2111番

日本建設株式会社

NIHON
KENSETSU

取締役社長　積山吉興

大阪本社　大阪市中央区備後町1丁目6番15号　TEL（06）226-0630（代表）
東京本社　東京都文京区小石川2丁目6番22号　TEL（03）3818-6081（代表）
支　店　東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

野村建設工業株式会社

取締役社長　野村文英

本　社　大阪市中央区高麗橋2丁目1番2号　電話（226）9502代表
東京本部　東京都中央区日本橋堀留町2丁目1番3号　電話（3249）1413代表



長谷工 コーポレーション

取締役副社長　中　村　俊　雄

大阪市中央区平野町４丁目２番18号　電話　06(203)1500



株式会社フジタ 大阪支店

専務取締役
支店長　宮　塚　隆　義

大阪支店　大阪市北区堂島２丁目１番16号　電話06(348) 4510
本　　社　東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目6番15号　電話03(3402)1911



不二建設株式会社

取締役社長　山　口　慎　一　郎

大阪本社　大阪市中央区農人橋１丁目１番22号 〒540　電話０６－９４６－２　２　４　１
FAX０６－９４６－２　３　１　７
東京本社　東京都新宿区西新宿４丁目５番２号 〒160　電話０３－3377－５１７１代表
FAX０３－3374－２　２　１　７
札幌・名古屋・福岡・ロスアンゼルス・仙台・静岡・大垣・京都・広畑・広島



不動建設株式会社

取締役社長　式　村　　健

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話　０６（２０１）１１２１番
東京本社　東京都台東区台東１丁目２番１号　電話　０３（3831）９１１１番
支　　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州



株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤　木　鐵　三

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1-3-9　☎ 06-944-1468代　本支店　大阪・東京・倉敷・京都・四国・福岡
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23－4　☎03-3357-1600代　営業所　埼玉・大宮・多摩・横浜・静岡・名古屋・宇治・泉南・神戸・岡山・広島・徳島・新居浜・松山・長崎・南九州



前田建設工業株式会社 大阪支店

取締役支店長　吉　田　　鍾

支　店　大阪市都島区東野田町２丁目４番20号　電話 大阪（353）７８９１（代表）
本　社　東京都千代田区富士見２丁目10番26号　電話 東京（3265）５５５１（代表）

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄吾

本社・大阪本店　大阪市北区天満2丁目1番33号　電話 大代表 大阪(353) 1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支店　名古屋・札幌・東北・広島・福岡・神戸・京都

株式会社 道田工務店

MICHIDA

代表取締役　道田泰平

本社・兵庫県川西市中央町18番21号　電話0727(57)9777番

三井建設 株式会社 大阪支店

取締役支店長　杉山慎一

大阪支店　大阪市中央区本町4－4－25(本町三井ビル)　TEL 06－243－3411
本店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL 03－3864－3456

海と陸の明日を拓く技術のムラズミ

村角建設株式会社

代表取締役社長　土山喜代士

本店　大阪市住之江区浜口西2丁目12-9　TEL 06—675—8101
支店　北海道・東京・神戸

望月建設株式会社

代表取締役社長　望月小太郎

本社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　電話 大阪 (375) 2345(代表)

株式会社 森組

取締役社長　森幸彦

本社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　電話201－2761(代)
支店　東京・東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　甲府・滋賀・京都・和歌山・紀泉・西宮・松山・徳島・熊本

保存と
開発に
取り組む…

総合建設業
株式会社 安井杢工務店
代表取締役 安井洋太郎
本　社 〒617 京都府向日市上植野町御塔道42
TEL (075)933—0012㈹ FAX (075)933—4931

株式會社 米田工務店
代表取締役会長 米田良男
代表取締役社長 米田高明
本　社 〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)779-2676代表

YSC
寄神建設株式会社
取締役社長 寄神美好

本　社	〒652	神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3121
東京支店	〒103	東京都中央区日本橋茅場町1—6—12	☎03—3668—1871
横浜支店	〒231	横浜市中区翁町1—6—4（新翁ビル）	☎045—681—5085
名古屋支店	〒456	名古屋市熱田区森後町8—27	☎052—681—8661
大阪支店	〒551	大阪市大正区三軒家東4—1—18	☎ 06—552—2551
姫路支店	〒672	姫路市飾磨区須賀294(姫路ポートセンタービル)	☎0792—35—7748
九州支店	〒812	福岡市博多駅前1-15-20(日本団体生命ビル9F)	☎092—482—4300
営業所	岡山・四国・淡路・横須賀・北九州・広島・熊本		



新年のご挨拶
1992
団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 **大阪建築防災センター**

理事長　小西　岬

〒540 大阪市中央区南新町１－１－２（タイムスビル５Ｆ）　電話 06(943)7253

社団法人 **日本建築協会京都支部**

支部長　井手正己

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877

社団法人 **日本建築協会中国支部**

支部長　平本俊秋

〒730 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111

社団法人 **日本建築協会東海支部**

支部長　中島　一

〒460 名古屋市中区栄４丁目３－26(昭和ビル５階)　電話052(261)1451

社団法人 **日本建築協会和歌山支部**

支部長　北山　俊

〒640 和歌山市ト半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

創業37年

——もっとも信頼され、読まれている情報紙——

株式会社 **建設日報社**

代表取締役社主 重村 登龍

本　社　〒550 大阪市西区靱本町2－5－2 TEL 06(444)2405-9
別　館　〒550 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL 06(444)6431-4

株式会社 **日刊建設通信新聞社関西支社**

常務取締役関西支社長 向後 定男

大阪市西区京町堀1－6－23 エハラビル　電話 06(444) 4451代表
FAX 06(444) 4456
本社・東京都港区西新橋2－11－4　電話 03(3502)8581代表

大阪府耳順会

（大阪府建設ＯＢ会）

会長 山地 英雄（オオバ）
副会長 牧田 顯治（安井建築設計事務所） 名手 宏彦（ミサワホーム）
幹事 上野 勇（栗本建設） 白井 瑞夫（コーナン建設） 野村 昌史（松村組）
林 貞夫（鉄建建設） 兵本 宣弘（東急建設） 両国 寛（鴻池組）
会計幹事 松田 至弘（日本建築協会） 監事 辻田 幸治（矢崎総業）
連絡先 ㈳日本建築協会 ☎06－348－0635(松田)

会員の親睦と講演——————入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表 塚本 猛次
事務局 日本建築協会
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100 大阪駅前第3ビル21階
電話 (06) 348－0635 FAX (06) 348－0634

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤 孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351—5428(代)
FAX(06)351—5299

UMEHIKO

株式会社 梅彦

代表取締役社長 松永 嘉一郎

営業所 大阪市北区中崎西2丁目1番3号 電話 06 (312) 6171代
茨木工場 茨木市豊川3丁目1番6号 電話0726 (43) 5185代

OKUJU
スペース クリエイター

株式会社 オクジュー

取締役社長 奥 村 紘 行

本社 大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131 FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役 木 村 雅 秀

〒540 大阪市中央区内平野町3丁目2番11号 電話 06(941) 4 1 8 1(代)

クリヤマ株式会社

代表取締役会長 栗 山 芳 雄
代表取締役社長 米 内 勁 隆

本 社 大阪市淀川区西中島1丁目12番4号〒532 TEL. 06—305—2871大代表
東京支店 東京都渋谷区南平台町15番13号〒150 TEL. 03—3463—1841代表

特殊消火設備のパイオニア

koatsu 株式会社コーアツ (旧社名 高圧瓦斯工業株式会社)

取締役社長 野 副 泰 正

本社/大阪支社 伊丹市北本町1丁目310番地 電話0727(82)8562
東京支社 東京都千代田区九段南4丁目7番13号(大島ビル) 電話03(3265)7651
豊田営業所 豊田市大林町12丁目37番地 電話0565(26)1521

結露防止に卓効のある 湿度を調節する断熱建材

KFK

防火 防音 モクセン板 防腐 防虫

耐火野地材もあります。

神戸不燃板工業株式会社

〒673-05 兵庫県三木市志染町三津田 TEL (07948) 7—3121(代)

経験を基礎に新時代のニーズに応える

三精輸送機株式会社

代表取締役 太 田 昭 比 古

本 社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564 ☎ 06 (385) 5621 (代)
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の29の11 ☎ 03 (3356)5651
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地 ☎ 0773 (27) 1211
出張所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・福岡・沖縄

塩田工業株式会社

取締役社長　寶　来　駿　一

本　社　〒734　広島市南区東雲2－14－6　TEL(082)281-9161代表
FAX(082)286-8722
工　場　〒739-01　東広島市八本松町大字原字中横野沖郷4515番地　TEL(0824)29-0459
山口支店　〒744　下松市大字末武中146番地の28　TEL(0833)41-1125

よりよき環境へ技術で挑む――

株式会社 精研

クリーンルーム
実験動物室空調
設計施工

代表取締役社長　和田　正八郎
専務取締役(東京駐在)　大川　一善

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル)　電話06－768－5031(代)
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7F)　電話03－5689－2351(代)
四国営業所　徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜28－3(西谷ビル)　電話0886－85－0924(代)

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話(075)681－7221(代)
FAX(075)681－7224

タケチ工業ゴム株式會社

会長　武智義加
社長　大場幸夫

本　部　〒567 大阪府茨木市学園南町15番17号　☎0726－33－1331(大代表)
東京支店　〒102 東京都千代田区五番町10番2号(五番町センタービル)　☎03－3230－3761(代表)
高岡営業所　〒933 富山県高岡市赤祖父415番地2　☎0766－22－8313(代表)

株式会社 タジマ

東京営業本部　〒101 東京都千代田区岩本町3－11 電話(03)3866－6101
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1－10－5 電話(06)441－5951

田島ルーフィング株式会社

東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町3－11－14　電話(03)3862－8531
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀1－10－5・電話(06)443－0431

東亜印ルーフィング　日本工業規格表示許可工場 許可番号585038

東亜工業株式会社

建設省計振発
第５５号認可

東亜アスファルト防水事業協同組合

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂６丁目４番27号　電話0729－94－5682　ＦＡＸ0729－91－3172
東亜アスファルト防水事業協同組合　〒581 大阪府八尾市南太子堂６丁目４番27号
電話0729－91－1536　ＦＡＸ0729－23－6496
営業所　東京・名古屋・九州　　工　場　大阪・東京・和歌山

株式会社 同朋舎出版

代表取締役　今田　達

本　　社　京都市下京区中堂寺鍵田町２　☎(075)343-0621
四条分室　京都市中京区新町通四条上ル 小結棚町426西澤善ビル3F　☎(075)211-8546
大阪支店　大阪市中央区北久宝寺町2-1-7 本町和光ビル8F　☎(06) 271-5406
名古屋営業所　名古屋市中村区名駅5-4-14　花車ビル北館803号　☎(052)586-5064

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

取締役社長　岡田　敏

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町１－３－８（日生谷町ビル）電話(06) 943－6571㈹
東京本社　〒106 東京都港区六本木6-3（第一地所麻布ビル）電話(03)3497－2911㈹

naigai

コピーの綜合コンサルタント

株式会社 ナイガイ

代表取締役　木下　二三子

本　　社　大阪市西区京町堀1-17-16（スミトービル）　TEL(06) 443-2800
インテス営業所　大阪市西区西本町2-3-10（インテスビル）　TEL(06) 538-0377
御堂営業所　大阪市中央区本町4-1-13（御堂ビル）　TEL(06) 252-3906
横堀営業所　大阪市中央区高麗橋4-4-7（レナウンビル）　TEL(06) 202-5260
泉南営業所　大阪府泉佐野市松原１丁目５－３　TEL(0724)64-8158
本町営業所　大阪市中央区本町3-5-7（御堂筋本町ビル）　TEL(06) 263-2734

造園土木　　設計施工

株式会社 西川造園

〒573 大阪府枚方市北中振３丁目27番17号
TEL　0720－33－8998代

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　昭秀

本　　社　大阪市北区中津６丁目８番４号　電話 大阪(06)458－3628
支店・営業所　福岡・京都・神戸・天理・川西

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21(トーチ工法)

日新工業株式会社 大阪支店

日本アスファルト防水工業協同組合関西支部

東京本社　東京都足立区千住東２－23－４　☎(3882)2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町１丁目12番22号　☎(533)3191大代表

造園 設計 施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東2丁目6番17号 TEL. 0797－88－0501 FAX. 0797－88－0507

合理的な
三好式ガラス防煙垂壁『M式ツリコ』
製造発売元 **株式会社ミヨシ**

本社／〒730 広島市中区紙屋町2丁目2-38　☎ 082-248-0344
関西／〒646 奈良県磯城郡田原本町新町　☎ 07443-3-4431

三協アルミニウム工業株式会社代理店 日立化成工業株式會社代理店
立山アルミニウム工業株式会社代理店 新明和工業株式會社代理店
豊和工業株式會社代理店 近畿車輌株式会社 代理店
積層ユニット株式会社代理店 住友ゴム工業株式会社代理店

ムツミ産業

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町１丁目17番15号　電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・広島・小倉　　工　場：大津・竹原

建設環境金属製品の
UNION

株式会社ユニオン

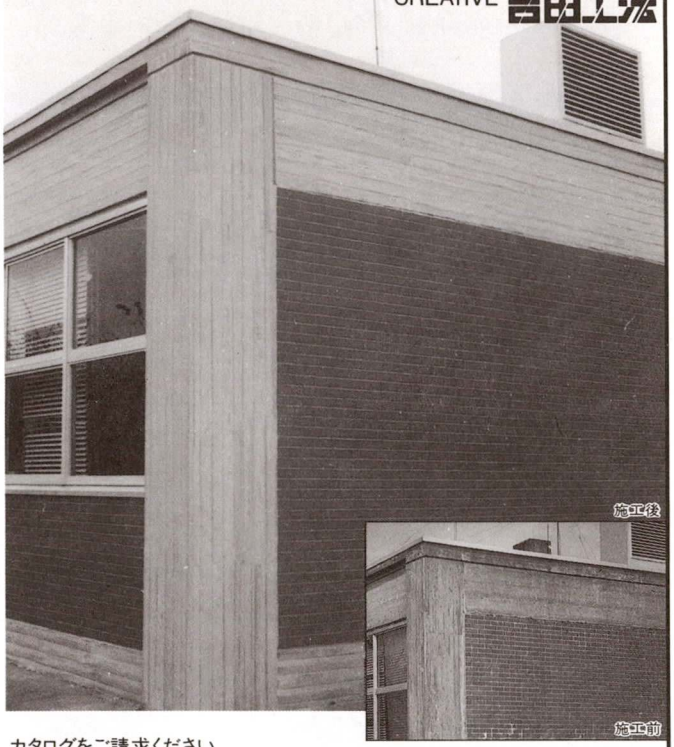
代表取締役　立野純三

本　　社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550 電話 06(532)3731(代)
東京支店　東京都江東区白河2—9—5　〒135 電話03(3630)2811(代)
名古屋営業所　名古屋市東区筒井町1-14-9　〒461 電話052(935)6021(代)
大阪ショールーム　大阪市西区京町堀1-17-16　〒550 電話 06(443)6620(代)



タイル復元。
超耐候性付与。

第1回・2回中小企業優秀新技術 新製品賞連続受賞
CREATIVE 吉田工法

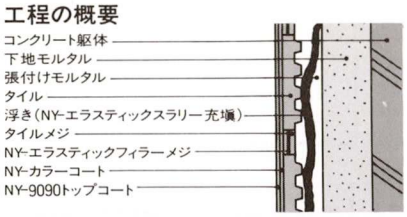


生まれ変わる美しい外壁タイル

外壁タイルの弱点を徹底的に追求し、その結果誕生した、吸収・柔軟・追従構造をもつトータルシステムです。劣化汚損した外壁タイルに強さと美しさを甦らせると同時に防水性と超耐候性を与え、さらに老朽化を防止。外壁タイル若返りシステムだけが可能とした画期的工法です。(PAT.P.)

●責任施工で10年間の保証付

工程の概要



超耐候性特殊弾性アクリルシリコン樹脂系仕上げ

外壁
タイル若返りシステム

カタログをご請求ください。

ニチエー吉田株式会社
本　社　〒435 静岡県浜松市上西町1314番地 ☎〈053〉464-2111 FAX〈053〉464-2117
営業所　東京 ☎〈03〉3718-7695　大阪 ☎〈06〉399-7958

好評発売中　錆汁特殊洗浄剤　ケミカルエースR・H

新刊 全国書店で好評発売中！

名画と遊ぶおもしろ音響学
音饗額 —名画に探る音の不思議—

「晩鐘」や「最後の晩餐」…。数々の名画の中で音はどう響いているのか？そんな疑問から、音響学者がおもしろく『音』を語る。

山下充康 著　B6判　152頁　税込定価1,600円

建築構造問題快答集15巻

実務の上で遭遇した疑問・難問に対して明快に回答する
——シリーズ第15巻完結編！

石黒徳衛 監修　A5判　316頁　税込定価4,000円

あと施工アンカー設計・施工読本
—初歩から応用まで—

あと施工アンカーを正しく活用するための設計・施工上のポイントを、多くの事例をまじえながら紹介した実務的な入門書となっています。

広沢雅也・松崎育弘編　A5判　256頁　税込定価3,500円

株式会社　建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL. 03-5371-3811 FAX. 03-5371-8282

建築技術者必携の専門誌
建築技術 2
1月18日 全国書店一斉発売
税込定価1,350円

●●●●● 特集 ●●●●●

いまだから知りたい 鉄筋継手のすべて

鉄筋継手にも時代の波が押し寄せてきています。構造的にあまり影響のない裏方的存在であったが、これからの建築構法のなかで主役になっていく可能性が高い鉄筋継手。「鉄筋の継手」から「部材の継手」へと、鉄筋継手に対する意識変化が求められようとしている時だからこそ、基本に立ち返りわかりやすくまとめてみました。

1. 鉄筋継手の現状と展望
設計上の問題点／技術の蓄積と進歩／建築施工環境の変化
2. 鉄筋を継ぐということ
重ね継手／ガス圧接継手／機械的継手／溶接継手
3. 鉄筋継手に見られる新たな展開
建築工法からの要望／最近の新しい試み
4. 鉄筋継手の現状と課題
各種建築工法における利用状況／検査方法／現行使用書調査／設計上の諸問題／国内外諸基準他
5. 鉄筋継手設計法を考える

■ 連載 ■
●住まいのアメニティ⑧ ～生理人類学からのメッセージ 居住空間のアメニティ
●地下水のはなし⑨ 根切りのために地下水処理が必要

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　　社　東京都港区浜松町１-25-７　電話(3434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島１-58-59　電話（302)2271(代)
支　　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営 業 所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満３丁目６番１４号
電話　０６－３６４－６６６１(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３-３２１１-８５１１(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市北区西天満５-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話（352）１１３１(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　**電話大阪(458)3628番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区域見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満４丁目６番18号　電話 06－363－1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・広島・福岡
営 業 所　札幌・京都・神戸・松江
出 張 所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル１，２階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－５０３１　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（０６）７６８－１６５１　代表
東京支店　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
郵便番号112　電話（０３）５６８９－２３５１代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

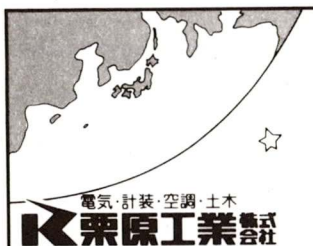
本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681) ５１０１～５・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町２－１１１　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町４０番３８号
電話 大阪 (384) 1201～７



自然環境を大切に
夢ある未来を
くりエイト！

電気・計装・空調・土木

栗原工業株式会社

本　社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101　FAX 06(315)0050

電気設備 ㊋ 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本　社　大阪市北区中之島３－２－４　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)０６６５　福岡出張所　TEL 福岡092(771)６１６８

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土 井 敏 裕

本　社　大阪市北区西天満２丁目６－８(堂ビル５階)
電　話　０６（３６１）３６７１(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町２丁目１７番３号
電　話　０３（３６６６）１４７８（代）
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関　西　支　社

専務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市中央区高麗橋４丁目3番7号　電話大阪（202)0325～９番
本　社　東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

――誠実と技術でお応えする――

住友電設株式会社

取締役会長 代 谷 正 元
取締役社長 相 馬 一 男

本社/〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)537-3400(大代)　東京/〒105 東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)3454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事	●設備工事		●プラント工事
配変電設備工事	ビル電気設備工事	空調工事	●情報システム工事
架空送電線工事	工場電気設備工事	給排水衛生工事	光伝送システム工事
地中送電線工事	防爆電気設備工事	特殊配管工事	CATVシステム工事
土木工事	計装工事	消防施設設備工事	各種アンテナ装置工事

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 秀 一

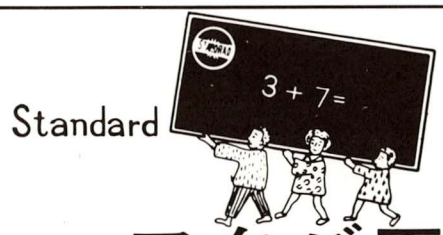
本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL 03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL 078(881)5571・FAX 078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　〒550 大阪市西区西本町１－13－33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町 50



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547　大阪市平野区加美北3－4－5　TEL 大阪06(792)5858(代)



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

ND
JAPAN ELECTRIC TYPESETTING CO.,LTD.

■情報処理　■編集・企画　■印刷・製本

日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1-7-23
TEL.06(357)1803㈹　FAX.06(357)4950

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)０７０１
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

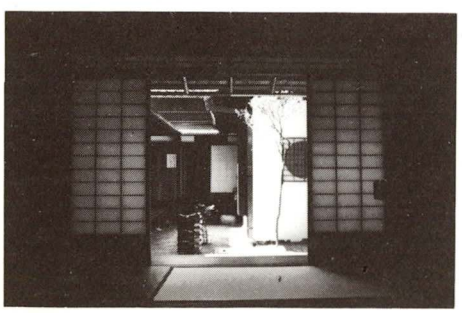
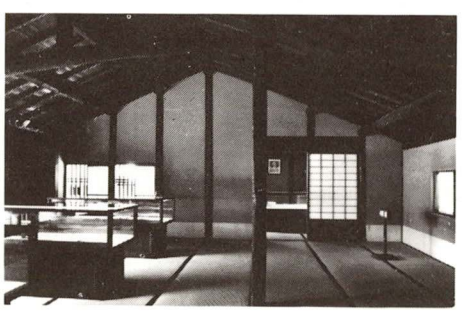
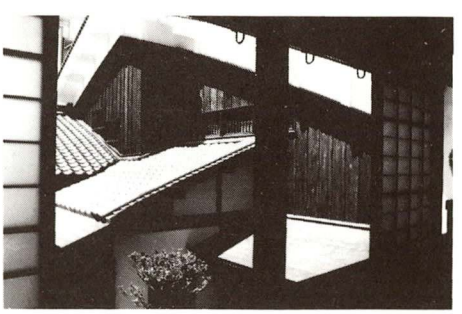
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

株式会社トーゴー
TEL 滋賀・守山(０７７５)８３－２３８１

テトカッパー防水層

カッパー防水帯――――――コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703代 FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081－2FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TY Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1－3－8（日本生命谷町ビル）
TEL（06）943－6571（代）

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(STL)
・オリエンタルメタル(OPM)
・鋼板製オリエンタルフネンシングル
・オリエンタルオリセラム
・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。

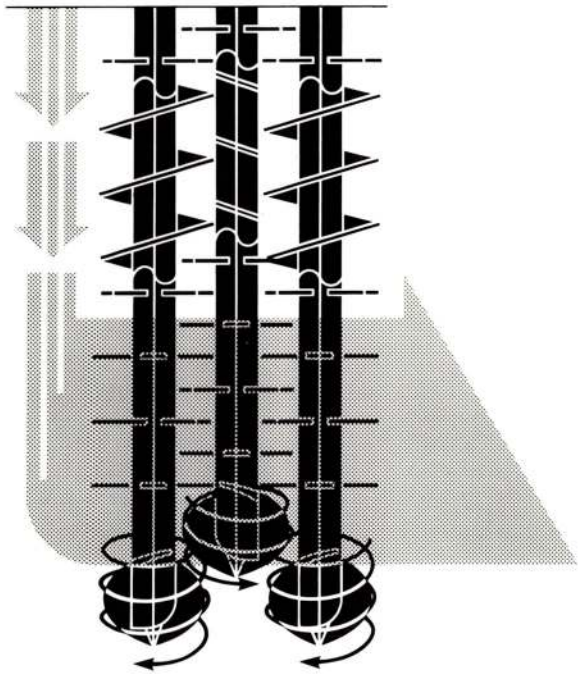


大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660 尼崎市昭和南通り3－26　電話大阪(06)412—5131代
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・姫路
東京本社及工場　〒335 蕨市塚越5丁目6番32号　電話 蕨(0484)42—3115代
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

わが国最大のソイルセメント
地中連続壁施工
実績を有する画期的遮水性土留壁工法



ソイルセメント地中連続壁
S.M.W.工法

平成２年度　科学技術庁長官賞受賞

すばらしい実績（平成３年６月現在）

施工実績　930万山留㎡
最深度実績　GL-66m

●山留め専門会社

成幸工業株式会社

本　社　大阪市西区阿波座1丁目13-13　☎ 06－531－8801
東京支店　東京都千代田区神田岩本町2　☎ 03－3251－3911
営業所　札幌・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄
サンフランシスコ・パリ・バンコク・台北

連続傾床型自走式Ⓡ　PAT. 1283044号
PAT. 1432695号

駐車場ビル　設計
施工

時代のニーズは自走式

■日本一の建築実績と豊富なノウハウ。
■収容台数が多く、経営効率が良い。
■スムーズ駐車、運転ラクラク。
■1台当りの建設コストが安い。
■中柱のないロングスパン方式。
■無人料金管理システム。



PHOTO：4階5層250台収容

駐車場の建設で、車社会に貢献する

大井建興株式会社

本　社　〒460 名古屋市中区栄1丁目31番41号……TEL.052(221)8441
東京支店　〒141 東京都品川区西五反田2丁目29番5号 日幸ビル……TEL.03(3494)1611
大阪支店　〒530 大阪市北区堂山町1番2号 豊田ビル……TEL.06 (312)6831
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅前3丁目5番7号 博多センタービル……TEL.092(411)4331
広島支店　〒732 広島市南区大須賀町14番12号 第1ビル……TEL.082(263)0531
仙台支店　〒980 仙台市青葉区一番町1丁目4番1号 福田ビル……TEL.022(223)0911

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635　FAX06(348)0634
振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円 消費税二九円 送料共）